

元総社蒼海遺跡群(145)

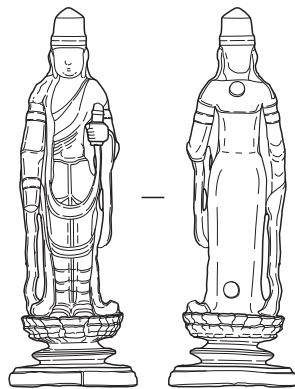
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（145）

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



P-1号ビット出土小金銅仏 (S=1/2)

2 0 2 1. 3

前橋市教育委員会



調査区西側全景（南東から 左奥に浅間山、右奥に榛名山）



調査区全景（合成写真 上が北）



小金銅仏出土状況（南から）



0 1 : 1 5cm

P - 1号ピット出土小金銅仏

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(145)は古代上野国の中核地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、牛池川左岸に広がる古墳時代、平安時代の集落跡が見つかりました。また、多数のピットが検出され、その中のひとつからは、小金銅仏が出土しました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和3年3月

前橋市教育委員会
教育長 吉川 真由美

例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う「元総社蒼海遺跡群（145）」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 発掘調査および整理作業の体制は以下の通りである

遺跡名　　元総社蒼海遺跡群（145）（前橋市 0142 遺跡）

遺跡コード　　2 A 261

遺跡所在地　　群馬県前橋市総社町総社 3583、3587 - 1

監理指導　　小峰 篤（前橋市教育委員会）

発掘調査・整理作業担当　佐野良平（技研コンサル株式会社）

発掘調査期間　　令和2年11月4日～令和2年12月25日

整理・報告書作成期間　　令和3年1月4日～令和3年3月25日

発掘調査・整理作業参加者

大川明子 丸山和浩（技研コンサル株式会社）

芦川良紀 新井 實 安藤三枝子 飯島由夫 石川承子 稲敷美枝子 上沢公一 宇貫美代子

大畑吉司 岡部四朗 岡本陽一 小田切幹緒 梶澤 泉 鎌田 昇 小林 和 坂庭孝代 桜田正人

佐藤文江 杉田友香 須田勝美 関根信子 曾根 裕 高見壽美子 立川千栄子 田所順子 土屋利治

中島三郎 平井国栄 星野一江 細野竹美 堀越英行 正木祐子 真下かほる 松井 勝 森田恵子

水野さかゑ 吉浦英和

3 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆についてはIを小峰、他を佐野が担当した。

4 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

5 下記の諸氏・諸機関に有益なご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

池田敏宏 伊藤俊治 斎藤明日乃 松澤樹生 水落建哉 元総社公民館 山下工業株式会社

凡　　例

1 挿図中に使用した北は座標北であり、座標については日本測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。

2 揿図に国土地理院発行1/25,000『前橋』、前橋市発行1/2,500 都市計画図を使用した。

3 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。

4 遺構名称は次のとおりである。

　　竪穴住居跡：H　竪穴状遺構：T　道路状遺構：R　溝・堀跡：W　井戸：I　土坑：D　ピット：P

5 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

　　遺構　竪穴建物跡、竪穴状遺構、溝跡、井戸、土坑、ピットほか・・・1/30、1/60、1/100

　　全体図・・・1/250、1/100

　　遺物　土器・・・1/1、1/3、1/4　　瓦・・・1/6　　鉄・銅製品・・・1/1、1/2

　　石製品・・・1/1、1/4

6 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

7 遺構図・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。



目 次

卷頭図版1

卷頭図版2

はじめに

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査方針と経過	8
1 調査範囲と基本方針	8
2 調査経過	8
IV 基本土層	8
V 遺構と遺物	9
1 住居跡	9
2 壺穴状遺構	12
3 道路状遺構	13
4 溝・堀跡	13
5 井戸	13
6 土坑	13
7 ピット	14
8 採掘坑跡	14
9 牛池川崖線	14
VI まとめ	49

写真図版

抄録・奥付

挿図目次

Fig.1 遺跡の位置	1	Fig.18 調査区全体図（1）	27
Fig.2 周辺遺跡図	3	Fig.19 調査区全体図（2）	28
Fig.3 周辺調査地点とグリッド設定図	7	Fig.20 調査区全体図（3）	29
Fig.4 基本土層	8	Fig.21 調査区全体図（4）	30
Fig.5 蒼海城縄張図	14	Fig.22 調査区全体図（5）	31
Fig.6 調査区全体図	15	Fig.23 遺構断面図（1）	32
Fig.7 H-1号住居跡	16	Fig.24 遺構断面図（2）、土坑（1）	33
Fig.8 H-2・3号住居跡	17	Fig.25 土坑（2）	34
Fig.9 H-3・4・6・7 ・9・12~14・17号住居跡	18	Fig.26 土坑（3）	35
Fig.10 H-4・5号住居跡	19	Fig.27 土坑（4）	36
Fig.11 H-5~7号住居跡	20	Fig.28 土坑（5）、ピット	37
Fig.12 H-7・8号住居跡	21	Fig.29 出土遺物（1）	37
Fig.13 H-9・12・13・17号住居跡	22	Fig.30 出土遺物（2）	38
Fig.14 H-10・11号住居跡	23	Fig.31 出土遺物（3）	39
Fig.15 H-14~16号住居跡	24	Fig.32 出土遺物（4）	40
Fig.16 T-3~5号堅穴状遺構	25	Fig.33 出土遺物（5）	41
Fig.17 R-1号道路状遺構、I-1~3号井戸	26	Fig.34 小金銅仏部位名称	50

表目次

Tab.1 周辺遺跡一覧表	3	Tab.5 土坑計測表	42
Tab.2 元総社遺跡群遺跡一覧表	4	Tab.6 ピット計測表	43
Tab.3 溝・堀跡計測表	42	Tab.7 出土遺物観察表	46
Tab.4 井戸計測表	42	Tab.8 群馬県内出土の金銅仏（奈良・平安）	52

写真図版

- PL.1 調査区西側全景、調査区東側全景
- PL.2 H-1全景、H-1カマド1全景、H-1カマド2全景、H-1貯蔵穴全景、H-2全景、H-3全景、
H-3カマド全景、H-4全景
- PL.3 H-4カマド全景、H-5全景、H-5カマド全景、H-5カマド遺物出土状況、H-6全景、H-7全景、
H-7掘り方全景、H-7遺物出土状況全景
- PL.4 H-7カマド全景、H-7貯蔵穴全景、H-8全景、H-8カマド全景、H-9全景、H-10全景、H-10カマド全景、
H-11全景
- PL.5 H-12全景、H-12カマド全景、H-12カマド遺物出土状況、H-13全景、H-13カマド全景、H-14全景、
H-15全景、H-16全景
- PL.6 T-3全景、T-4全景、T-5全景、R-1全景、W-10~14全景
- PL.7 W-1~5・7・9全景、W-6全景、W-8全景、I-1全景、I-2全景、I-3全景、D-9全景、
D-10全景
- PL.8 D-11・12全景、D-15全景、D-17全景、D-20・35全景、D-26・49全景、D-30全景、D-40・67全景、
D-43・68全景、
- PL.9 D-46全景、D-75・76・82・98・99全景、ピット群全景、採掘坑跡全景、作業風景
- PL.10~12 出土遺物

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、22年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和2年9月30日付で前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年10月27日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査着手に至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（145）」（遺跡コード：2A261）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「（145）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。



Fig. 1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

元総社蒼海遺跡群（145）は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約3.6kmの地点、前橋市総社町地内に所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道17号高崎前橋バイパス、主要地方道前橋・安中・富岡線が東西にそれぞれ走っている。

本遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は3～5mを測る。遺跡が立地する周辺域は前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、主に畠地として利用されていた。近年、元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

2 歴史的環境

本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

（1）縄文時代 八幡川右岸の微高地上に産業道路東〔14〕・産業道路西〔15〕、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域〔21〕・元総社小見Ⅲ遺跡・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

（2）弥生時代 当該期の遺跡は日高遺跡〔16〕〔17〕・上野国分僧寺尼寺中間地域・正觀寺遺跡〔20〕などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間C軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

（3）古墳時代 利根川右岸の地域は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳〔7〕・愛宕山古墳〔8〕・宝塔山古墳〔9〕・蛇穴山古墳〔10〕などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺〔4〕が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王廃寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49～56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」範囲の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成9～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡〔23〕・元総社北川遺跡・総社閑泉明神北IV・V遺跡などで水田跡が確認されている。

（4）奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔13〕では県



Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	元総社蒼海遺跡群 (145)	11	遠見山古墳	21	上野国分僧寺・尼寺中間地域	31	堰越遺跡	41	大渡道場遺跡
2	上野国分寺跡	12	稲荷山古墳	22	北原遺跡	32	堰越II遺跡	42	大渡道場II遺跡
3	上野国分尼寺跡	13	元総社小学校校庭遺跡	23	元総社明神遺跡 I ~ XIII	33	大友屋敷II・III遺跡	43	稲荷塚道東遺跡
4	山王廃寺跡	14	産業道路東遺跡	24	閑泉橋遺跡	34	元総社寺田遺跡 I ~ III	44	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡
5	東山道（推定）	15	産業道路西遺跡	25	閑泉橋南遺跡	35	元総社早道乙遺跡	45	大屋敷遺跡I ~ VI
6	日高道（推定）	16	日高遺跡	26	塙田村東遺跡	36	弥勒遺跡・II遺跡	46	村東遺跡
7	王山古墳	17	日高遺跡	27	寺田遺跡	37	元総社落合遺跡	47	国分境遺跡・II・III遺跡
8	愛宕山古墳	18	中尾遺跡	28	天神遺跡・II遺跡	38	西部第一落合遺跡群 (1)	48	元総社西川遺跡
9	宝塔山古墳	19	鳥羽遺跡	29	天神III遺跡	39	元総社稻葉遺跡	49	上野国分寺参道遺跡
10	蛇穴山古墳	20	正觀寺遺跡 I ~ IV	30	屋敷遺跡・II遺跡	40	大友宅地添遺跡	50	元総社蒼海遺跡群

下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）・（127）・（136）、上野国府等範囲内容確認調査28・33・34トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡〔34〕では「國府」・「曹司」・「國」・「邑厨」などの墨書き土器や人形が出土している。元総社明神遺跡では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡〔24〕や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）・（134）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面硯や綠釉陶器、巡方（腰帶具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

推定国府域の南方では高崎市浜川町周辺からN-64°-E方向へ東山道（国府ルート）が延びると考えられている。前橋市域では平成28年度上野国府等範囲内容確認調査において2時期の両側側溝を持つ道路跡を確認している。鳥羽遺跡でも2条の道路跡が確認されている。日高遺跡では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成24年度から28年度にかけての第2期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で8世紀後半の住居跡内的一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では9世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では8世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が1基、元総社稻葉遺跡〔39〕では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が2基確認されている。

（5）中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長六年（1601）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。

Tab. 2 元総社遺跡群遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
-	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	古墳～平安：住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構ヶ、中世：堀跡（蒼海城） ◇繩文土器（前期）・綠釉・灰釉・盤・こね鉢・鉄鎌・鉄鋸・腰帶具・椎ヶ
-	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・大溝・土坑墓・中世以降：土坑墓・道路状遺構 ◇灰釉・盤・高盤・鉄鎌・埴輪
-	元総社蒼海遺跡群（3）・元総社小見畠遺跡	2005	縄文：住居跡・古墳・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構・中世：畠跡 ◇繩文土器（前～後期）・灰釉・円面硯・椎ヶ・紡錘車・墨書「墓」・土鍾
-	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡・古墳・奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構 ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・盤・鉄鉢形土器・飾金具・墨書「連」ヶ・紡錘車・土鍾・白玉・石製模造品
-	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構・周溝状遺構・土坑墓・火葬墓 ◇暗文坏・板碑・管玉・白玉
-	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	古墳：砂岩採掘坑・奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・鍛冶遺構・区画溝・中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓 ◇灰釉・鉄鎌
-	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	平安：住居跡・大溝・砂岩採掘坑・中世：大溝 ◇灰釉・羽口・埴輪
-	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	古墳・奈良・平安：住居跡・中世以降：道路状遺構 ◇綠釉・灰釉・三足土器・灯明具・鉄鎌・鉄鏹・勾玉
-	元総社蒼海遺跡群（9）（10）	2006	縄文：住居跡・古墳：住居跡・堅穴状遺構・飛鳥：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・大溝・砂岩採掘坑 ◇繩文土器（中期～晚期）・迷生土器（中期）・灰釉・鉄鎌・小札・鉄鎌・紡錘車・土鍾・石製模造品・埴輪
-	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳～平安：住居跡・堅穴状遺構・中世：堀跡（蒼海城） ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・暗文坏・土鍾・勾玉・白玉
-	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳・奈良・平安：住居跡・中世以降：土坑墓 ◇灰釉・暗文坏・鉄鎌
-	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡・古墳・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・道路状遺構・大溝・中世：土坑墓 ◇繩文土器（前期）・綠釉・灰釉・馬具・鉄鎌・鉄釜ヶ・紡錘車・鬼瓦
-	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡・畠跡・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：堀跡（蒼海城）・堅穴状遺構 ◇灰釉・暗文坏 [国庁A案推定域]

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
-	元総社蒼海遺跡群(15)	2008	奈良・平安：住居跡、中世：土坑墓 ◇灰釉・灯明具
-	元総社蒼海遺跡群(16)	2008	奈良・平安：住居跡、畠跡 ◇灰釉・盤
-	元総社蒼海遺跡群(17)	2008	古墳：住居跡、堅穴状遺構・区画溝・平安：住居跡、中世：土坑墓 ◇繩文土器（前期）・弥生土器（後期）・灰釉・灯明具
-	元総社蒼海遺跡群(18)	2008	平安：住居跡、中世以降：土坑墓 ◇灰釉・盤・鉗子カ・青磁（12c）
-	元総社蒼海遺跡群(19)	2008	古墳：水田跡 ◇木製舟形容器
-	元総社蒼海遺跡群(20)	2008	古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡、堅穴状遺構・道路状遺構、中世：土坑墓 ◇繩文土器（前～後期）・灰釉陶器・盤・須恵器「壺G」・暗文坏・灯明具・鐵鎌・腰帶具・鬼瓦 【国庁A案推定域・国分尼寺南辺含む】
-	元総社蒼海遺跡群(21)	2009	奈良・平安・大溝・中世：堀跡（蒼海城）・盛土状遺構・方形堅穴 ◇灰釉・白磁（12c）・青磁（15c）【国庁B案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(22)	2009	古墳・飛鳥：住居跡、平安：住居跡、堅穴状遺構・道路状遺構カ ◇灰釉・暗文坏・洗（大形盤）カ・灯明具・鐵鍵
-	元総社蒼海遺跡群(23)	2009	古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡、大溝・中世：堀跡（蒼海城） ◇白磁（15c）・青磁（13～15c）・天目茶碗【国庁B案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(24)	2009	縄文：住居跡・古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡、堅穴状遺構・中世：方形堅穴・道路状遺構 ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・盤・竪形土器・腰帶具・鐵鎌・紡錘車・土鍬・青磁（14c）
-	元総社蒼海遺跡群(25)	2009	古墳・平安：住居跡 ◇灰釉・鐵鎌・青白磁梅瓶（12～14c）【国庁A案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(26)	2009	飛鳥・奈良：住居跡・平安：住居跡・堅穴状遺構・土坑墓・中世：堀跡（蒼海城） ◇縦軸・灰釉・円面鏡・盤・高盤・暗文坏・紡錘車・鐵鎌・腰帶具・土鍬・墨書「大館」
-	元総社蒼海遺跡群(27)	2009	古墳・住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・堅穴状遺構・中世：堀跡（蒼海城）・方形堅穴 ◇繩文土器（前～晚期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・鐵鎌・羽口・燈輪
-	元総社蒼海遺跡群(28)	2009	古墳・住居跡・大溝・奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・中世：堀跡（蒼海城）・方形堅穴 ◇繩文土器（前～晚期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・鐵鎌・馬具・紡錘車・羽口・埴輪
-	元総社蒼海遺跡群(29)	2009	古墳～平安：住居跡・中世以降：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡・地下式坑・土坑墓・火葬跡 ◇灰釉・鐵鎌・鐵滓 【国庁B・C案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(30)	2009	古墳・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬跡 ◇繩文土器（前・中期）・鐵鎌
-	元総社蒼海遺跡群(31)	2009	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・堅穴状遺構 ◇繩文土器（前期）・灰釉・鐵鎌 【国庁A案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(32)	2010	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・大溝カ・土坑墓・中世：堀跡（蒼海城）・方形堅穴・土坑墓 ◇高盤・こね鉢・鐵鉢形土器
-	元総社蒼海遺跡群(33)	2010	古墳・粘土採掘坑・飛鳥・奈良：住居跡・平安：住居跡・大溝カ・土坑墓・中世：堀跡（蒼海城）・方形堅穴・土坑墓 ◇高盤・こね鉢・鐵鉢形土器
-	元総社蒼海遺跡群(34)	2010	奈良・平安：住居跡・中世以降：堀跡（蒼海城）・堅穴状遺構 ◇灰釉・暗文坏・羽口・紡錘車
-	元総社蒼海遺跡群(35)	2010	縄文：住居跡・古墳・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・掘立柱建物跡・中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓 ◇縄文土器（前期）・灰釉・高盤・盤・畿内産暗文坏・鐵斧・鐵鑿カ・紡錘車・墨書「田」「天」（明天文字）
-	元総社蒼海遺跡群(36)	2010	古墳・畠跡・平安：住居跡・水田跡・大溝・砂岩採掘坑・中世：堀跡（蒼海城） ◇灰釉・盤・灯明具・鐵鎌・埴輪・板碑 【国庁B案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(37)	2011	古墳・飛鳥：住居跡・平安：住居跡・堅穴状遺構・土坑墓・中世：堀跡（蒼海城） ◇繩文土器（後期）・弥生土器（後期）・灰釉・こね鉢・灯明具・權カ・鐵鎌・弓箭カ・馬具・羽口・鐵滓・炉壁・紡錘車・土鍬・耳環・白玉・石製模造品 【国庁A・D案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(38)	2012	古墳・住居跡・堅穴状遺構・砂岩採掘坑・前方後方周溝墓カ・土器集積・水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構・中世以降：堀跡（蒼海城） ◇大溝 ◇灰釉・高盤・盤・畿内産暗文坏・鐵斧・鐵鑿カ・紡錘車・土鍬・小札・刀装具・馬具・腰帶具・鐵鎌・羽口・紡錘車・土鍬・切子玉・白玉 【国庁A・D案推定域含む】
-	元総社蒼海遺跡群(39)	2012	古墳・住居跡・平安：住居跡・土坑墓・中世以降：大溝 ◇弥生土器（前～中期）・灰釉・獸脚土器・灯明具・鐵鎌・鉗子カ・小札・刀装具・馬具・腰帶具・鐵鎌・羽口・紡錘車・土鍬・土鍬・耳環・白玉・刻書「☆（五芒星）・墨書「金」
-	元総社蒼海遺跡群(40)	2013	縄文：住居跡・古墳・飛鳥：住居跡・堅穴状遺構・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鐵冶遺構・道路状遺構 ◇繩文土器（前～後期）・灰釉・盤・圓面鏡カ・鐵鎌・腰帶具・紡錘車
-	元総社蒼海遺跡群(41)	2013	縄文：住居跡・古墳・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・堅穴状遺構・埋没谷 ◇繩文土器（前期）・青磁・奈良三彩・縦軸・灰釉（金付着）・盤・鐵鉢形土器・暗文坏・圓面鏡・須恵器「壺G」・灯明具・鐵鎌・鉄鎌・腰帶具・羽口・紡錘車・白玉・刻書「☆（五芒星）・墨書「金」
-	元総社蒼海遺跡群(42)	2013	（遺構なし）
-	元総社蒼海遺跡群(43)	2013	奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構 ◇高盤
-	元総社蒼海遺跡群(44)	2013	奈良・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(45)	2013	古墳・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・地下式坑 ◇三足土器・鐵滓・羽口 【国庁C案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(46)	2013	平安：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(47)	2013	中世：堀跡（蒼海城）・柱列跡
-	元総社蒼海遺跡群(48)	2013	縄文：住居跡・古墳・奈良：住居跡・平安：住居跡・堅穴状遺構・埋没谷 ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・高盤・盤・暗文坏・鐵鎌・鐵鎌・鐵鎌・鐵滓・紡錘車・白玉
-	元総社蒼海遺跡群(49)	2013	平安：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(50)	2013	縄文：住居跡・奈良・平安：住居跡 ◇灰釉
-	元総社蒼海遺跡群(51)	2013	古墳・奈良：住居跡 ◇盤・暗文坏
-	元総社蒼海遺跡群(52)	2013	（遺構なし）
-	元総社蒼海遺跡群(53)	2013	古墳～平安：住居跡 ◇灰釉・灯明具・紡錘車・石製模造品 【国庁D案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(54)	2013	（遺構なし）
-	元総社蒼海遺跡群(55)	2013	奈良：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(56) (61)	2013	古墳・方形周溝墓・住居跡・堅穴状遺構・奈良・平安：住居跡 ◇繩文土器（前・中期）・弥生土器（後期）・紡錘車
-	元総社蒼海遺跡群(57)	2014	中世：堀跡（蒼海城） ◇高盤・馬骨・青磁（15～16c）【国庁B案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(58)	2014	平安：大溝・中世：堀跡（蒼海城） ◇灰釉・温石 【国庁B案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(59)	2014	平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・方形堅穴
-	元総社蒼海遺跡群(60)	2014	古墳・住居跡・飛鳥：大溝・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城） ◇縦軸・灰釉（朱墨転用硯）・盤・圓面鏡・刀装具・鐵滓
-	元総社蒼海遺跡群(62)	2014	古墳：周溝墓
-	元総社蒼海遺跡群(63)	2014	古墳・平安：住居跡 ◇紡錘車・管玉・白玉
-	元総社蒼海遺跡群(64)	2014	奈良カ・製鉄炉・平安：住居跡・中世：方形堅穴・土坑墓 ◇鐵滓・炉壁 【国庁C案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(65)	2014	古墳・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城） ◇灰釉 【国庁C案推定域】
-	元総社蒼海遺跡群(66)	2013	古墳：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(67)	2013	古墳：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(68)	2013	奈良：住居跡・中世以降：方形堅穴
-	元総社蒼海遺跡群(72)	2013	平安：住居跡 ◇灰釉
-	元総社蒼海遺跡群(73)	2013	時期不明：道路状遺構
-	元総社蒼海遺跡群(74)	2014	古墳・平安：住居跡・中世：井戸
-	元総社蒼海遺跡群(75)	2014	平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城） ◇埴輪
-	元総社蒼海遺跡群(76)	2014	平安：住居跡 ◇灰釉・灯明具
-	元総社蒼海遺跡群(77)	2014	（遺構僅か）
-	元総社蒼海遺跡群(78)	2014	古墳・飛鳥・平安：住居跡・中世：井戸 ◇灰釉・埴輪・鐵鍵カ
-	元総社蒼海遺跡群(79)	2014	古墳～奈良：住居跡・平安：住居跡・土坑墓 ◇縦軸・灰釉・鐵鎌・樋・白玉・墨書「方」カ
-	元総社蒼海遺跡群(80)	2014	古墳～平安：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(81)	2014	古墳・方形周溝墓・住居跡・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構 ◇紡錘車・管玉・白玉・石製模造品
-	元総社蒼海遺跡群(82)	2014	古墳・平安：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(83)	2014	（遺構僅か）
-	元総社蒼海遺跡群(84)	2014	飛鳥：住居跡 ◇高盤
-	元総社蒼海遺跡群(85)	2014	飛鳥～平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城） ◇縦軸・灰釉・羽口
-	元総社蒼海遺跡群(88)	2014	時期不明：畠跡
-	元総社蒼海遺跡群(89)	2014	中世：堅穴状遺構
-	元総社蒼海遺跡群(90)	2014	中世：堅穴状遺構
-	元総社蒼海遺跡群(91)	2014	飛鳥～平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城） ◇灰釉・盤・金銅小仏
-	元総社蒼海遺跡群(92)	2014	（遺構なし）
-	元総社蒼海遺跡群(94)	2014	中世：堀跡（蒼海城） ◇鐵滓
-	元総社蒼海遺跡群(95)	2014	古墳・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝 ◇灰釉・灯明具 【国庁C案推定域】

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
-	元総社蒼海遺跡群(96)	2014	(遺構なし) [国庁C案推定城]
-	元総社蒼海遺跡群(97)	2014	平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）◇灰釉・灯明具・馬具
-	元総社蒼海遺跡群(98)	2014	中世：掘立柱建物跡 [国庁C案推定城]
-	元総社蒼海遺跡群(99)・上野国府等範囲内容確認調査33・34トレンチ	2015	奈良・平安：掘込地業建物跡 [国庁C案推定城]
-	元総社蒼海遺跡群(100)	2014	古墳：周溝墓、飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・道路状遺構 ◇繩文土器（晚期）灰釉・鉄滓・埴輪
-	元総社蒼海遺跡群(101)	2014	◇繩文土器（後期）・灰釉・槍鉗カ
-	元総社蒼海遺跡群(102)	2015	中世：堀跡 ◇灯明具 [国庁B案推定城]
-	元総社蒼海遺跡群(103)	2015	繩文：住居跡、古墳～平安：住居跡 ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・盤状坏・灯明具・「有鍔台付鉢」
-	元総社蒼海遺跡群(116)	2016	繩文：住居跡、古墳～平安：住居跡 ◇繩文土器（前・中期）・灰釉・「那波郡朝倉」郷名墨書瓦・銅製錫杖頭
-	元総社蒼海遺跡群(117)	2016	飛鳥：住居跡・奈良・平安：区画溝
-	元総社蒼海遺跡群(118)	2016	平安：住居跡・土坑墓・中世以降：粘土採掘坑 ◇灰釉・国分寺鬼瓦・鉄鎌
-	元総社蒼海遺跡群(120)	2016	平安：掘立柱建物跡 ◇繩文土器（前期）
-	元総社蒼海遺跡群(121)	2016	飛鳥：住居跡・奈良・平安：区画溝・土坑墓 ◇貝塚穴痕軟質泥岩
-	元総社蒼海遺跡群(122)	2016	古墳：堅穴状遺構、飛鳥・奈良：住居跡・平安：住居跡・掘込地業建物跡・堅穴状遺構・中世：道路状遺構・堀跡（蒼海城）・土器跡（蒼海城）◇綠釉・灰釉・円面鏡・馬具・鉄鎌・紡錘車・土鍤・白玉・刻畫「泰」・墨書「國」カ「代」カ
-	元総社蒼海遺跡群(123)	2016	繩文：住居跡、古墳～平安：住居跡・中世：堀跡 ◇繩文土器（中期）・綠釉陶器
-	元総社蒼海遺跡群(124)	2017	中世：堀跡（蒼海城）・土器（蒼海城）◇埴輪・火打金
-	元総社蒼海遺跡群(126)	2017	平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）・土壘（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(127)	2018	古墳：住居跡・奈良・平安：基壇建物跡
-	元総社蒼海遺跡群(128)	2018	古墳：住居跡・島跡・炉跡・平安：水田跡 ◇鉄滓
-	元総社蒼海遺跡群(129)	2018	中世：堀跡（蒼海城）◇繩文土器（中期）・綠釉陶器
-	元総社蒼海遺跡群(130)	2018	平安：住居跡・土坑墓・中世：堀跡（蒼海城）◇白磁・青磁
-	元総社蒼海遺跡群(131)	2018	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：堀跡（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(135)	2019	中世：堀跡（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(136)	2019	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・基壇建物跡・布地業建物跡・掘立柱建物跡・中世：堀跡（蒼海城）◇八稜鏡・五花鏡・素文鏡・鉄鎌・雁又鏡
-	元総社蒼海遺跡群(137)	2019	中世：堀跡（蒼海城）
-	元総社蒼海遺跡群(138)	2019	奈良・平安：住居跡・道路状遺構
-	元総社蒼海遺跡群(139)	2019	古墳：住居跡・奈良：道路状遺構、平安：住居跡・道路状遺構 ◇灰釉・畿内系暗文坏・鉄滓
-	元総社蒼海遺跡群(141)	2020	古墳：住居跡・平安：住居跡・土坑（土壤墓）・中世：堀跡 ◇灰釉・青磁・小金剛仏
-	元総社蒼海遺跡群(145)	2020	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・道路状遺構・中世：土坑墓・火葬跡 ◇こね鉢カ・板碑
-	元総社蒼海遺跡群(17街区)	2015	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・道路状遺構・中世：土坑墓・火葬跡 ◇こね鉢カ・板碑
-	元総社蒼海遺跡群(75街区)	2015	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
-	元総社蒼海遺跡群(75街区)No.2	2020	古墳：住居跡・平安：住居跡・工房跡・中世：道路状遺構 ◇須恵器転用取瓶・埴輪・焼型（小金剛仏・三鈷杵・銅印）
-	元総社蒼海遺跡群(93街区)	2016	古墳：畠・粘土採掘坑・奈良・平安：住居跡・粘土採掘坑・中世：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡・繩文土器（中・後期）・灰釉・暗文坏・軸用鏡・紡錘車・铁滓
-	元総社蒼海遺跡群(94街区)	2017	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構 ◇繩文土器（中期）・綠釉・灰釉・圓底盤・白玉
-	元総社小見一遺跡	2000	繩文：古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構 ◇須恵器転用取瓶・埴輪・焼型・小金剛仏・三鈷杵・四耳坏・灯明具・鐵鏺・斧鉈・鉗子・墨書「市」・紡錘車・白玉
-	元総社小見II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：道路状遺構 ◇須恵器転用取瓶・埴輪・燒型（小金剛仏・三鈷杵・銅印）
-	元総社小見III遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世以降：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓 ◇繩文土器（中期）・綠釉・灰釉・暗文坏・圓底盤・白玉
-	元総社小見IV遺跡	2003	繩文：古墳～平安：住居跡・中世：道路跡 ◇繩文土器（中期）・灰釉・灯明具・鐵鏺・鐵鎌・弓筈カ・紡錘車・土鍤
-	元総社小見V遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：畠跡 ◇繩文土器（前～後期）・灰釉
-	元総社小見VI遺跡	2004	繩文：古墳～平安：住居跡 ◇繩文土器（前・中期）・綠釉・灰釉・水瓶・水瓶・鐵鏺・鐵斧・鐵鎌・鐵鏺・鐵鎌・腰帶具・紡錘車・椎カ・墨書「庄」
-	元総社小見内III遺跡	2001	弥生：住居跡・古墳：住居跡・飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・中世：掘立柱建物跡・方形窓穴・堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬跡 ◇繩文土器（中期）・綠釉・灰釉・盤・こね鉢・暗文坏・風字鏡・鐵鏺・火打金・鉗子・墨書「市」・紡錘車・白玉
-	元総社小見内IV遺跡	2002	飛鳥：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・堅穴状遺構・道路状遺構・道路状遺構・土坑墓 ◇堀跡（蒼海城）・土坑墓 ◇繩文土器（中期）・綠釉・灰釉・暗文坏・圓底盤・白玉
-	元総社小見内V遺跡	2003	古墳：飛鳥：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・堅穴状遺構・道路状遺構・砂岩採掘跡・中世：掘立柱建物跡 ◇灰釉・須恵器「壺G」・鐵鏺・白玉
-	元総社小見内VI遺跡	2003	繩文：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：方形窓穴 ◇高盤・こね鉢・暗文坏
-	元総社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・土器埋納坑 ◇灰釉・盤・灯明具・鐵鏺・鐵鎌・紡錘車
-	元総社小見内X遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・堅穴状遺構・土器埋納坑・中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡・道路状遺構 ◇繩文土器（晚期）・灰釉・金片・金粒
-	元総社草作遺跡	1984	飛鳥～平安：住居跡・◇繩文土器（中期）・高盤・腰帶具・白磁（15c）・青磁（13c）
-	元総社草作乍々遺跡	2002	古墳～平安：住居跡・粘土採掘坑・中世以降：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡 ◇白磁（11c～12c）・鐵鏺・白玉
-	元総社宅地遺跡1～8トレンチ	2000	古墳・平安：住居跡・◇紡錘車 [国庁D案推定城]
-	元総社宅地遺跡9～18・21トレンチ	2000	中世：堀跡（蒼海城）・方形窓穴 [国庁B案推定城]
-	元総社宅地遺跡19トレンチ	2000	中世：堀跡（蒼海城） [国庁C案推定城]
-	元総社宅地遺跡20トレンチ	2000	（遺構僅か） [国庁A案推定城]
-	元総社宅地跡22・23トレンチ・上野国府等範囲内容確認調査13トレンチ	2000・2012	古墳：住居跡・飛鳥～平安：住居跡（平安）・掘立柱建物跡（奈良）・大溝・道路状遺構 ◇獸脚土器
-	上野国府等範囲内容確認調査1～7トレンチ	2011	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡（平安）・大溝・道路状遺構 [国庁A案推定城]
-	上野国府等範囲内容確認調査8～11・13・14・28トレンチ	2012	古墳：住居跡・奈良（8c前半）：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘込地業建物跡 ◇石製模造品 [国庁C案推定城]
-	上野国府等範囲内容確認調査12トレンチ	2012	古墳・平安：住居跡
-	上野国府等範囲内容確認調査27トレンチ	2016	平安：住居跡・◇繩文土器・灰釉
-	上野国府等範囲内容確認調査28トレンチ	2016	古墳：住居跡・奈良・平安：掘込地業建物跡・平安：住居跡・掘込地業建物跡 ◇鉄滓
-	上野国府等範囲内容確認調査29トレンチ	2016	奈良・平安：大溝・中世：堀跡（蒼海城）◇墨書「夫」カ
-	上野国府等範囲内容確認調査40トレンチ	2017	奈良・平安：大溝
-	上野国分寺（上野国分寺寺域確認調査）	1969・1970・1999・2000	奈良：講堂跡・金堂跡・中門跡・東門跡・築地塀跡・住居跡・平安：住居跡
-	総社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・用水路カ・中世：畠跡 ◇綠釉・灰釉・勾玉・管玉
-	総社甲稻荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡・平安：住居跡 ◇綠釉・灰釉・鉄鎌・紡錘車・管玉・鉄滓
-	総社甲稻荷塚大道西III遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・畠跡 ◇綠釉・灰釉・石製模造品・紡錘車
-	総社甲稻荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳：畠跡・中世以降：道路状遺構・畠跡
-	総社閑泉光明神北遺跡	1999	古墳：水田跡・畠跡 ◇繩文土器（前～晚期）・灰釉・鉄滓・勾玉
-	総社閑泉光明神北II遺跡	2001	古墳・平安：住居跡 ◇灰釉・管玉
-	総社閑泉光明神北III遺跡	2002	繩文・古墳～平安：住居跡 ◇灯明具
-	総社閑泉光明神北IV遺跡	2002～2004	古墳：水田跡・畠跡
-	総社閑泉光明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
-	閑泉舎南遺跡	1983	古墳：住居跡・奈良・平安：大溝
-	閑泉舎南遺跡	1985	古墳：住居跡 ◇紡錘車
-	元総社北川遺跡	2002～04	繩文～弥生：旧河道・古墳：住居跡・水田跡・粘土採掘坑・旧河道・平安：住居跡・掘立柱建物跡・畠跡・中世以降：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓 ◇繩文土器（晚期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・暗文坏
-	元総社牛池川遺跡	2002～04	古墳：水田跡・土器集積遺構・中世：火葬跡
-	元総社中学校遺跡	2016	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡 ◇繩文土器（前・晚期）・綠釉・灰釉・鉄鎌形土器・三足土器・竈形土製品・「方光」鋸瓦・白玉
-	元総社北小学校遺跡	2020	弥生・古墳・平安：住居跡・平安：道路状遺構 ◇繩文土器・石磚・弥生土器・灰釉・綠釉・白玉・管玉

III 調査方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内であり、調査面積は1467 m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000、Y = - 72200.000を基点とする4 mピッチのものを使用した。なお経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系 測地成果2011）
X 280、Y 155	X = 43380.000 m、Y = - 71080.000 m	X = 43734.844 m、Y = - 71371.301 m

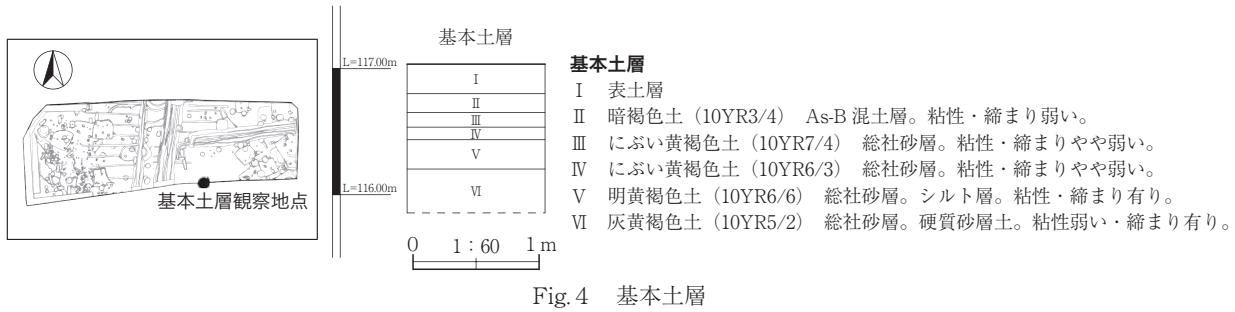
発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45 m³バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo 遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm判モノクロ・リバーサルフィルムと、デジタルカメラの3種類を用いて撮影を実施した。調査区全景撮影についてはドローンを用いて撮影を実施した。

2 調査経過

調査区内に排土置き場を設置する関係上、調査区を東西に二分し西側から着手した。西側の調査終了後、埋め戻したのち東側の調査へと移行した。調査経過については以下の通りである。令和2年11月4日、調査区西側から表土掘削を開始した。遺構確認作業も同時に開始。試掘調査時に調査区西端部で確認された性格不明遺構が牛池川へと下がる崖線であることが判明する。9日、調査区西側の表土掘削が終了する。作業員による遺構掘削開始。26日、調査区西側の全景撮影を行う。27日、調査区西側の全体測量。30日から調査区西側の埋め戻し作業開始。12月3日、埋め戻し完了、調査区東側の表土掘削に移行する。4日から作業員による遺構確認・掘削開始する。7日、調査区東側の表土掘削が終了する。18日、調査区西側の全景撮影を行う。同日完了検査を受ける。21日、調査区東側の全体測量。22日から25日まで調査区東側の埋め戻し作業を行い、25日に現地での作業を終了する。

IV 基本土層

基本土層は調査区中央南側の壁面にて観察を行った。As-B混土を含むII層土は調査区全域で確認された。特に調査区西側の牛池川崖線付近は地形が傾斜していることも影響して、他の箇所と比較して厚く堆積していた。III層以下は総社砂層である。覆土中にはAs-Bの純層やAs-C軽石を含んだ黒色土が確認できる遺構もいくつかみられる。



V 遺構と遺物

1 住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 7・29、Tab. 7、PL. 2・10)

位置 X275・276、Y157・158 主軸方向 N - 80° - E 規模 東西 3.52 m、南北 4.20 m、壁高 0.21 m。床面積 (17.5) m² 床面 地山床 重複 D - 13・14・16・21 と重複。本遺構が最も古い。カマド 2基確認。燃焼部の使用状況からカマド2からカマド1へと造り替えられている。カマド1：東南隅で確認。全長 1.76 m、燃焼室幅 0.75 m。住居跡軸に対して斜方向に延びる。燃焼室は橢円形状を呈し、煙道部へ向かって窄まっていく。燃焼室・煙道の底面はほぼ平坦で、住居跡床面と比較して若干下がる。燃焼室の底面には炭化物・灰が確認でき、側面上部は焼土化している。煙道部側面上部も同様に焼土化が認められる。カマド2：南西隅で確認。カマド1と同様に住居跡に対して斜方向に延びる。確認長 0.97 m、燃焼室幅 0.54 m。煙道部側壁と燃焼部底面が若干焼土化している。炭化物・灰は確認されず。貯蔵穴 東南隅で確認。平面形状橢円形で底面は平坦。位置関係からカマド1に付随する貯蔵穴と考えられる。柱穴 4基確認 出土遺物 須恵器羽釜(1)、壺(2)、鉄製鎌(3)を図示。1はカマド1内底面から出土している。時期 出土遺物の傾向から11世紀前半と推定される。

H-2号住居跡 (Fig. 8・29、Tab. 7、PL. 2・10)

位置 X275・276、Y157・158 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西 4.68 m、南北 4.45 m、壁高 0.17 m。床面積 19.1 m² 床面 地山床 重複 D - 36・37・38・57・65・71 と重複。本遺構が最も古い。カマド 東壁やや南側で確認。煙道部のみ残存する。確認長 0.70 m、燃焼室幅不明。煙道部側壁はやや焼土化し、底面は平坦である。貯蔵穴 確認できず 柱穴 2基確認 出土遺物 板状の鉄製品(1)を図示。その他に土師器・須恵器が少量出土している。時期 出土遺物の傾向から10世紀と推定される。

H-3号住居跡 (Fig. 8・9・29・30、Tab. 7、PL. 2・10)

位置 X285・286、Y156・157 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西 2.75 m、南北 3.69 m、壁高 0.17 m。床面積 14.6 m² 床面 地山床。中央部から北西側にかけて硬化面が広がる。重複 H - 4・6・9・12・13・17 と重複。本遺構が最も新しい。カマド 東壁中央で確認。煙道部は削平により消失。確認長 0.96 m、燃焼部幅 0.35 m。左袖に石(砥石転用品)を立て袖石としている。右袖には袖石は確認できず。燃焼室は橢円形を呈し、中央に支脚石を設置している。底面は住居跡床面とほぼ変わらず平坦である。貯蔵穴 位置関係から D - 78 が貯蔵穴と考えられる。柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器壺(1)、壺(2~5)、羽釜(6)、支脚石(7)を図示。支脚石は砥石として使用された転用品である。その他に土師器・須恵器が少量出土している。時期 須恵器壺の年代とその他の出土遺物の傾向から11世紀前半と推定される。

H-4号住居跡 (Fig. 9・10・24、PL. 2・3)

位置 X285・286、Y157 主軸方向 N - 87° - E 規模 南側が一部調査区外。東西 3.76 m、南北 (3.34) m、壁高 0.08 m。床面積 (14.2) m² 床面 カマド前面に硬化面が広がる。下位の遺構が重複する場所は暗褐色土を充填して貼り床とし、その他は地山床としている。重複 H - 3・6・12~14 と重複し、新旧関係は H - 6・12~14 → 本遺構 → H - 3 である。カマド 西壁中央で確認。確認長 (1.00) m、燃焼部幅 0.71 m。燃焼室手前の底面には炭化物・灰が広がり、燃焼室内の火床面には灰が僅かに散っている。煙道部側壁上部には被熱して焼土化した痕跡が確認できる。住居跡床面から煙道部へは緩やかに上っている。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 土師器・須恵器が少量出土している。時期 出土遺物が少なく重複関係のみで判断するしかないため、7世紀後半から10世紀代と年代幅が広い推定となる。

H-5号住居跡 (Fig.10・11・30、Tab. 7、PL. 3・10)

位置 X283・284、Y153・154 主軸方向 N - 88° - E 規模 北側が一部調査区外。東西 3.08 m、南北 (2.41) m、壁高 0.11 m。床面積 (12.4) m² 床面 地山床。カマド前から住居跡中央部にかけて硬化面が広がる。重複 D - 74 と重複し、新旧関係は本遺構→D - 74 である。カマド 東壁やや南側で確認。確認長 1.06 m、燃焼部幅 0.47 m。確認時には崩壊していたが総社砂層の切り石を用いて袖・焚口・燃焼室側面を構築している。崩落した切り石の下から瓦 (2・3) が出土している。この瓦も構築材であった可能性が考えられる。焚口天井部に用いられていた切り石は赤く被熱した状態であった。燃焼室手前から燃焼室内の底面には炭化物・灰が広がっている。燃焼室から煙道部にかけては緩やかに上っていく。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器坏 (1)、平瓦 (2・3) を図示。瓦はカマド内から出土している。時期 出土遺物の傾向から 10世紀と推定される。

H-6号住居跡 (Fig. 9・11・24・30、Tab. 7、PL. 3・10)

位置 X285～287、Y157 主軸方向 N - 34° - W 規模 南側の大部分が調査区外。東西 (4.35) m、南北 (2.76) m、壁高 0.31 m。床面積 (11.6) m² 床面 地山床 重複 H - 3・4 と重複。本遺構が最も古い。カマド 北壁で確認。確認長 0.27 m、燃焼部幅 0.37 m。袖・燃焼室は崩壊しており、周囲には焼土粒・炭化物が広がる。火床面有り。煙道部が短く住居跡外へと突出している。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 土師器坏 (1・2) を図示。時期 土師器坏と出土遺物の傾向から 6世紀後半と推定される。

H-7号住居跡 (Fig.11・12・22・24・30、Tab. 7、PL. 3・4・10)

位置 X285～287、Y155～157 主軸方向 N - 32° - W 規模 調査区外の東側部分は元総社蒼海遺跡群 (78)においてH-5として確認されている。東西 (5.51) m、南北 7.88 m、壁高 0.32 m。床面積 (28.4) m² 床面 カマド前から中央部にかけて硬化面が広がる。全体に暗褐色土を充填して貼り床としている。貼り床を除去すると本遺構より一回り小さい壁溝が現れた。状況からみて本遺構へ拡張する前段階の住居跡であると想定される。地山床とし中央部に硬化面もみられる。重複 H - 9・12、W - 10 と重複。本遺構が最も古い。カマド 北壁で確認。確認長 (1.15) m、燃焼部幅 1.07 m。煙道部は W - 10 により消失。袖は崩壊しており、基部が僅かに残存する。燃焼室には土師器甕の小片が散在している。貯蔵穴 カマド左脇で確認。平面形状長方形。深さ 0.57 m。柱穴 2基確認 出土遺物 土師器坏 (1・2)、甕 (3・4)、臼玉 (5) を図示。2は有段口縁坏である。時期 出土遺物の傾向から 6世紀後半と推定される。

H-8号住居跡 (Fig.12・30、Tab. 7、PL. 4・10)

位置 X283・284、Y155～157 主軸方向 N - 53° - E 規模 東西 4.01 m、南北 3.82 m、壁高 0.12 m。床面積 12.4 m² 床面 地山床 重複 D - 80・81・83・89～91・94・97 と重複。本遺構が最も古い。カマド 南東隅で確認。煙道部と燃焼室の一部は D - 83・91 により消失している。確認長 (0.76) m、燃焼部幅 0.40 m。両袖の心材には総社砂層の切り石を用いている。燃焼室中央に火床面が認められる。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 土師器坏 (1～4) を図示。時期 土師器坏の年代から 5世紀後半と推定される。

H-9号住居跡 (Fig. 9・13・24・31、Tab. 7、PL. 4・10)

位置 X285～287、Y155・156 主軸方向 N - 90° - E 規模 東側の一部が調査区外。東西 (4.39) m、南北 3.83 m、壁高 0.27 m。床面積 (3.1) m² 床面 総社砂層ブロックを含む暗褐色土を充填して貼り床としている。中央部に硬化面が認められる。西側 (H - 7 と重複しない場所) は地山床。重複 H - 3・7・12 と重複し、新旧関係は H - 7・12 → 本遺構 → H - 3 である。カマド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器坏 (1)、鉄製品 (2・3) を図示。2は釘、3は径が太く釘というよりはノミに近い印象を受ける。時期 出土遺物と重複関係から 9世紀後半と推定される。

H - 10号住居跡 (Fig.14・31、Tab. 7、PL. 4・11)

位置 X285・286、Y153・154 主軸方向 N - 88° - E 規模 北側が調査区外。東西 4.03 m、南北 (3.85) m、壁高 0.08 m。床面積 (14.7) m² 床面 地山床 重複 H - 16、D - 86・98・99 と重複し、新旧関係は H - 16 → 本遺構 → D - 86・98・99 である。カマド 東壁中央で確認。確認長 1.11 m、燃焼部幅 0.77 m。左袖には心材である総社砂層の切り石が崩壊しているものの 2つ立つ。火床は広く焼土化している。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器坏 (1)、転用紡錘車 (2) を図示。その他に土師器・須恵器・灰釉陶器、流れ込みと考えられる円筒埴輪片が出土している。時期 出土遺物と重複関係から 10世紀後半と推定される。

H - 11号住居跡 (Fig.14、PL. 4)

位置 X284・285、Y153・154 主軸方向 N - 87° - E 規模 南側が W - 11 により消失。東西 3.13 m、南北 (3.91) m、壁高 0.0 m。床面積 (10.9) m² 床面 地山床 重複 W - 11、D - 75・76・82 と重複。本遺構が最も古い。カマド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 土師器・須恵器が少量出土。時期 出土遺物が少なく判然としないが、重複関係から 9・10世紀代と推定される。

H - 12号住居跡 (Fig. 9・13・31、Tab. 7、PL. 5・11)

位置 X285・286、Y156・157 主軸方向 N - 34° - W 規模 大部分が他遺構と重複しているため、北壁からカマドにかけての範囲の検出となっている。東西 (1.83) m、南北 4.84 m、壁高 0.15 m。床面積 (9.2) m² 床面 地山床 重複 H - 3・4・7・9・17 と重複し、新旧関係は H - 17 → 本遺構 → H - 3・4・7・9 となる。カマド 南壁で確認。燃焼室から煙道にかけては攪乱により消失。確認長 (0.59) m、燃焼部幅 0.58 m。左袖・焚口天井・支脚に総社砂層の切り石を使用している。燃焼室は平面形状橢円形。中央に円柱状の支脚石が立つ。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 内斜口縁の土師器坏 (1・2)、管玉 (3) を図示。時期 出土遺物と重複関係から 5世紀後半と推定される。

H - 13号住居跡 (Fig.13・31、Tab. 7、PL. 5・11)

位置 X284～286、Y156・157 主軸方向 N - 73° - E 規模 東西 3.58 m、南北 3.58 m、壁高 0.37 m。床面積 11.0 m² 床面 地山床 重複 H - 3・4・14・17、D - 84・87・88・93 と重複し、新旧関係は H - 14・17 → 本遺構 → H 3・4、D - 84・87・88・93 となる。カマド 東壁やや南で確認。確認長 0.99 m、燃焼部幅 0.60 m。燃焼室は平面形状橢円形を呈し、床面より僅かに下がる。覆土中にはカマド構築材として使用された白色粘質土ブロックが含まれていた。貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 土師器坏 (1～6)、須恵器横瓶 (7) を図示。7は片側球形の胴部形態をもつ中容量の横瓶である(中村 2019)。

時期 出土遺物や重複関係から 7世紀後半と推定される。

H - 14号住居跡 (Fig.15、PL. 5)

位置 X283～285、Y156・157 主軸方向 N - 33° - W 規模 東西 8.04 m、南北 (4.97) m、壁高 0.19 m。床面積 (13.2) m² 床面 地山床 重複 H - 4・6・13、D - 80・81・84・85・88・93 と重複。本遺構が最も古い。カマド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 3基確認 出土遺物 土師器・須恵器が少量出土している。土師器は内斜口縁坏・模倣坏の小片が主体。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6世紀前半と推定される。

H - 15号住居跡 (Fig.15・31、Tab. 7、PL. 5・11)

位置 X282・283、Y154・155 主軸方向 N - 89° - W 規模 南側が W - 11 により消失。東西 2.53 m、南北 (2.55) m、壁高 0.11 m。床面積 (5.3) m² 床面 地山床 重複 W - 11・12 と重複。本遺構が最も古い。カマド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器塊 (1) と鉄製品 (2・3) を図示。かすがい 2は釘、3は鎌と想定される。時期 須恵器塊の年代から 10世紀代と推定される。

H - 16号住居跡 (Fig.15・24・31、Tab. 7、PL. 5・11)

位置 X286・287、Y153・154 主軸方向 N - 88° - E 規模 南西部のみ確認。東西 (2.60) m、南北 (3.55) m、壁高 0.28 m。床面積 (7.6) m² 床面 地山床 重複 H - 10、D - 86 と重複。本遺構が最も古い。カマド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 須恵器羽釜 (1) を図示。その他に土師器・須恵器・灰釉陶器が少量出土。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 10世紀前半と推定される。

H - 17号住居跡 (Fig.13)

位置 X285、Y156 主軸方向 N - 74° - W 規模 南西部のみ確認。東西 (0.70) m、南北 (1.24) m、壁高 0.10 m。床面積 (7.6) m² 床面 地山床 重複 H - 3・4・7・9・12・14 と重複。本遺構が最も古い。力マド 確認できず 貯蔵穴 確認できず 柱穴 確認できず 出土遺物 なし 時期 出土遺物がなく判然としないが、重複関係から 6世紀以前と推定される。

2 穫穴状遺構

T - 1号竪穴状遺構 (Fig.18・23、PL. 9)

位置 X273・274、Y156・157 主軸方向 N - 23° - E 規模 壁面は東側のみで確認。東西 (3.83) m、南北 (3.45) m、壁高 0.18 m。床面積 (6.7) m² 床面 地山床 重複 T - 2、D - 10 と重複。T - 2 とは覆土状況からの判別が難しく新旧関係不明。D - 10 とは本遺構→D - 10 である。出土遺物 土師器・須恵器が少量出土している。時期 重複する T - 2 と構成・覆土状況が近似するため同様の時期 (11世紀以前) と推定される。

T - 2号竪穴状遺構 (Fig.18・23、PL. 9)

位置 X273・274、Y156～158 主軸方向 N - 23° - E 規模 壁面は北・東側のみで確認。東西 (4.31) m、南北 (5.08) m、壁高 0.22 m。床面積 (16.5) m² 床面 地山床 重複 T - 1、I - 2、D - 40・41・67 と重複。T - 1 とは覆土状況からの判別が難しく新旧関係不明。その他は本遺構→I - 2、D - 40・41・67 である。出土遺物 なし 時期 本遺構と重複している D - 67 (本遺構より新しい) の覆土中に As-B が確認された。D - 67 が 12世紀初頭に帰属する遺構となれば、本遺構はそれ以前の 11世紀以前に推定される。備考 部分的に被熱し焼土化した床面が有る。炉跡か。

T - 3号竪穴状遺構 (Fig.16・31、Tab. 7、PL. 6・9・11)

位置 X273・274、Y155・156 主軸方向 N - 34° - E 規模 東西 4.63 m、南北 4.33 m、壁高 0.23 m。床面積 16.1 m² 床面 総社砂層ブロックを含む暗褐色土を充填し貼り床としている。中央部に硬化面が広がる。床面下 (掘り方) には総社砂層の採掘坑跡が確認できる。採掘坑が放棄された後に土砂を入れ床面を構築したと考えられる。重複 D - 20・23・35、採掘坑跡と重複し、新旧関係は採掘坑→本遺構→D - 20・23・35 である。出土遺物 灰釉陶器皿 (1)、須恵器坏 (2) を図示。その他に土師器・須恵器が少量出土している。時期 出土遺物の傾向から 11世紀前半と推定される。

T - 4号竪穴状遺構 (Fig.16、PL. 6)

位置 X277・278、Y155・156 主軸方向 N - 12° - E 規模 東西 (3.69) m、南北 3.44 m、壁高 0.37 m。床面積 (7.1) m² 床面 地山床 重複 T - 5、W - 1、D - 26・48～50・65 と重複し、新旧関係は T - 5 → 本遺構 → W - 1、D - 26・48～50・65 である。出土遺物 土師器・須恵器・灰釉陶器・炉壁小片が少量出土している。時期 出土遺物が少なく判然としないが 10世紀代と推定される。

T - 5号竪穴状遺構 (Fig.16、PL. 6)

位置 X277・278、Y155・156 主軸方向 N - 66° - W 規模 平面形状橢円形、断面擂鉢状を呈する。東西 (3.97) m、南北 (3.69) m、壁高 0.68 m。床面積 (1.1) m² 重複 T - 4、W - 1 と重複。本遺構が最も古い。

出土遺物 土師器・須恵器が少量出土している。 時期 重複関係から 10 世紀以前と推定される。

3 道路状遺構

R-1号道路状遺構 (Fig.17・31、Tab. 7、PL. 6・11)

位置 X279・280、Y153～158 主軸方向 N-6°-W 規模 硬化面の範囲を確認。硬化面の幅東西 0.42 m、確認長南北 (19.82) m。重複 W-2～4 と重複。本遺構が最も新しい。出土遺物 砥石 (1) を図示。その他に近世の陶磁器片が出土。 時期 重複関係と出土遺物の傾向から近世以降と推定される。 備考 本遺構は調査区北側の元総社蒼海遺跡群 (100) で認されている S F-1号道路状遺構と同一遺構である。

4 溝・堀跡 (Fig.15・18～24・31、Tab. 7、PL. 6・7・11)

南北に延びる W-2・4 と東西に延びる W-10・11 は位置状況から相関関係にあると考えられる (W-2 と W-10、W-4 と W-11)。溝同士の間には空白区間が有り、東西から延びる溝はこの場所で南側に L 字状に屈曲し行き止まる。出土遺物として下層から内耳鍋 (W-4-1、15 世紀)、上層から近世の陶磁器片が出土していることから、中世段階に開削され、近世以降に埋没したと推定される。遺構の性格として屋敷を区画する堀跡であると考えられる。

W-7 は元総社蒼海遺跡群 (100) で検出された S Z-1号方形周溝墓 (W-9・13 号溝) の周溝の一部である。覆土中には As-C 軽石を含む黒色土が堆積する。元総社蒼海遺跡群 (100) では方形周溝墓の時期を古墳時代前期としているが、本遺跡ではその時期に関係する遺物は出土していない。各遺構の計測値については「Tab. 3 溝・堀跡計測表」を参照のこと。

5 井戸 (Fig.17・32、Tab. 4・7、PL. 7・11)

3基確認。I-1 からは砥石 (1)、I-2 からは内耳土器 (1) を図示した。I-1・2 共、出土遺物の傾向 (内耳土器を含む) から中世に帰属すると推定される。I-3 は出土遺物が無かったが重複関係 (W-4 より新しい) から近世以降と推定される。各遺構の計測値については「Tab. 4 井戸計測表」を参照のこと。

6 土坑 (Fig. 7～10・12・14・18～28・32・33、Tab. 5・7、PL. 7～9・11・12)

全体で 100 基確認された。その中で特徴的なものについて詳細を述べたい。

調査区西側、牛池川崖線付近で確認された長方形の土坑の多くは人骨の出土から土壙墓であると考えられる。該当する土坑は D-7・9・11・12・15・17～19・27・30・32・41・46・67 である。D-11・15・32・67 からは人骨、D-46 からは人骨と歯、D-17 からは馬の骨と歯が出土している。埋納品として D-9 では須恵器坏 (1～5)、D-11 では銅鏡 (1・2)、D-15 では須恵器坏 (1)・刀子 (2)・管玉 (3)、D-46 では須恵器坏 (1) と釘 (2・3)、D-67 では銅鏡 (1・2) が出土している。土壙墓の年代は出土遺物の傾向や遺構が As-B 混土により被覆されている状況等から 10・11 世紀代と想定される。

調査区中央部・東側を中心に同じ規模の円形土坑が多く確認された。深さには違いはあるものの、直径 1～1.5 m、壁面は直立し底面は平坦という点は共通している。該当する土坑は D-20・22・24・25・29・43・47・55・62・63・68・69・73・74・76・77・79・80～82・84・86・88・92・94・95・97・98 の 28 基である。出土遺物は D-69 で須恵器瓶 (1) が出土している。円形土坑の時期は出土遺物の傾向、覆土状況から古代 (10 世紀代が主体) と想定される。同様の土坑は東に近接する元総社蒼海遺跡群 (78) でも確認されている。遺構の性格については不明である。

D-10・35・40 は前述の円形土坑に形状は似ているが、異なる点として底面にピット状の掘り込みがあるこ

とが挙げられる。これは柱のアタリ痕であり、D - 10 の断面観察からは柱の痕跡も確認できる。本遺跡の北側に位置する元総社蒼海遺跡群（9）（10）で桁行 10 間 × 梁行 3 間、桁行総長 28.2 m の大型建物跡が確認されている（1 号掘立柱建物跡）。柱穴の大きさが長軸 0.91 ~ 1.42 m 短軸 0.70 ~ 1.02 m を測り、柱痕底部にはアタリ痕がある。D - 10・35・40 はこの柱穴と同じ様相を呈していると考えられるが、この他に該当する柱穴（土坑）が無く、連続性が見られないことから建物の復元には至っていない。各遺構の計測値については「Tab. 5 土坑計測表」を参照のこと。

7 ピット (Fig.16・18 ~ 22・24・26・28・33、Tab. 6・7、PL. 9・12)

259 基確認。調査区南西側、牛池川崖線に集中して分布する。大部分が覆土に As-B 混土を含むことから中世段階のピットであると推定される。As-B 混土を含まない古代に分類されるピットは中世ピット群よりやや東側で少数確認できる。P - 1 は上層に総社砂層ブロックを含む暗褐色土、下層はそれに炭化物が混じる土層である (Fig.28)。下層からは須恵器坏（1）と小金銅仏（2）が出土している。1 は酸化焰焼成で口径 [10.4] cm、底径 [5.0] cm、器高 2.7 cm と、その特徴から 11 世紀前半と推定される。2 の小金銅仏の詳細については「VIまとめ 2 小金銅仏」に記載。P - 26 からは青磁塊（1、龍泉窯系 B 1 類）が出土している。各遺構の計測値については「Tab. 6 ピット計測表」を参照のこと。

8 採掘坑跡 (Fig.18・23、PL. 9)

調査区西側で確認された。牛池川崖線であるこの場所はやや硬質な総社砂層層位が露出していることから、それをターゲットとして採掘されたとみられる。長方形状に掘削された痕跡が多数確認できる。鋤のような工具で掘られたのだろうか、差し込まれた工具痕跡も確認できた。採掘坑の断面をみると V 字状や箱状のものが多いことから、角柱状に切り出されたことが想定される。採掘された石材は主にカマド構築材として使用されたと考えられ、本遺跡 H - 5・8・10・12 のカマドで確認されている。なお T - 3 はこの採掘坑跡を埋めて床面を構築している。T - 3 の年代を 11 世紀前半としていることから、採掘坑跡の年代は 10 世紀代以前と推定される。

9 牛池川崖線

調査区西側で南西方向に向かって落ち込む傾斜確認し、牛池川崖線沿いであると想定した。本遺跡の北側に位置する元総社蒼海遺跡群（9）（10）でも確認されている。牛池川は河川改修が行われるまでは川幅が狭いことから氾濫を繰り返していたようである。県内の城郭研究の第一人者である山崎一氏が現地形を基に作成した蒼海城縄張図によれば、本遺跡南西部にあたる場所には「風呂沼」と記載されており、低地が広がっていたことがわかる。昭和初期の米軍写真でもその地形が確認することができる。

調査区南西壁の土層観察から中位に As-B 軽石の純層を僅かに含む As-B 混土層が確認できる。崖線付近で確認された竪穴状遺構・土坑群はこの土層により被覆されていたため、12 世紀初頭以前の遺構であることがいえる。

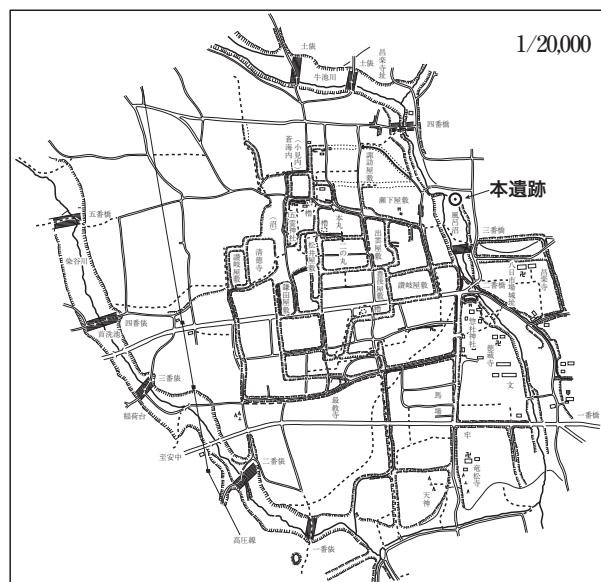


Fig. 5 蒼海城縄張図 (山崎1978より一部改変)

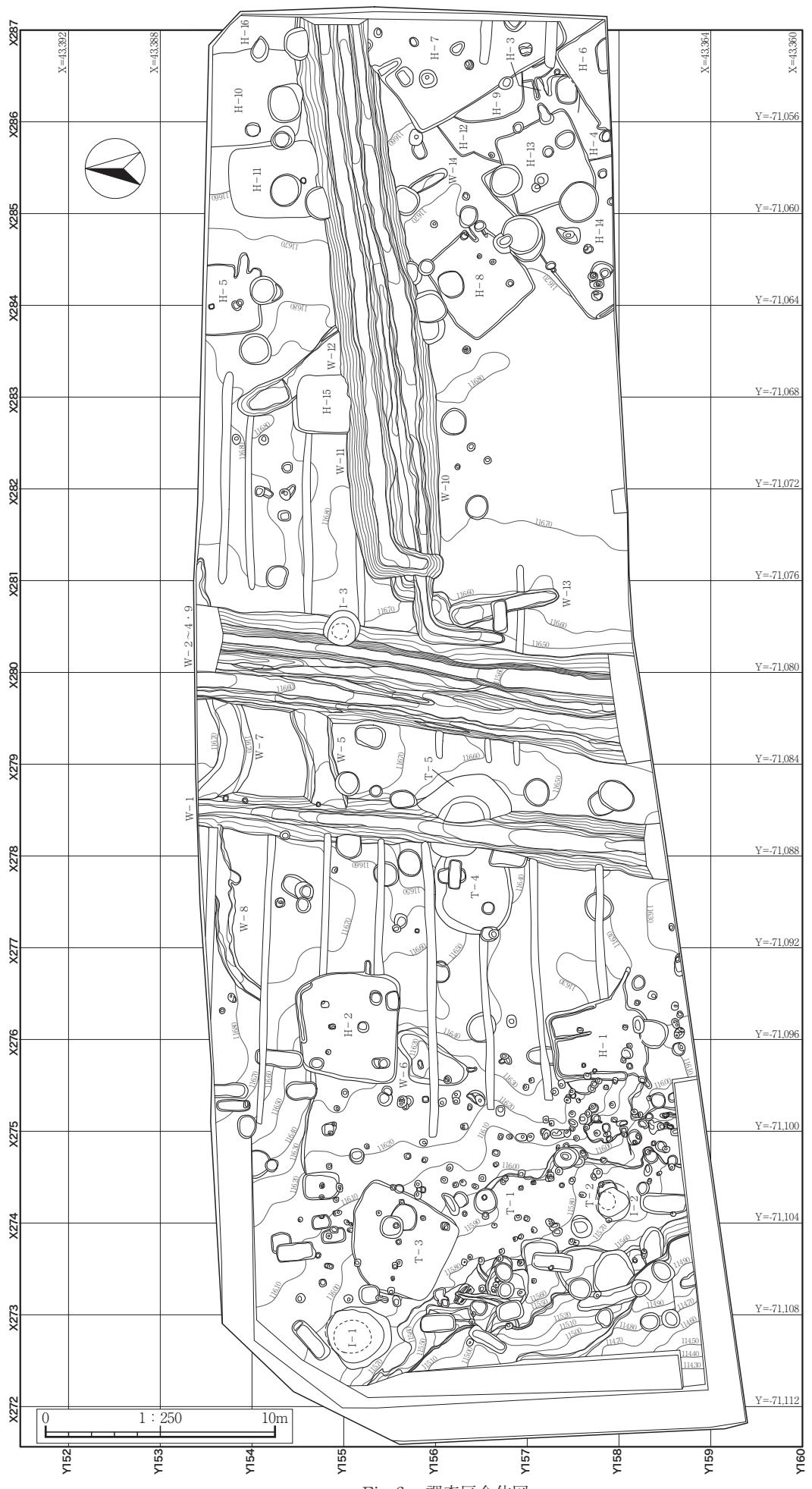


Fig. 6 調査区全体図

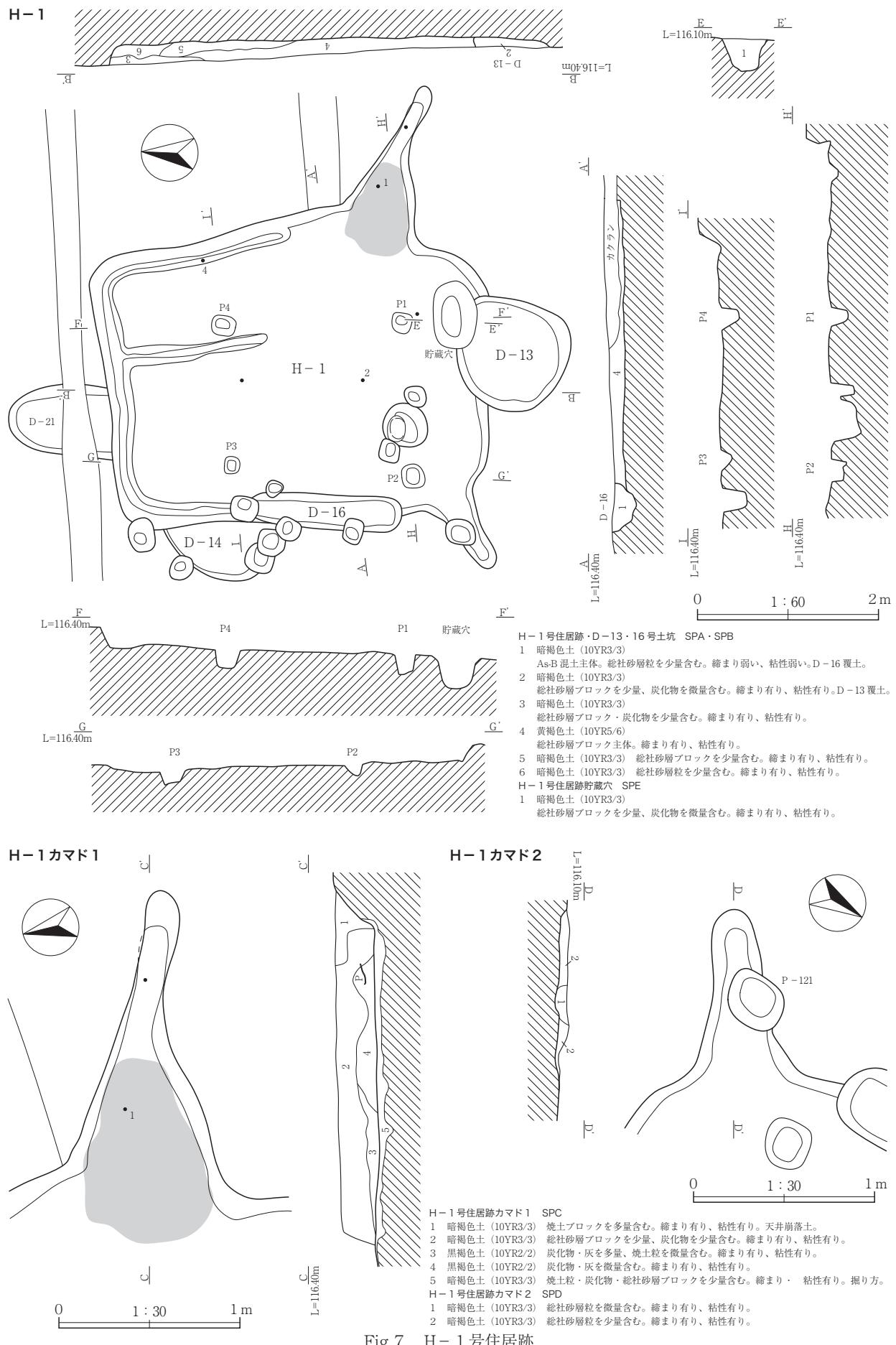
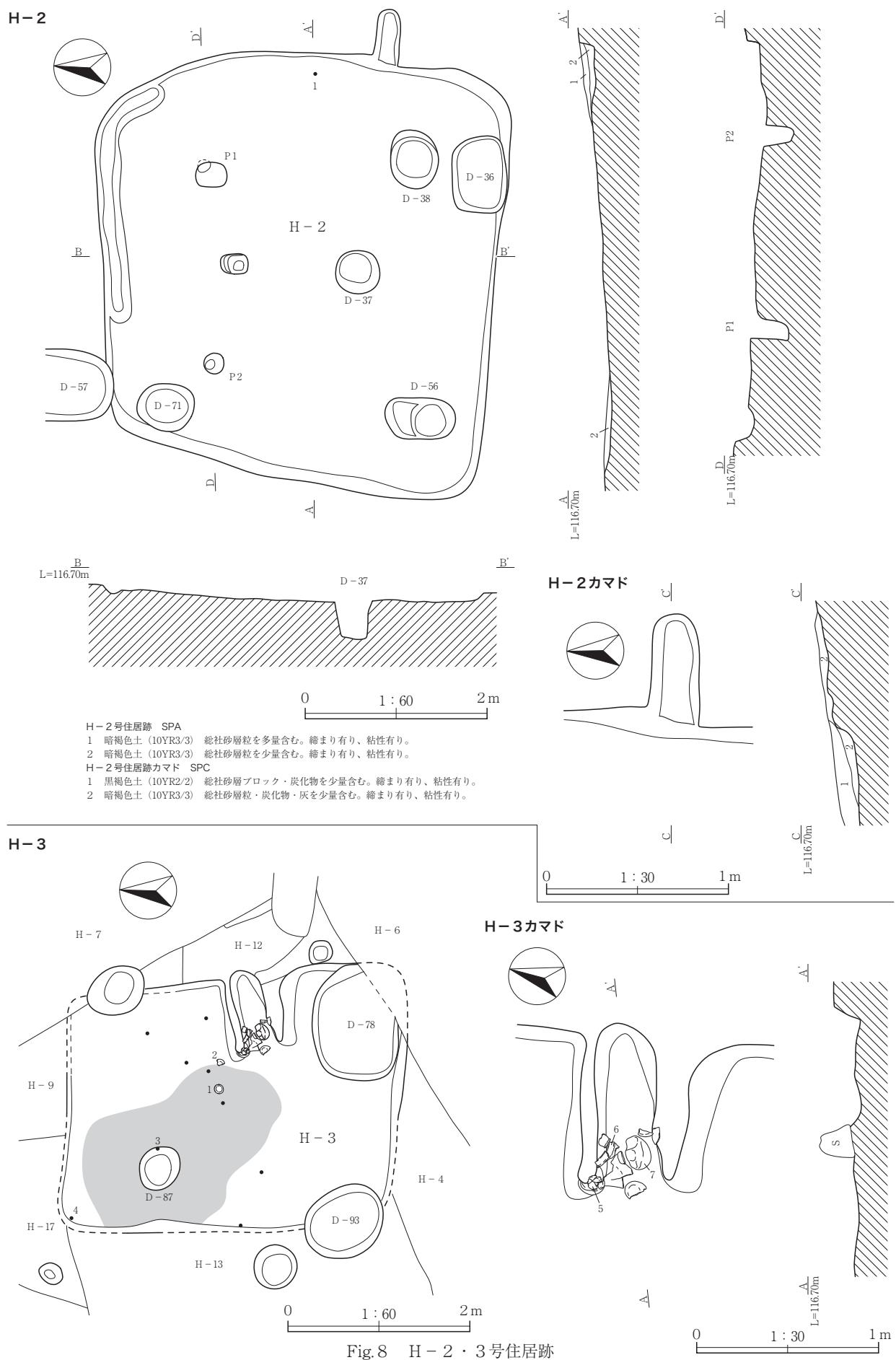


Fig. 7 H-1号住居跡



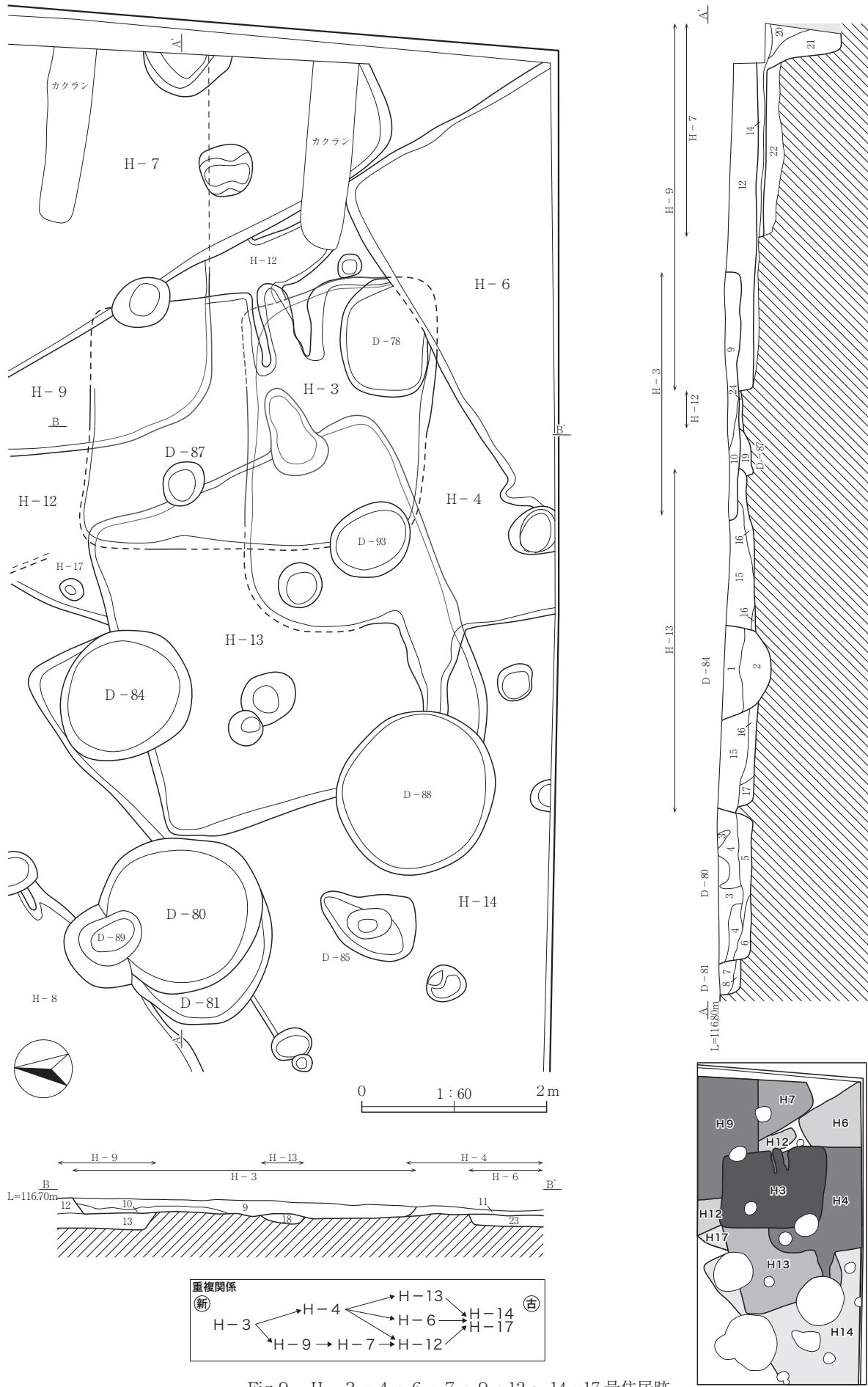
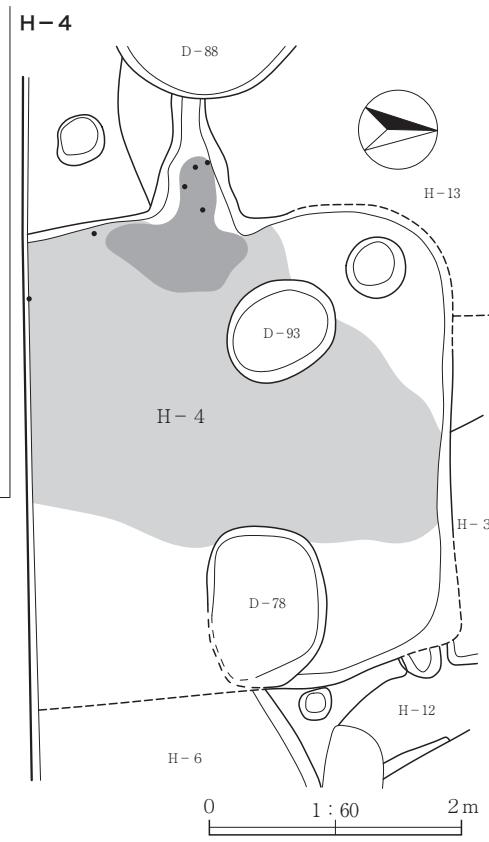
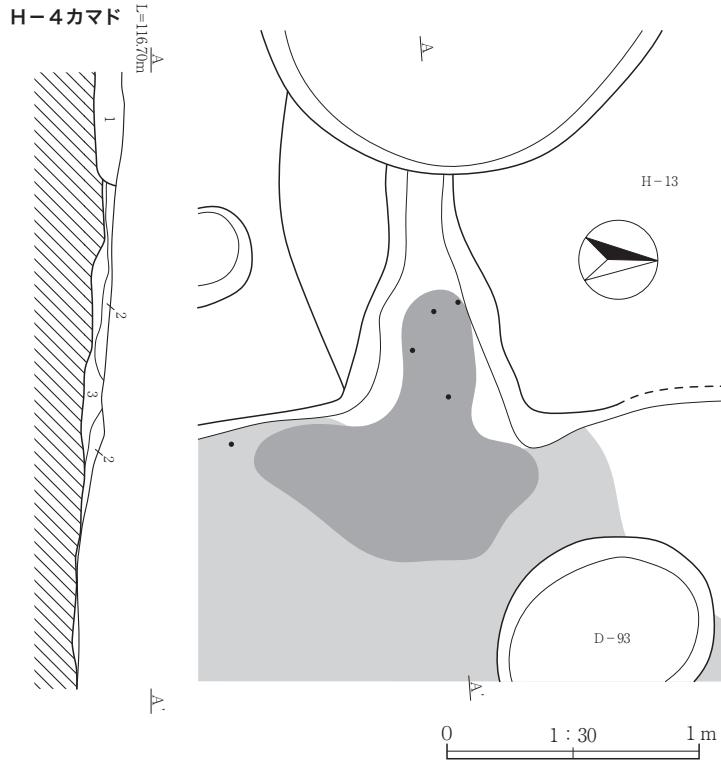


Fig. 9 H-3・4・6・7・9・12～14・17号住居跡

H-3・4・6・7・9・12～14・17号住居跡、D-80・81・84・87号土坑 SPA・SPB

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量、As-C を微量含む。締まり・粘性有り。D-84 覆土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロック・炭化物を微量含む。締まり・粘性有り。D-80 覆土。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) As-B 混土。締まり弱い。粘性弱い。D-80 覆土。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 烧土ブロック・灰を多量、炭化物を少量含む。締まり・粘性有り。D-80 覆土。
- 5 黑褐色土 (10YR2/2) 灰を多量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり・粘性有り。D-80 覆土。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり・粘性有り。D-80 覆土。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。D-81 覆土。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を微量含む。締まり・粘性有り。D-81 覆土。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・As-C を少量含む。締まり・粘性有り。H-3 覆土。
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) As-C を微量含む。締まり・粘性有り。H-3 覆土。
- 11 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり・粘性有り。H-4 覆土。
- 12 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。H-9 覆土。
- 13 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。H-9 覆土。
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量・As-C を微量含む。締まり・粘性有り。H-9 挖り方。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) As-C・総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。H-13 覆土。
- 16 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロック・炭化物を少量含む。締まり・粘性有り。H-13 覆土。
- 17 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロック・総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。H-13 覆土。
- 18 暗褐色土 (10YR3/4) 白色粘質土ブロックを多量、焼土粒・炭化物を少量含む。締まり・粘性有り。H-13 カマド覆土。
- 19 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。D-87 覆土。
- 20 暗褐色土 (10YR3/4) 烧土粒・炭化物を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり・粘性有り。H-7 覆土。
- 21 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。H-7 覆土。
- 22 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを多量含む。締まり・粘性有り。H-7 挖り方。
- 23 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・粒を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり・粘性有り。H-6 覆土。
- 24 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・焼土粒を微量含む。締まり・粘性有り。H-12 覆土。



H-4号住居跡カマド SPA

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。D-88 覆土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-C を少量含む。締まり・粘性有り。H-4 カマド覆土。
- 3 暗赤褐色土 (25YR3/4) 烧土ブロックを多量、As-C を少量含む。締まり・粘性有り。H-4 カマド覆土。

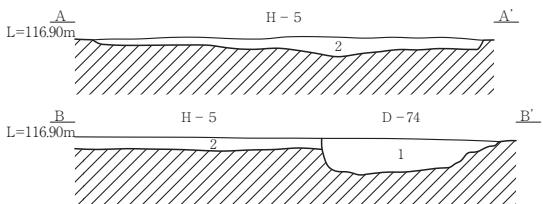
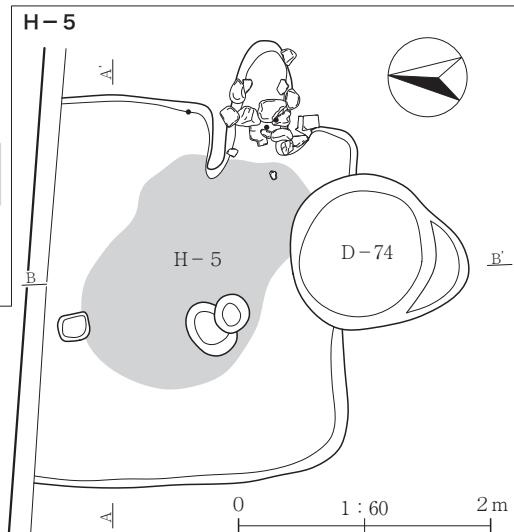
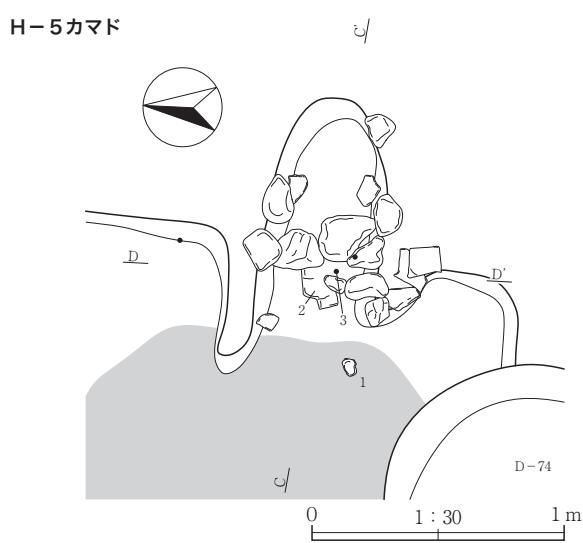


Fig.10 H-4・5号住居跡

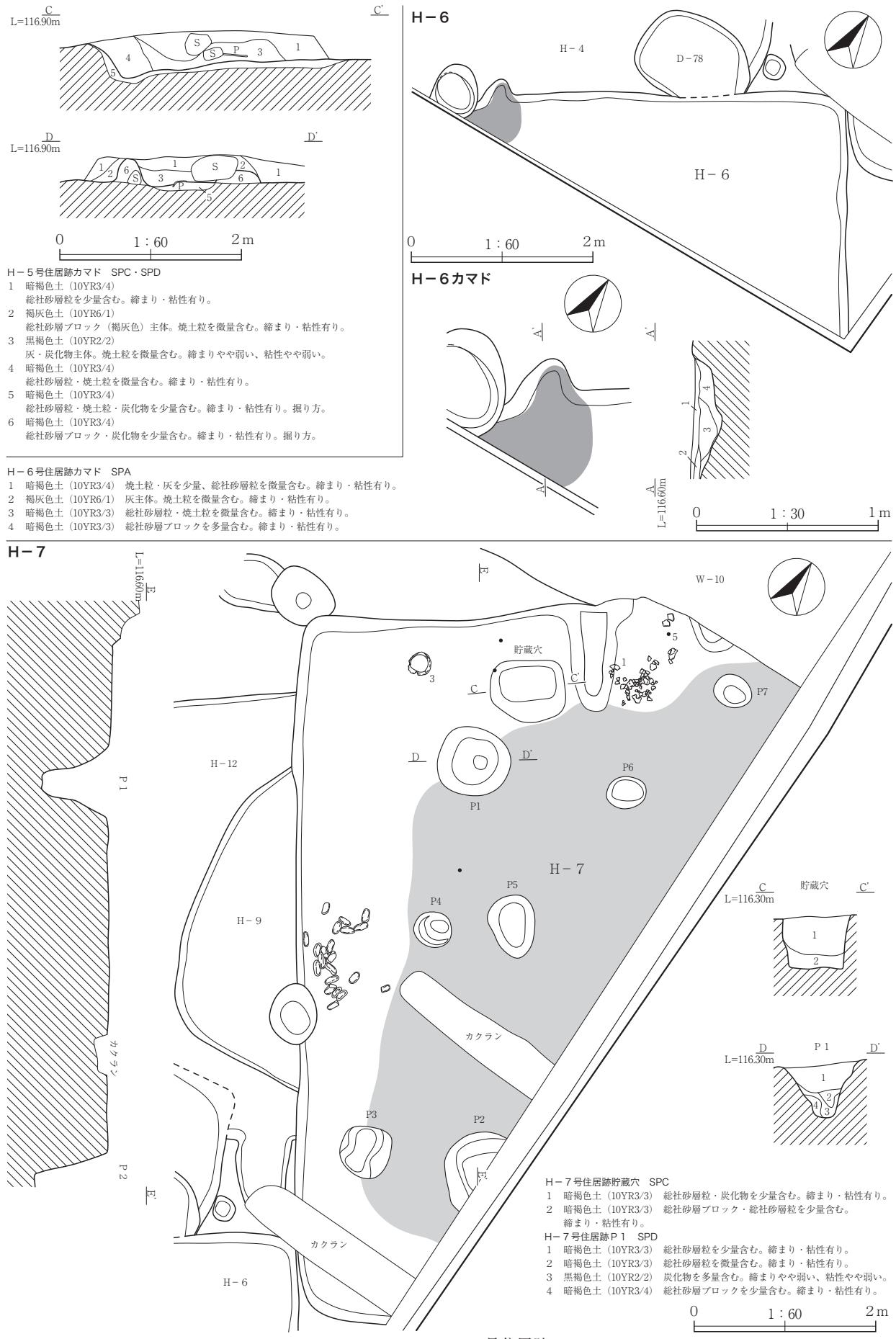


Fig.11 H-5～7号住居跡

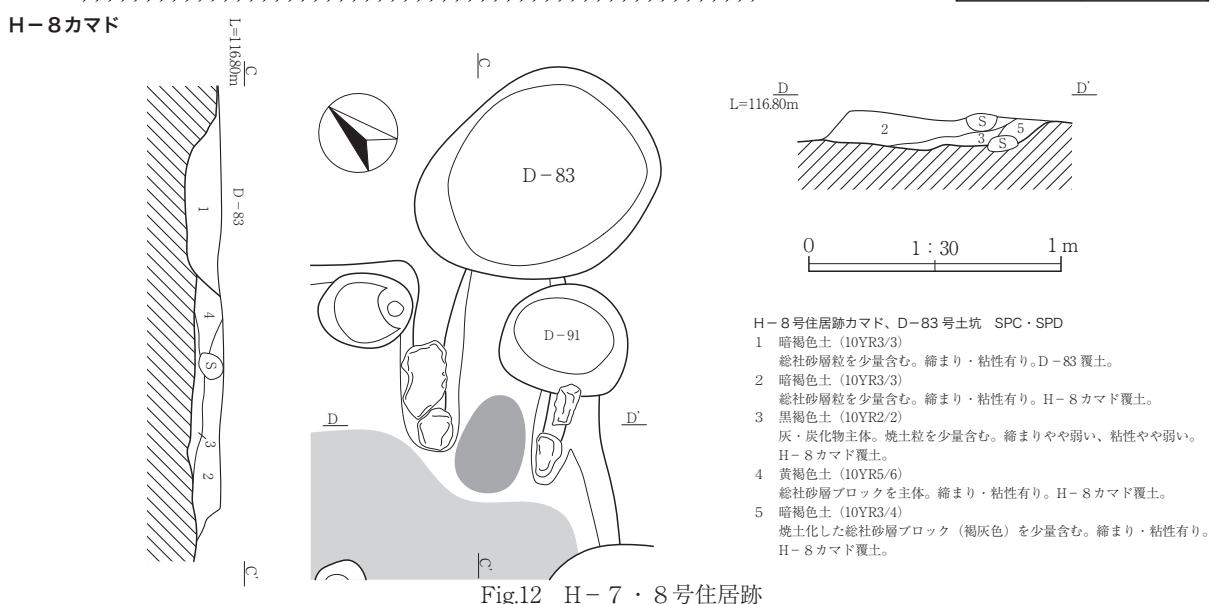
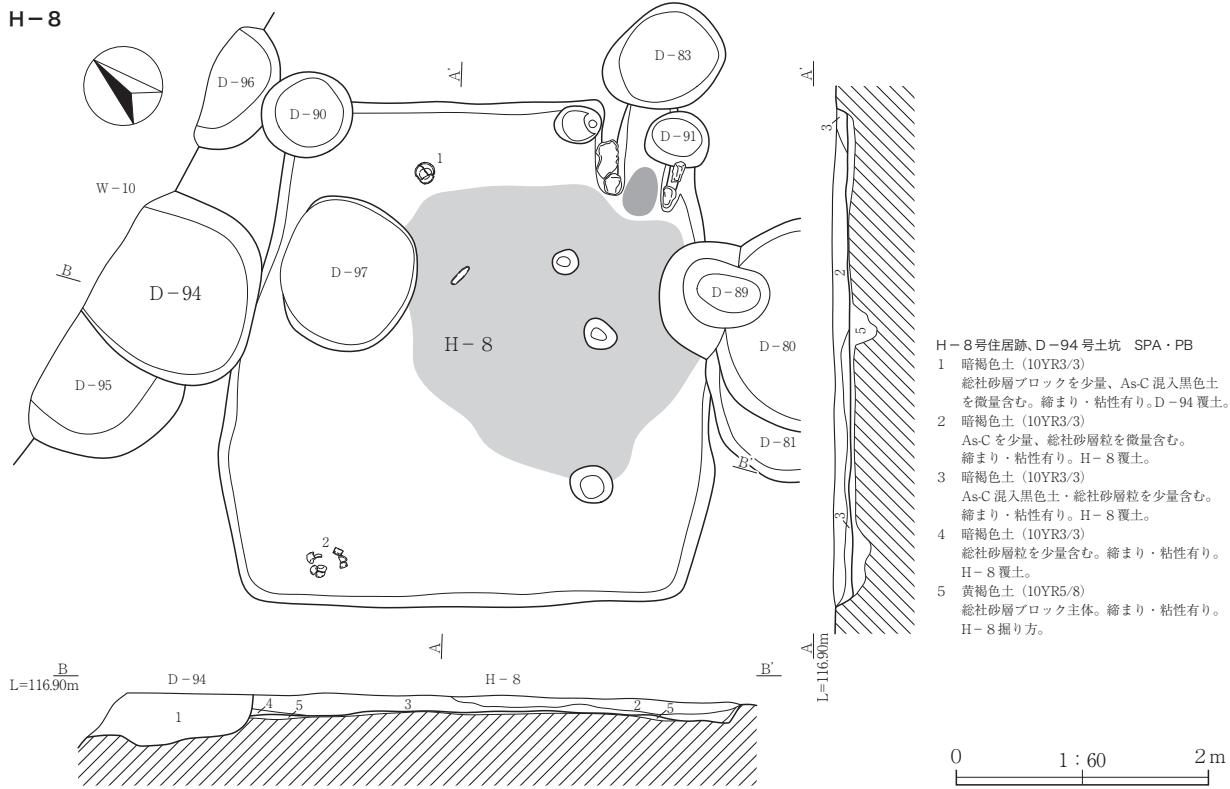
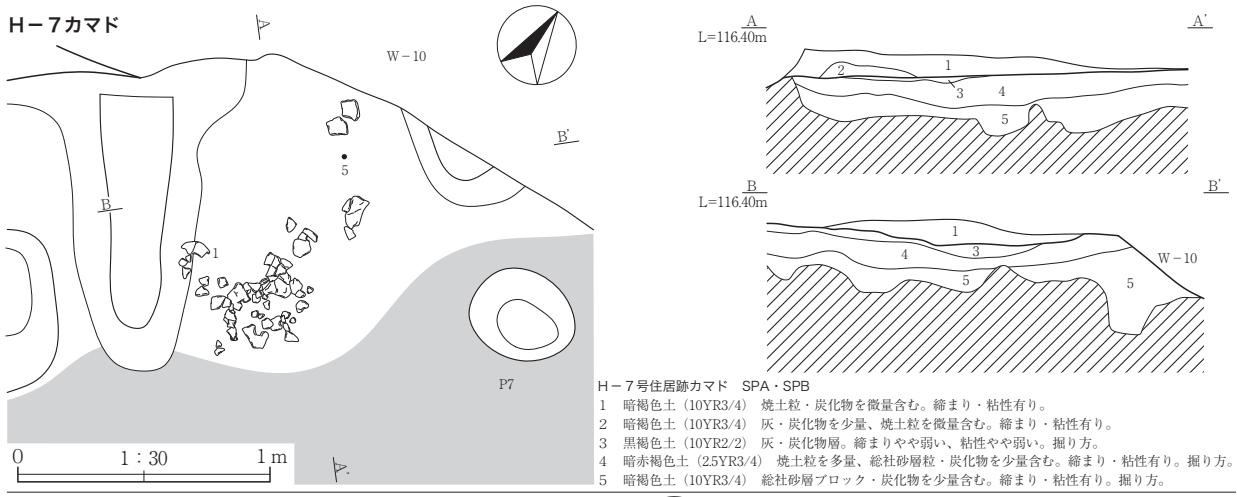


Fig.12 H-7・8号住居跡

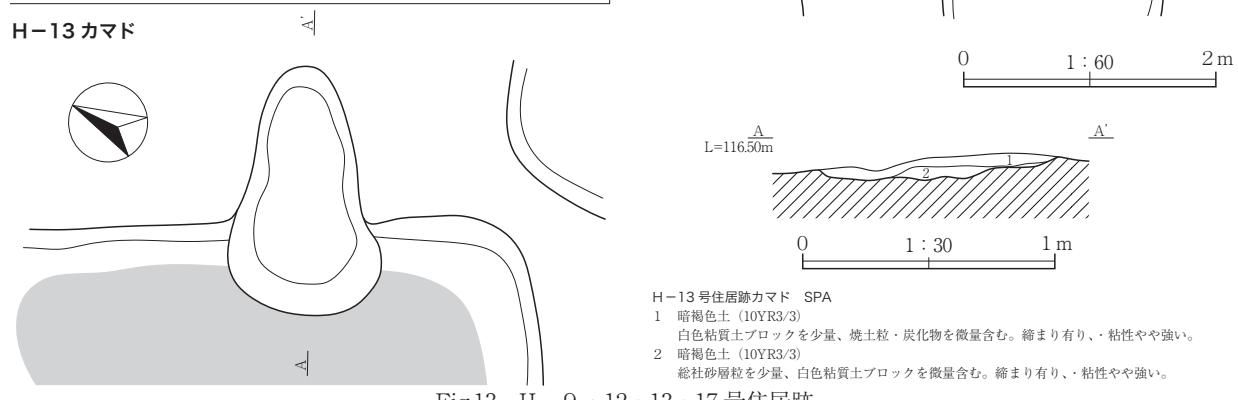
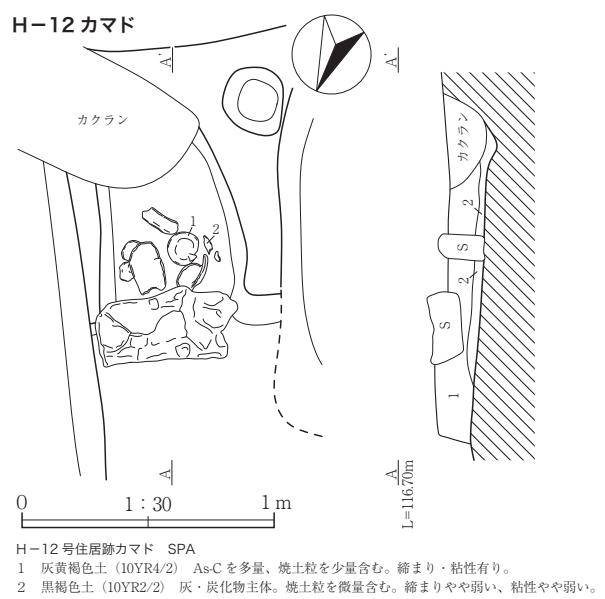
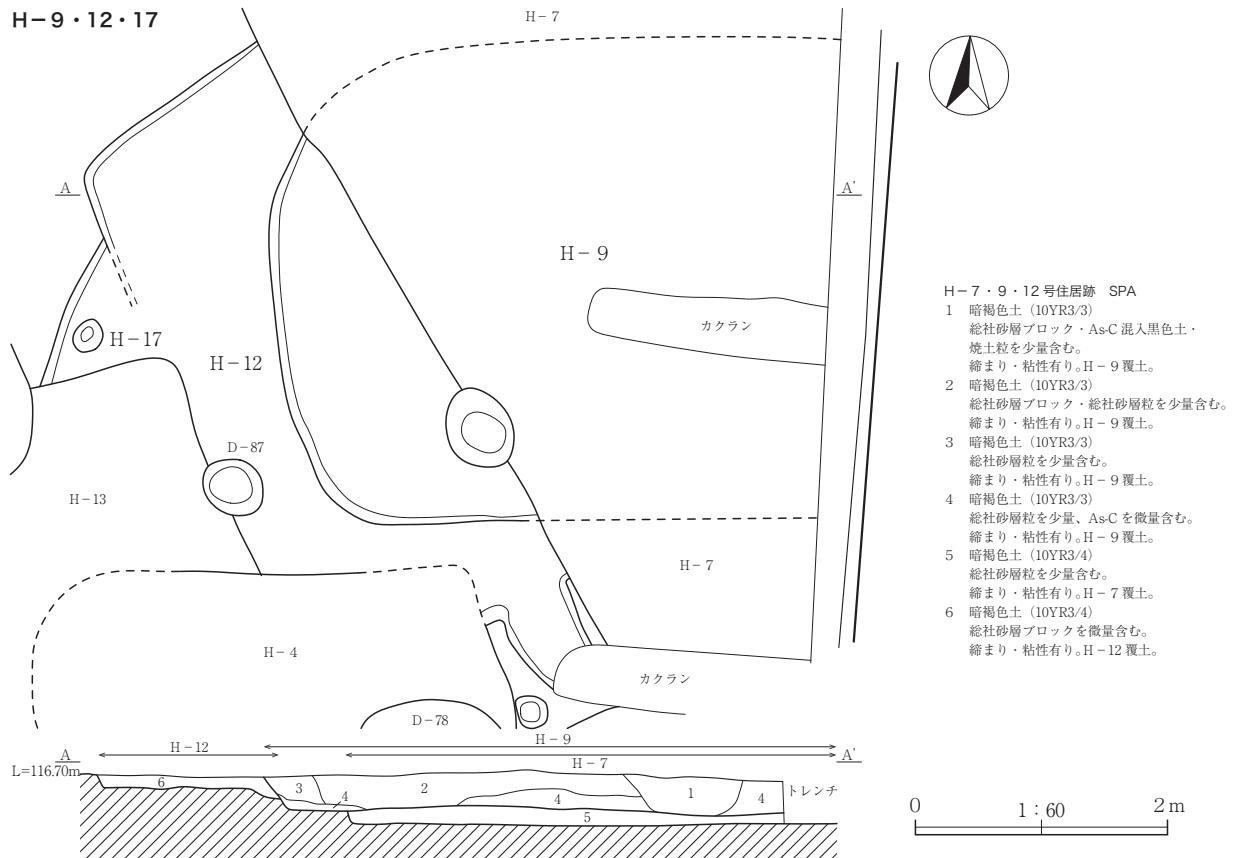


Fig.13 H-9・12・13・17号住居跡

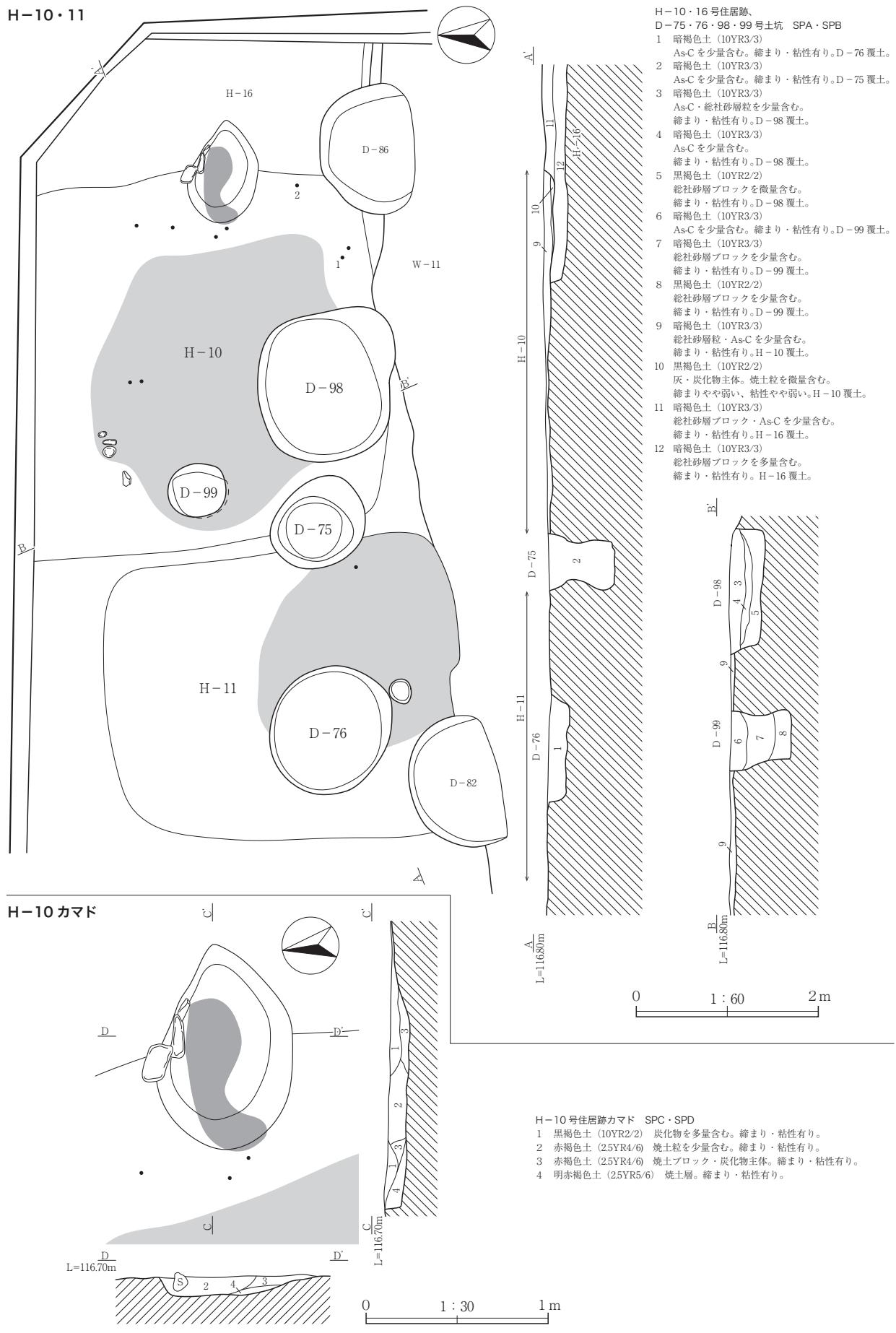
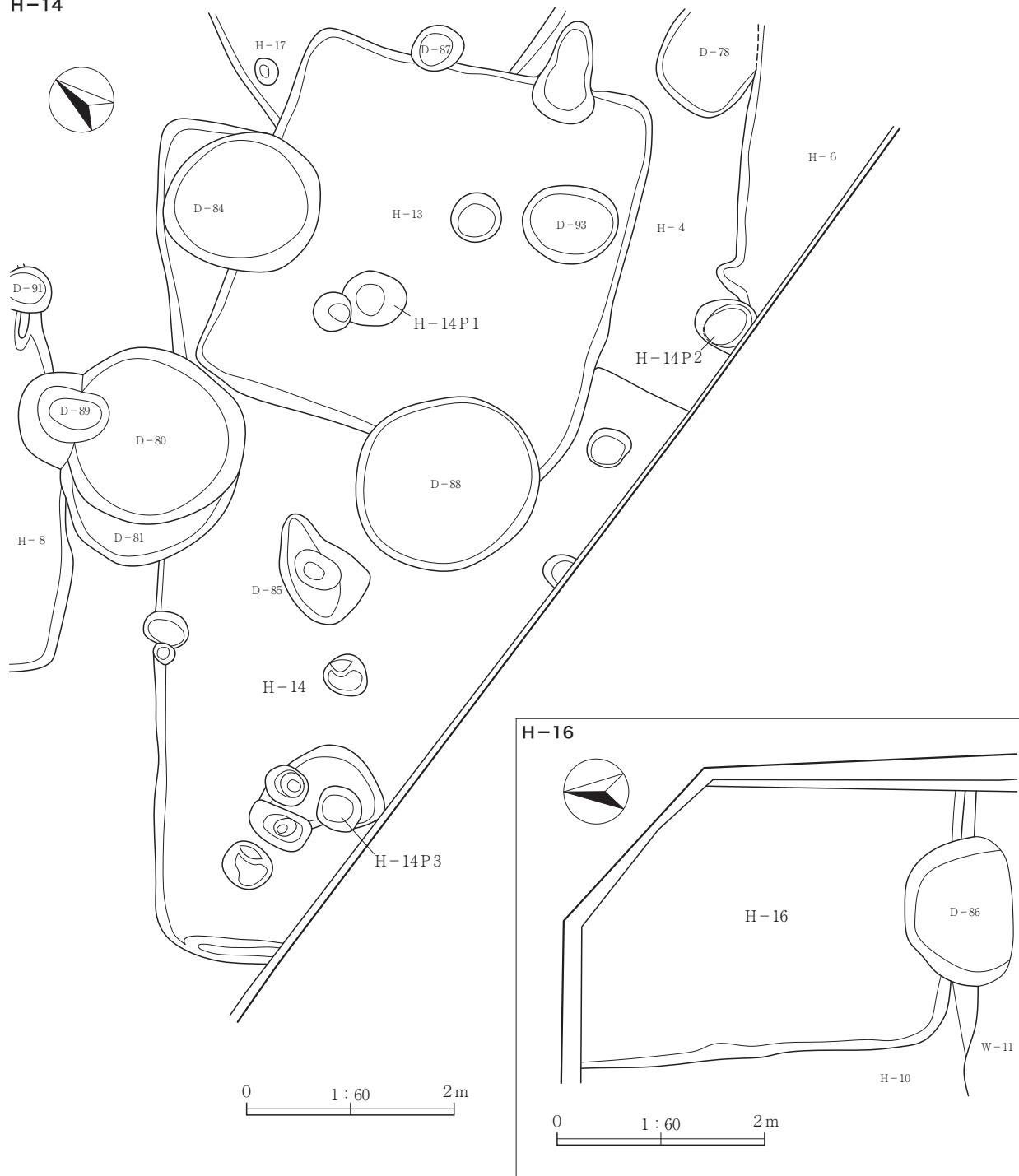


Fig.14 H-10・11号住跡

H-14



H-15

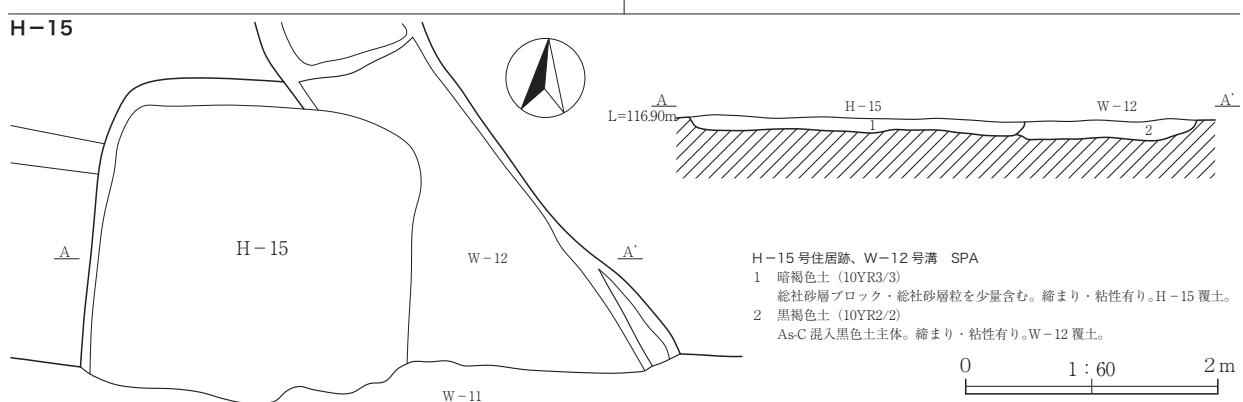
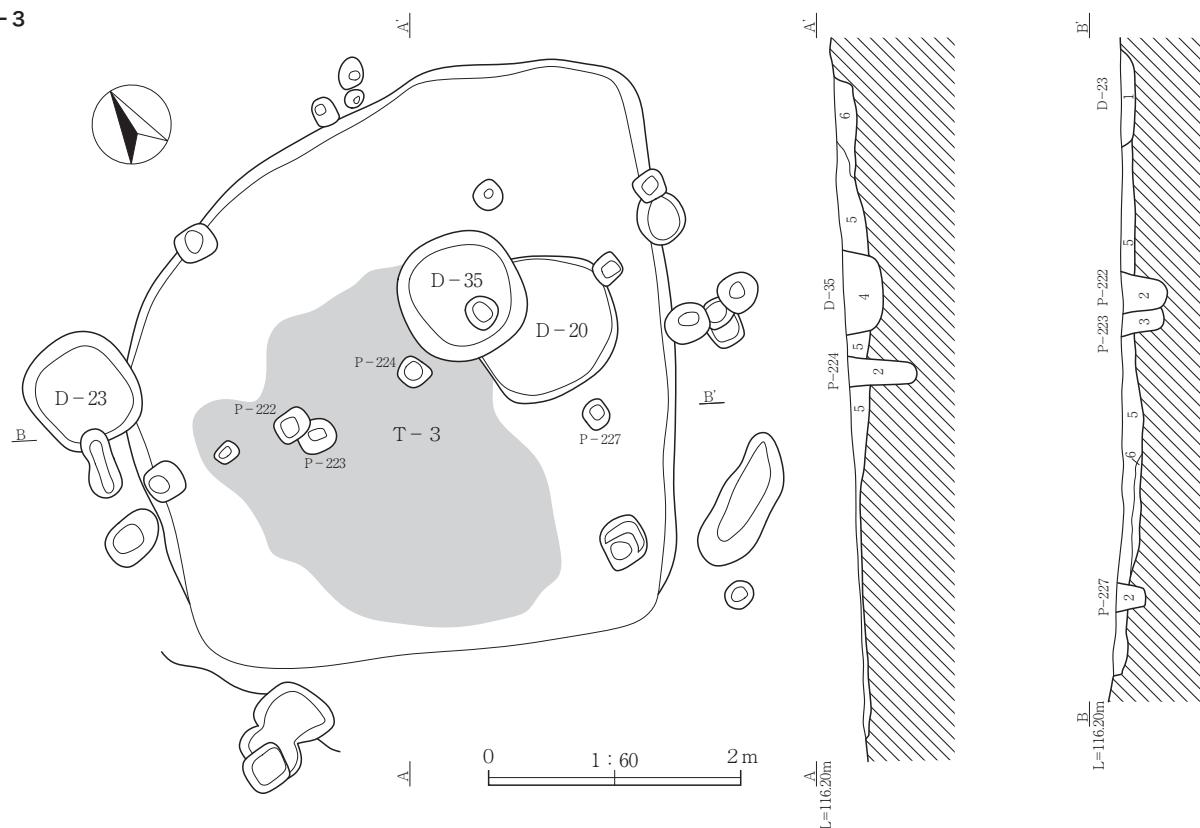


Fig.15 H-14 ~ 16号住居跡

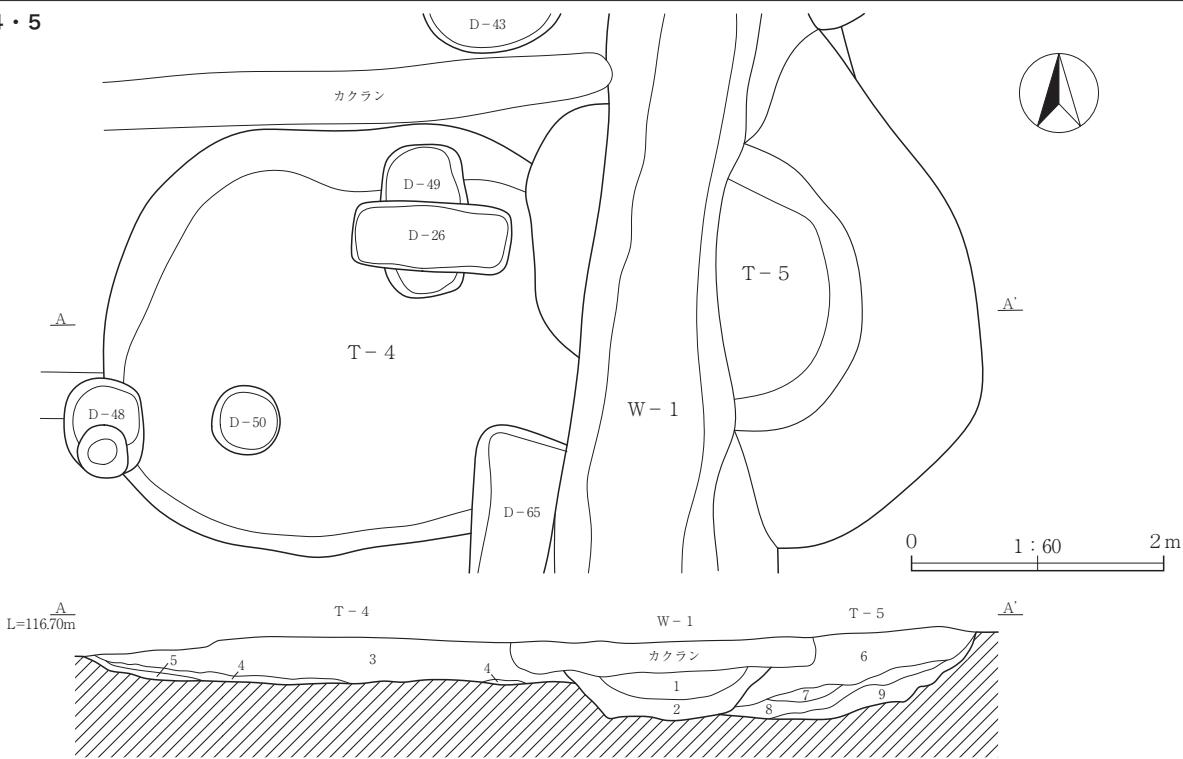
T-3



T-3号豊穴状遺構、D-23・35号土坑、P-222～224・227号ピット SPA・SPB

- | | |
|--|---|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土を少量、総社砂層粒を微量含む。締まり・粘性有り。D-23覆土。 | 4 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。D-35覆土。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土を微量含む。締まり・粘性有り。P-222・224・227覆土。 | 5 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。T-3覆土。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土・総社砂層粒を微量含む。締まり・粘性有り。P-223覆土。 | 6 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。T-3覆土。 |

T-4・5



T-4・5号豊穴状遺構、W-1号溝跡 SPA

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを多量、総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。W-1覆土。 | 6 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土を少量含む。締まり・粘性有り。T-5覆土。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。締まり・粘性有り。W-1覆土。 | 7 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。T-5覆土。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量、As-C軽石を微量含む。締まり・粘性有り。T-4覆土。 | 8 黒褐色土 (10YR2/2) As-C黒色土・総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。T-5覆土。 |
| 4 黑褐色土 (10YR2/2) As-C黒色土を少量、総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。T-4覆土。 | 9 黒褐色土 (10YR2/2) As-C黒色土を多量、総社砂層ブロックを少量含む。締まり・粘性有り。T-5覆土。 |
| 5 黑褐色土 (10YR2/2) 総社砂層ブロックを多量、As-C黒色土を少量含む。締まり・粘性有り。T-4覆土。 | |

Fig.16 T-3～5号豊穴状遺構

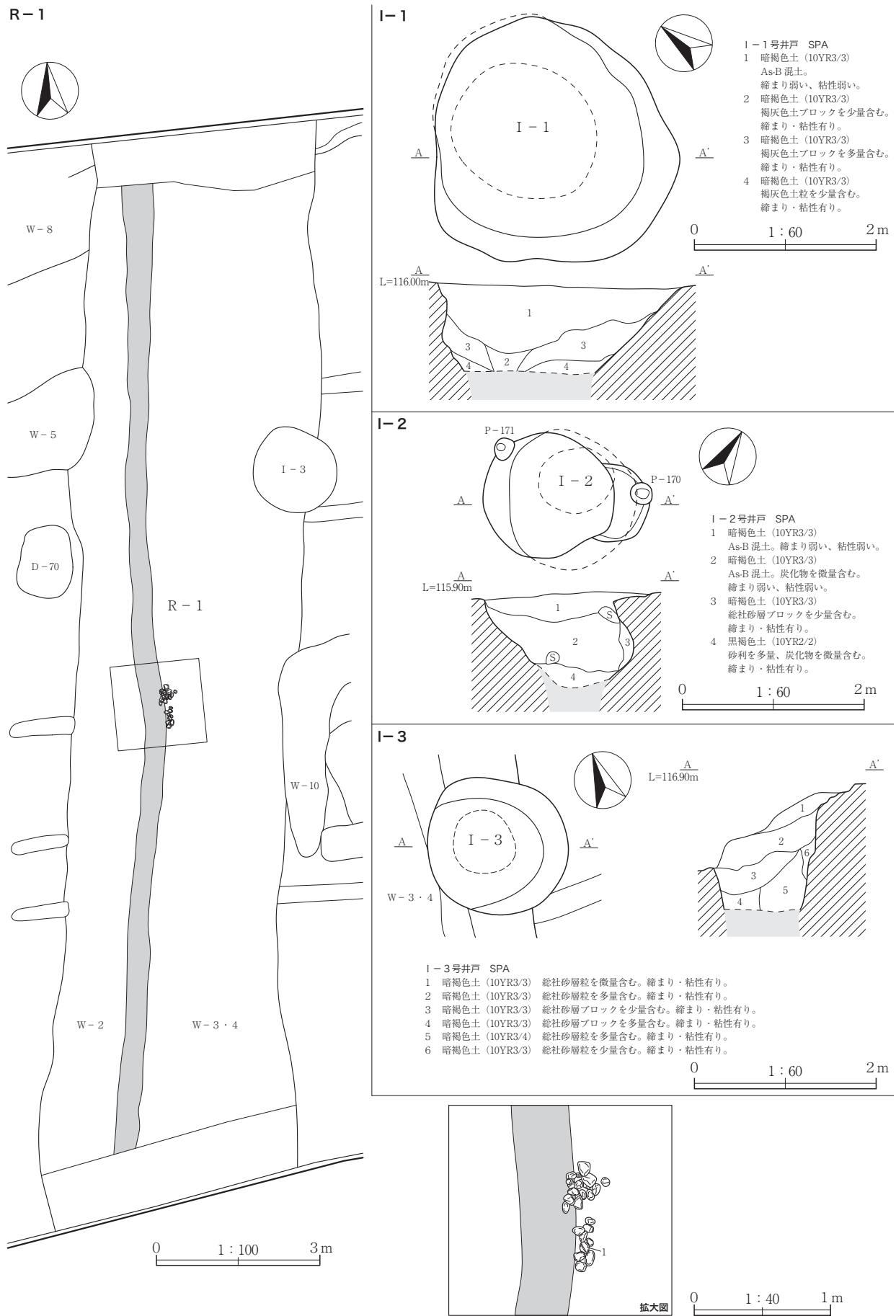


Fig.17 R - 1 号道路状遺構、I - 1 ~ 3 号井戸

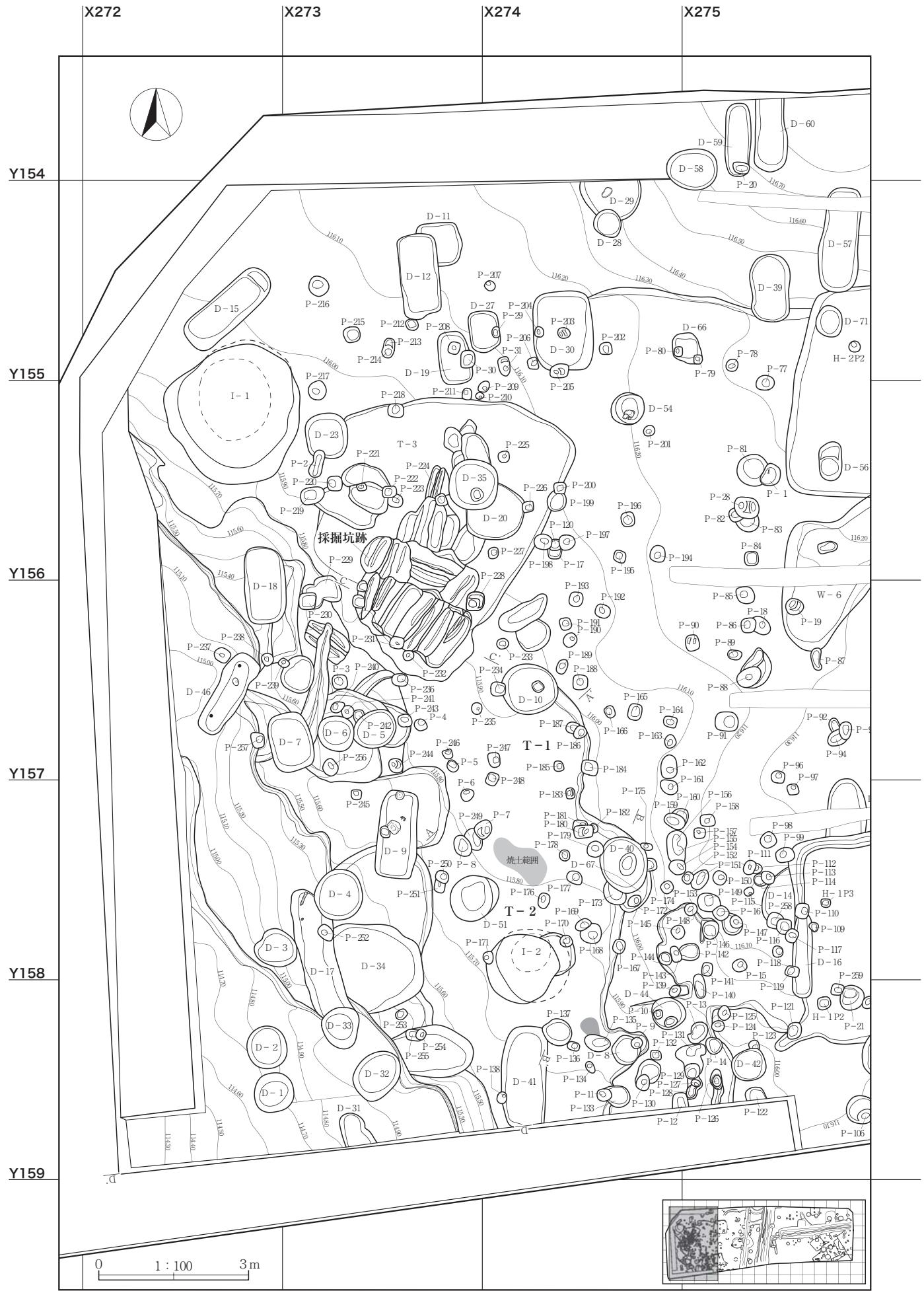


Fig.18 調査区全体図 (1)

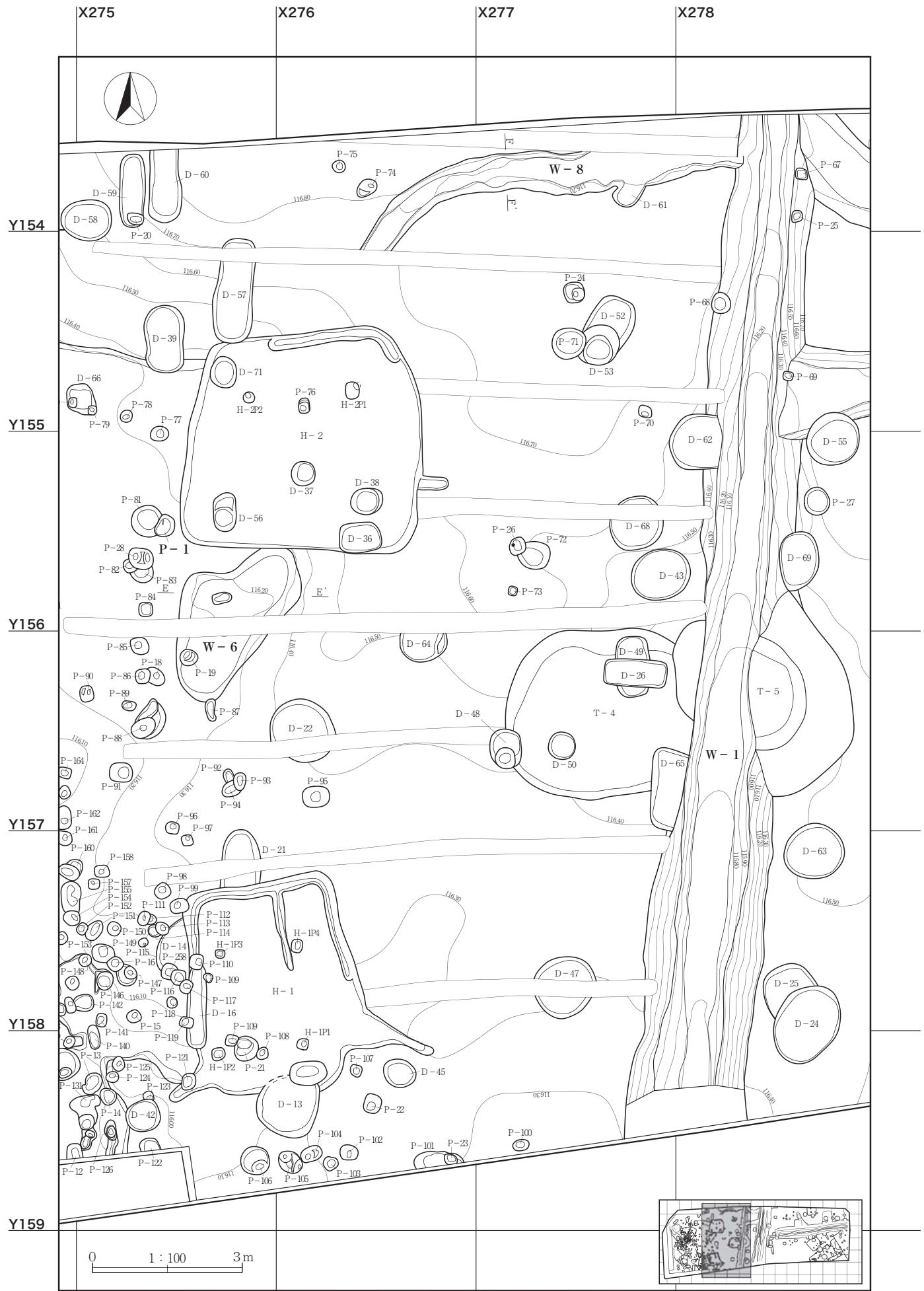


Fig.19 調査区全体図 (2)

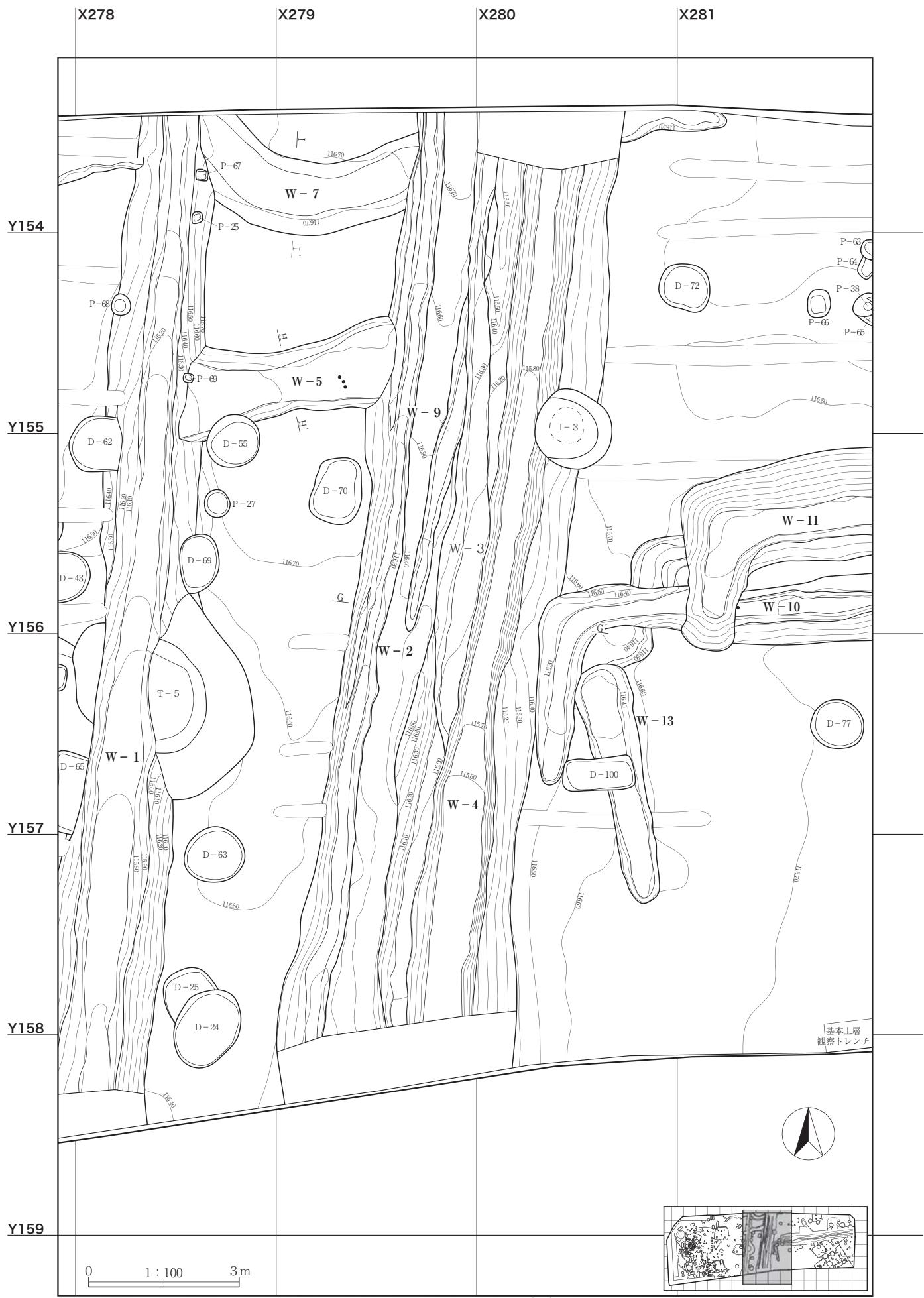


Fig.20 調査区全体図 (3)

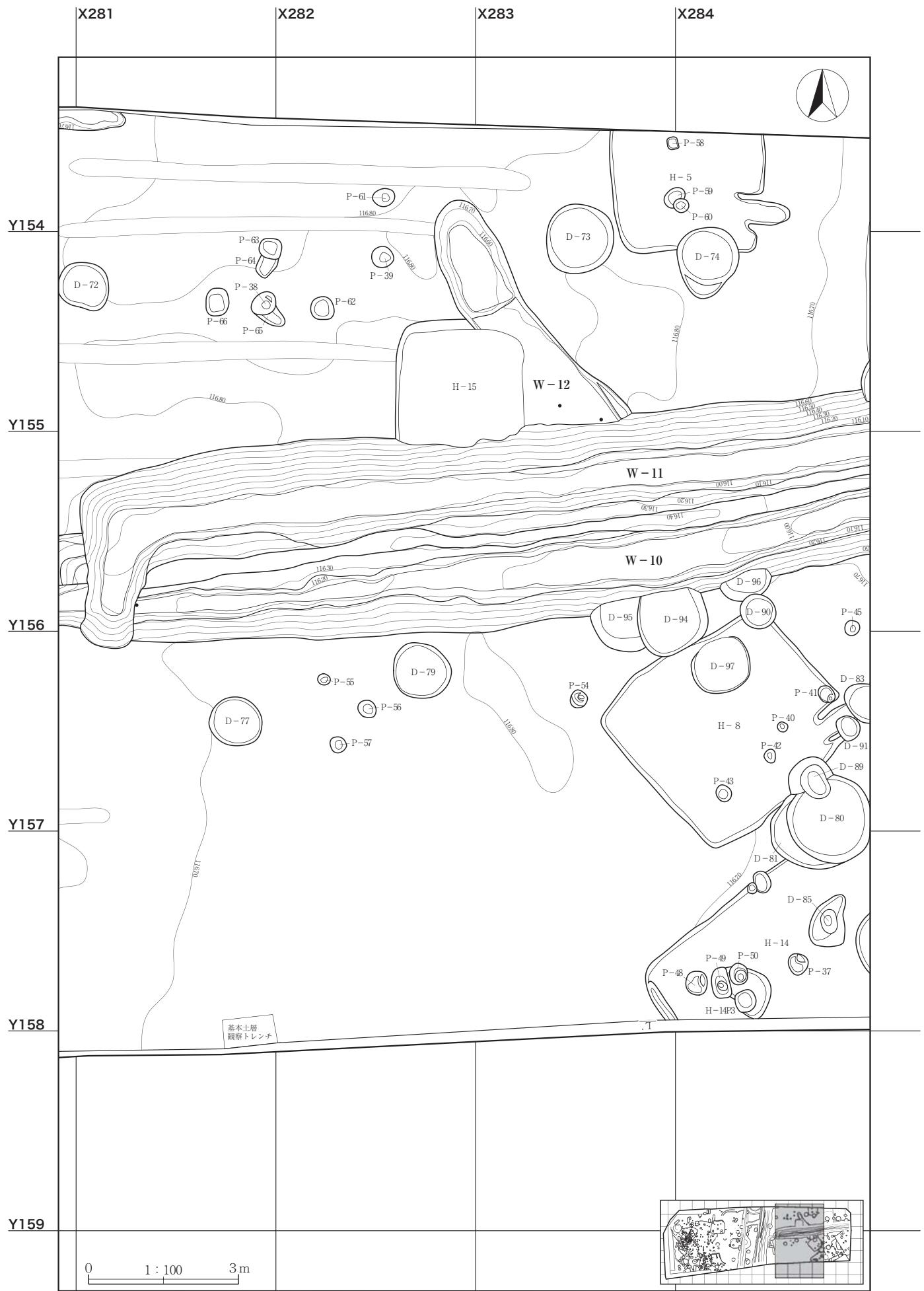


Fig.21 調査区全体図 (4)

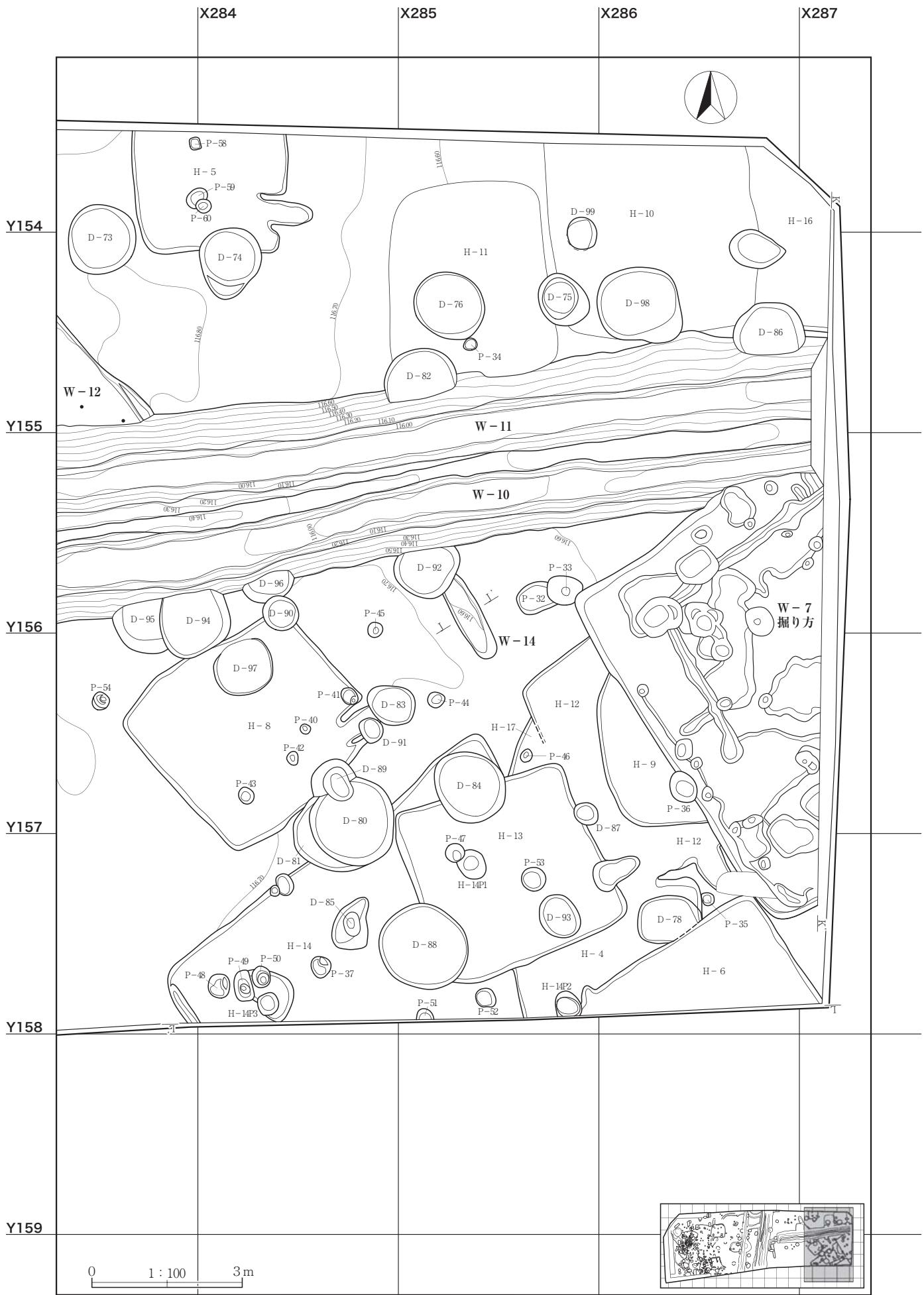
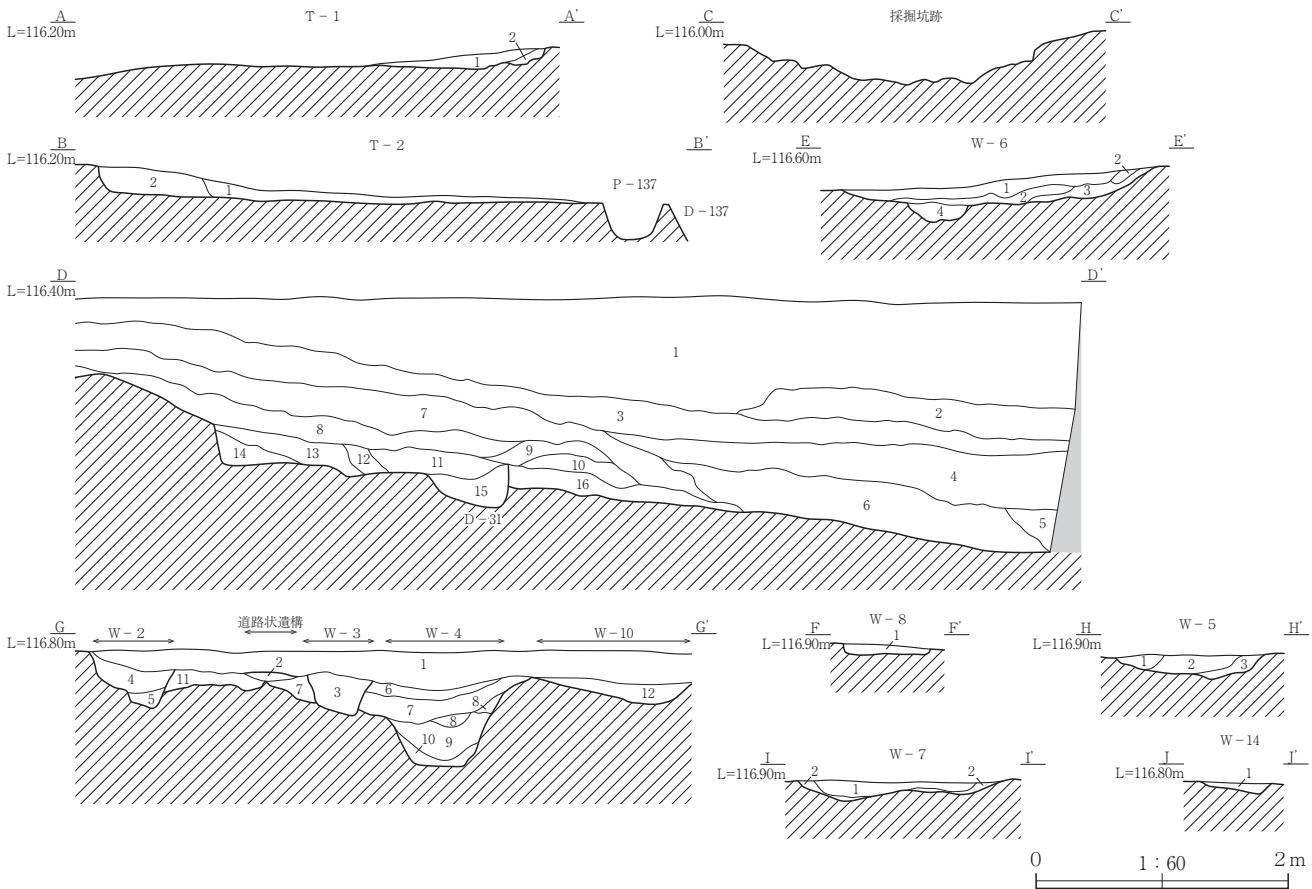


Fig.22 調査区全体図 (5)



T-1号窓穴状遺構 SPA

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土。縮まり・粘性弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土。総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性弱い。
- T-2号窓穴状遺構 SPB
 - 1 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土。縮まり・粘性弱い。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土。総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性弱い。
- 調査区南西壁 SPD
 - 1 表土層 (I層)
 - 2 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを多量含む。縮まり・粘性有り。
 - 3 暗褐色土 (10YR3/4) As-B混土。炭化物を微量含む。近世遺物が混入する。縮まり・粘性やや弱い。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) As-B混土。炭化物を少量含む。縮まり・粘性やや弱い。
 - 5 黑褐色土 (10YR2/3) As-B混土。総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性やや弱い。
 - 6 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土。総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性やや弱い。
 - 7 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土。As-B純層のフロックが微量混じる。縮まり・粘性やや弱い。
 - 8 黑褐色土 (10YR3/2) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 9 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 10 褐色土 (10YR4/6) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 11 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。
 - 12 黑褐色土 (10YR3/2) 炭化物を少量、総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 13 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。
 - 14 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 15 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。D-31覆土。
 - 16 褐色土 (10YR4/6) 総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。

W-6号溝 SPE

- 1 褐色土 (10YR4/4) 総社砂層ブロックを多量含む。縮まり・粘性有り。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。

W-8号溝 SPF

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。

W-2~4~10号溝 SPG

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土層。縮まり・粘性やや弱い。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) 道路状遺構の硬化層。白色軽石を多量含む。縮まり・粘性強い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) As-B混土主体。縮まり・粘性やや弱い。W-3覆土。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロック (黄褐色) を微量含む。縮まり・粘性有り。W-2覆土。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 総社砂層ブロック (黄褐色) を多量含む。縮まり・粘性有り。W-2覆土。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土を少量含む。縮まり・粘性有り。W-4覆土。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 粘質土。総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性やや強い。W-4覆土。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。W-4覆土。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。W-4覆土。
- 10 褐色土 (10YR4/4) 総社砂層ブロック主体。縮まり・粘性有り。W-4覆土。
- 11 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土・総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。
- 12 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。W-10覆土。

W-5号溝 SPH

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) As-Cを多量含む。縮まり・粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-Cを多量、総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。
- W-7号溝 SPI
 - 1 暗褐色土 (10YR3/3) As-C混入黑色土を少量、総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。
 - 2 黄褐色土 (10YR5/6) 総社砂層ブロックを多量含む。縮まり・粘性有り。

W-14号溝 SPJ

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) As-B混土を多量含む。縮まり・粘性有り。
- 調査区東壁 SPK
 - 1 黒褐色土 (10YR3/1) As-B混土主体。縮まり・粘性やや弱い。
 - 2 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土主体。縮まり・粘性やや弱い。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土主体。総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性やや弱い。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/2) As-B混土主体。総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性やや弱い。W-10覆土。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土主体。総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性やや弱い。W-10覆土。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土主体。総社砂層ブロックを微量含む。
 - 7 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土主体。縮まり・粘性やや弱い。W-10覆土。
 - 8 暗褐色土 (10YR3/4) As-B混土を微量含む。縮まり・粘性有り。W-11覆土。
 - 9 黄褐色土 (10YR5/6) 総社砂層ブロック主体。縮まり・粘性やや強い。W-11覆土。
 - 10 黑褐色土 (10YR3/2) 総社砂層ブロックを多量、As-B混土を微量含む。
 - 11 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量、炭化物を微量含む。縮まり・粘性有り。H-9覆土。
 - 12 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を多量含む。縮まり・粘性有り。H-9覆土。
 - 13 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロック・As-Cを微量含む。縮まり・粘性有り。H-16覆土。
 - 14 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・As-Cを少量含む。縮まり・粘性有り。H-16覆土。
 - 15 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを多量含む。縮まり・粘性有り。H-16覆土。
 - 16 褐色土 (10YR4/4) 総社砂層ブロック主体。縮まり・粘性有り。H-16覆土。
 - 17 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。H-7覆土。
 - 18 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量、炭化物・焼土粒を微量含む。縮まり・粘性有り。H-7覆土。
 - 19 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。H-7P2覆土。
 - 20 黑褐色土 (10YR2/2) 炭化物・灰層。縮まり・粘性やや弱い。H-7P2覆土。
 - 21 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。H-7P2覆土。
 - 22 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を多量、総社砂層ブロックを少量含む。
 - 23 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を多量含む。縮まり・粘性やや強い。H-7掘り方。
- 調査区南東壁 SPL
 - 1 表土層 (I層)
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) As-B混土を微量含む。縮まり・粘性やや弱い。P-51覆土。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/2) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。H-4覆土。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。H-4覆土。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。H-4覆土。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を微量含む。H-4覆土。
 - 7 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロック・As-Cを微量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 8 黑褐色土 (10YR3/2) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 9 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 10 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量、炭化物を微量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 11 赤褐色土 (25YR4/6) 燃土塊。縮まり・粘性有り。H-6カマド火床面。
 - 12 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量、炭化物を微量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 13 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を少量、黒褐色土ブロックを微量含む。
 - 14 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層ブロックを少量、焼土粒を微量含む。縮まり・粘性有り。H-6覆土。
 - 15 褐色土 (10YR4/6) 総社砂層ブロックを少量含む。縮まり・粘性有り。H-6掘り方。
 - 16 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層・炭化物を微量含む。縮まり・粘性有り。H-14覆土。
 - 17 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を少量、炭化物を微量含む。縮まり・粘性有り。H-14覆土。
 - 18 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層ブロックを微量含む。縮まり・粘性有り。H-14覆土。
 - 19 暗褐色土 (10YR3/3) 総社砂層粒を微量含む。縮まり・粘性有り。H-14覆土。
 - 20 暗褐色土 (10YR3/4) 総社砂層粒を多量含む。縮まり・粘性有り。H-14掘り方。

Fig.23 遺構断面図 (1)

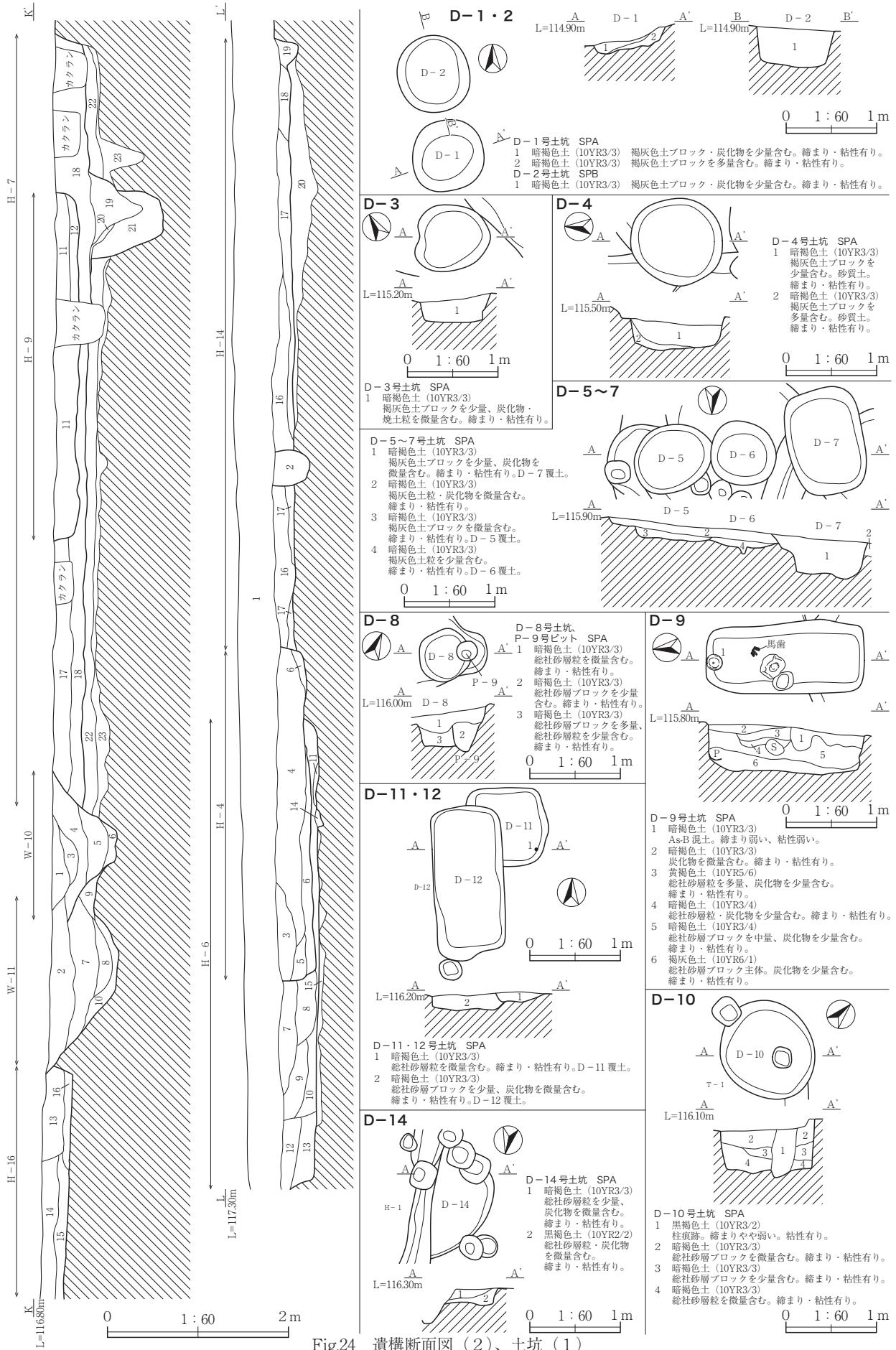


Fig.24 遺構断面図 (2)、土坑 (1)

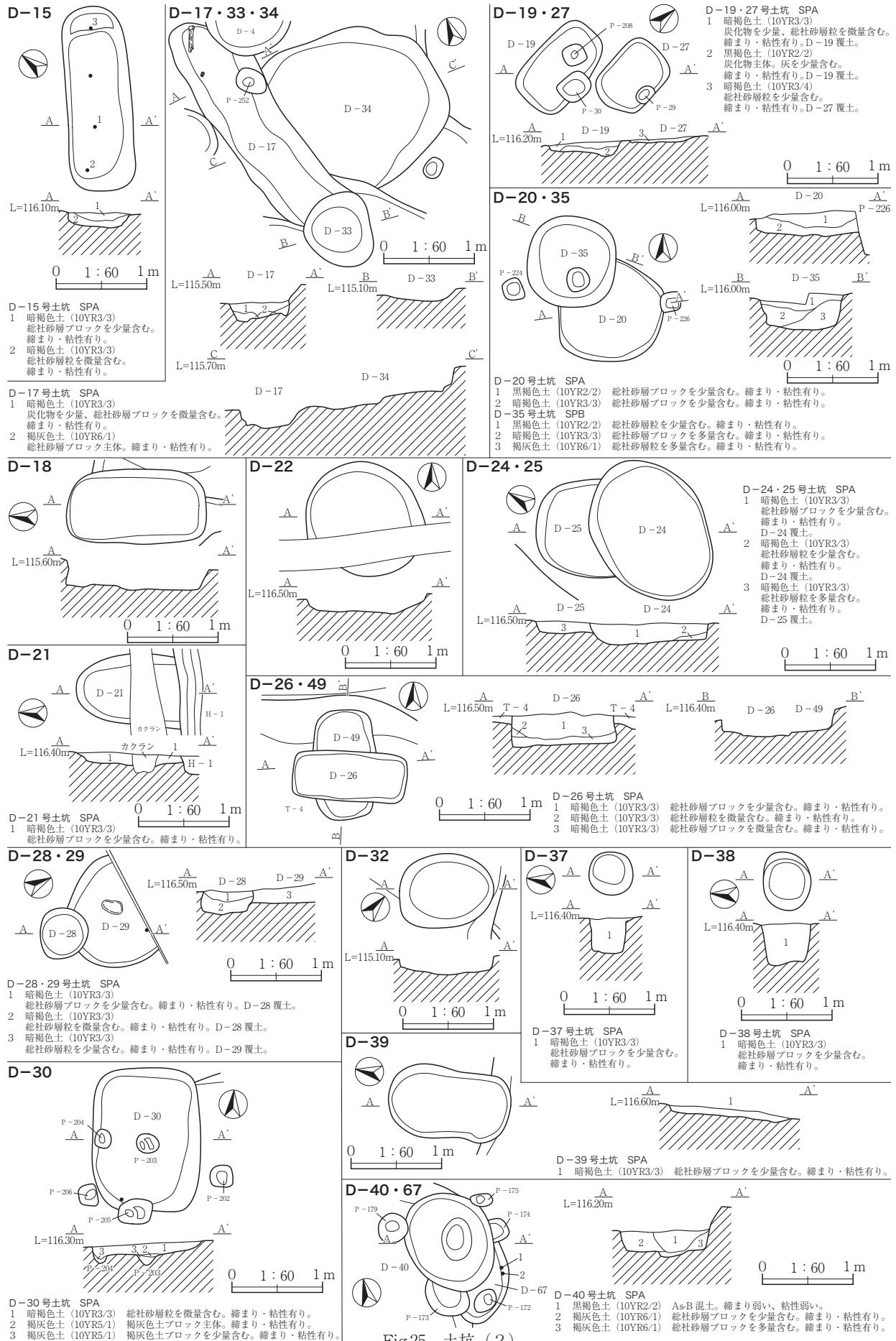


Fig.25 土坑 (2)

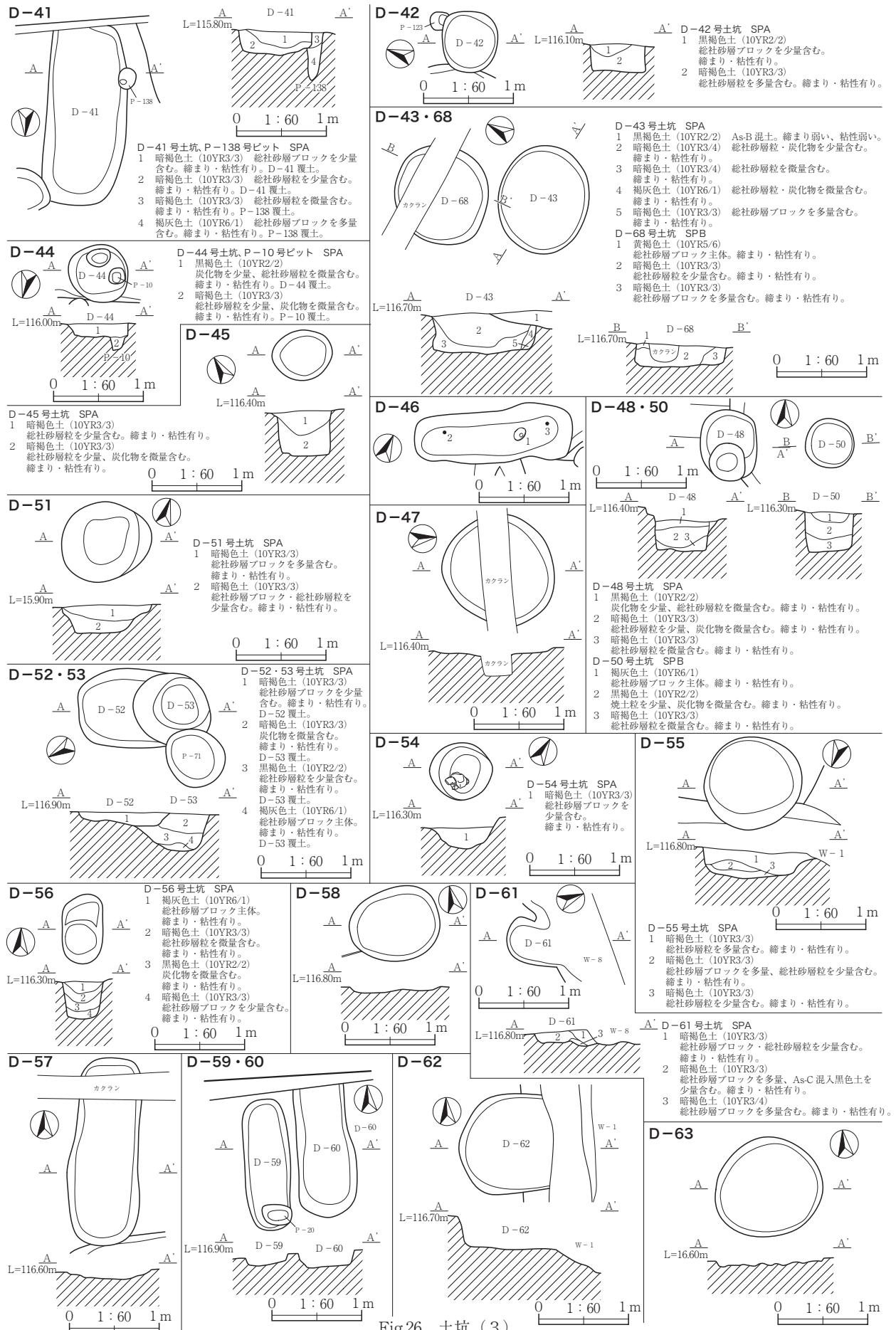


Fig.26 土坑 (3)

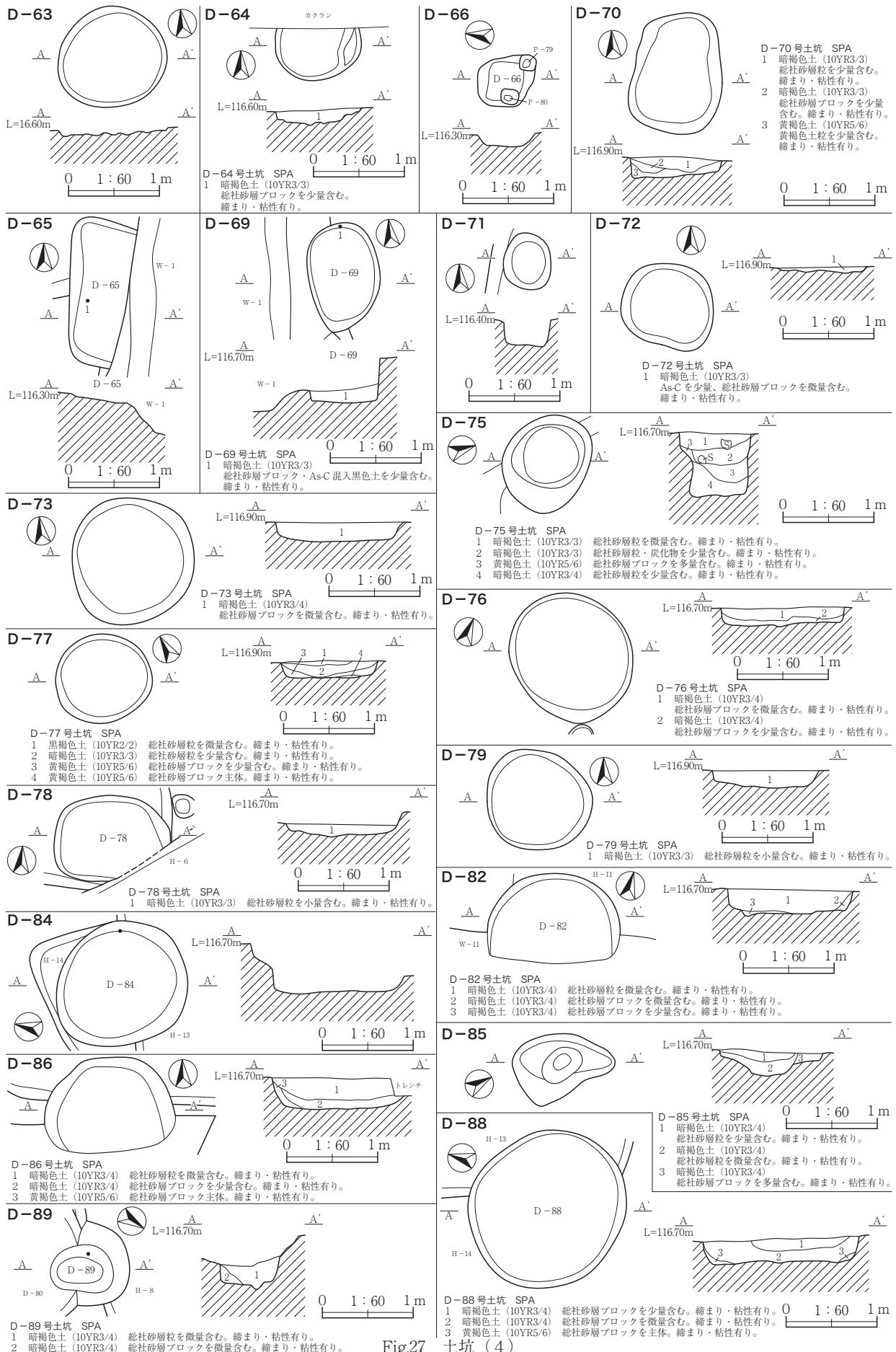


Fig.27

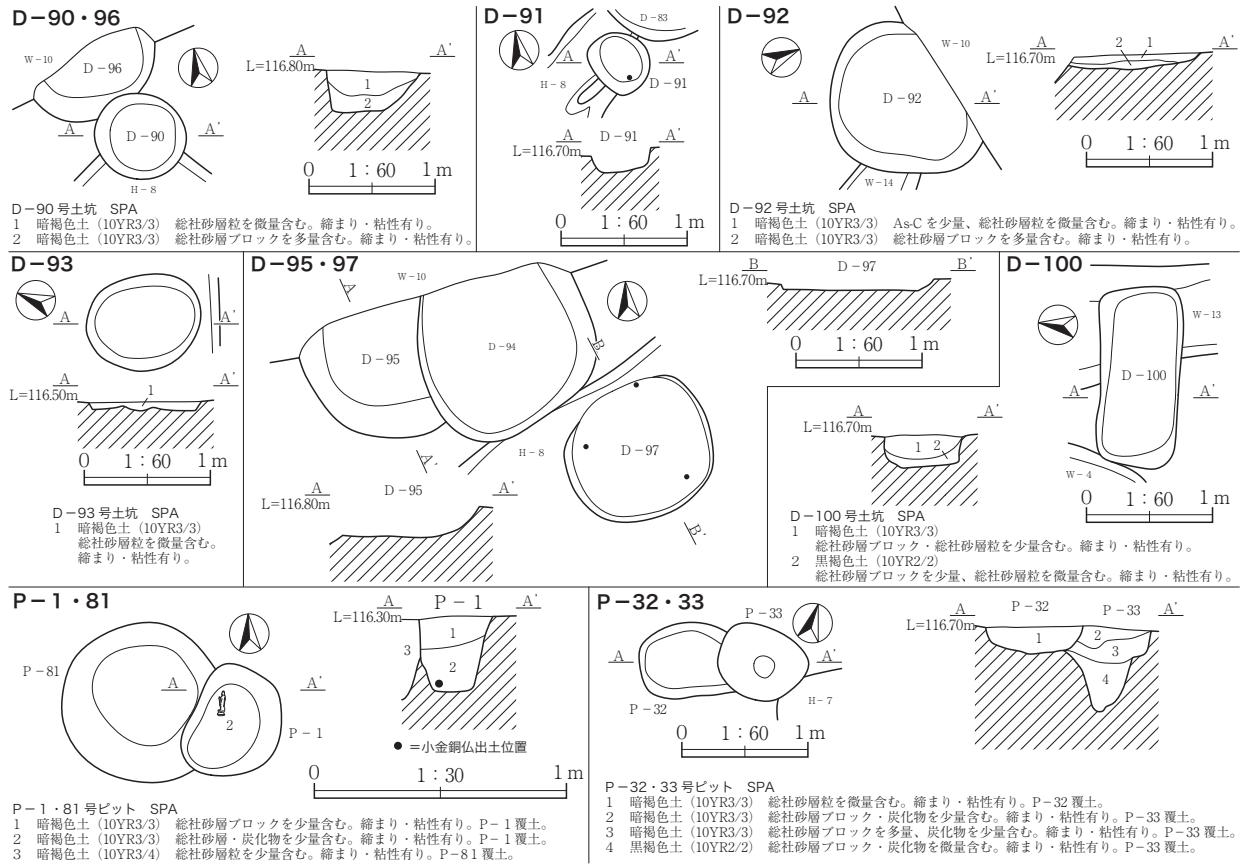


Fig.28 土坑 (5)、ピット

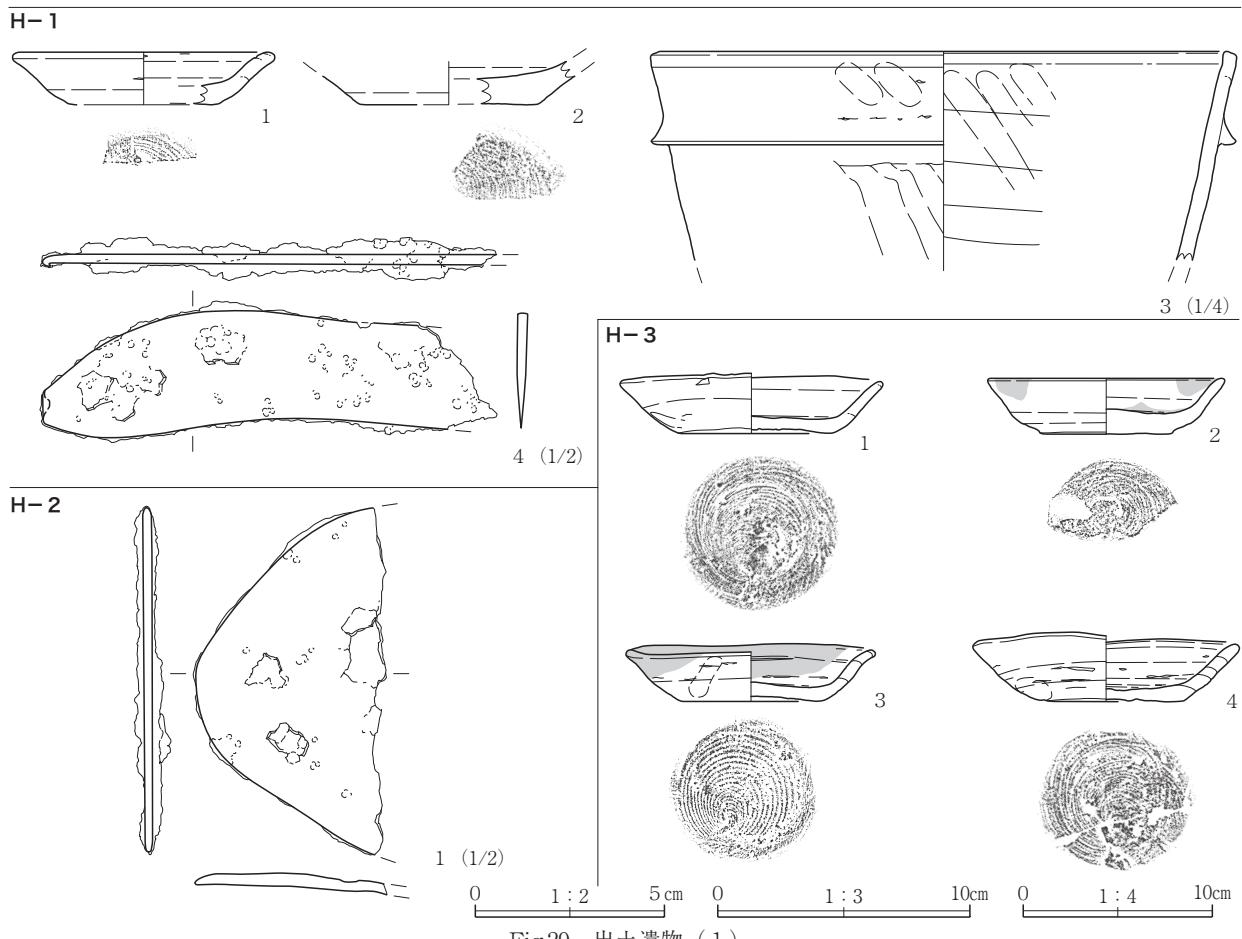
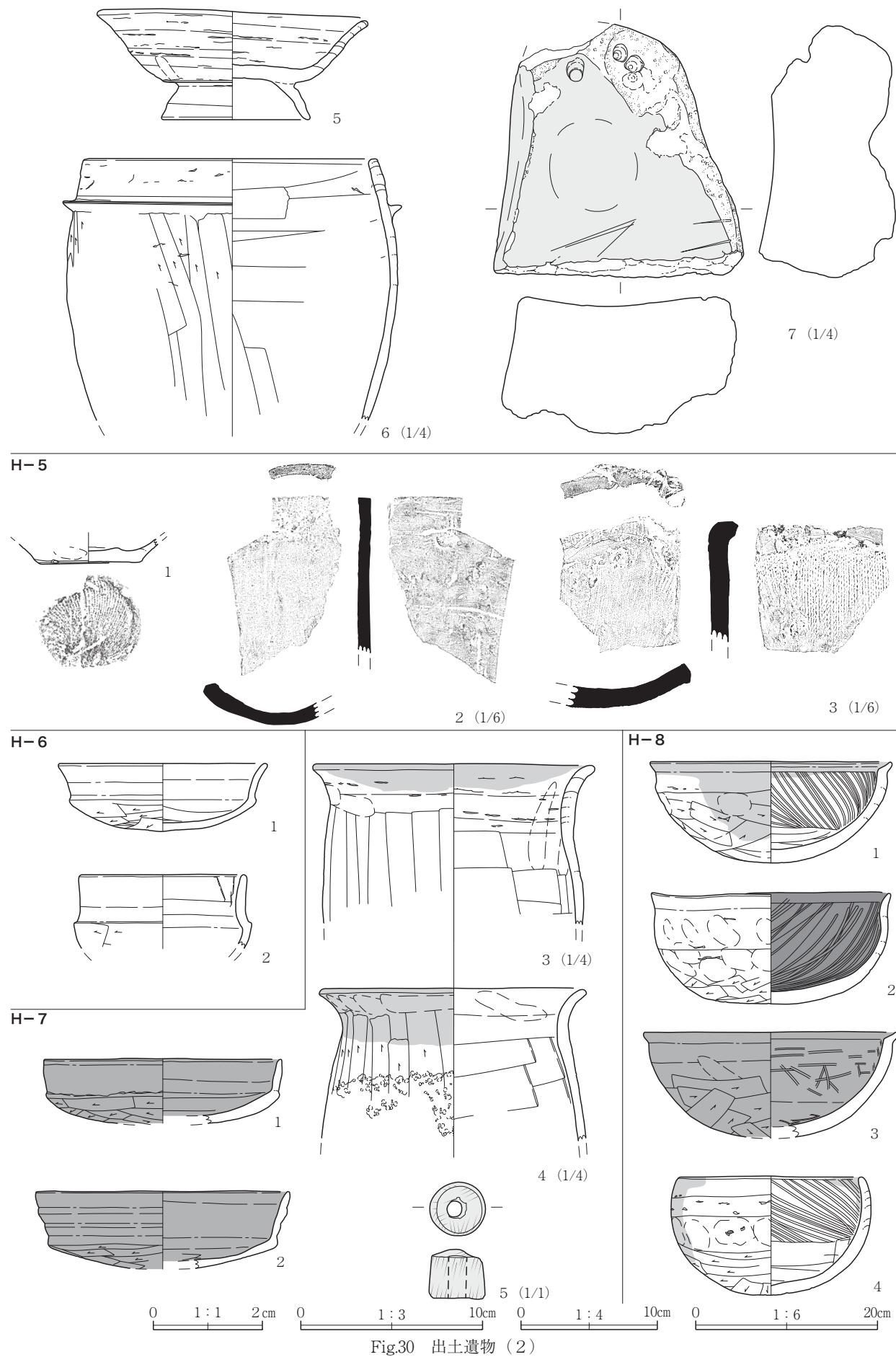


Fig.29 出土遺物 (1)



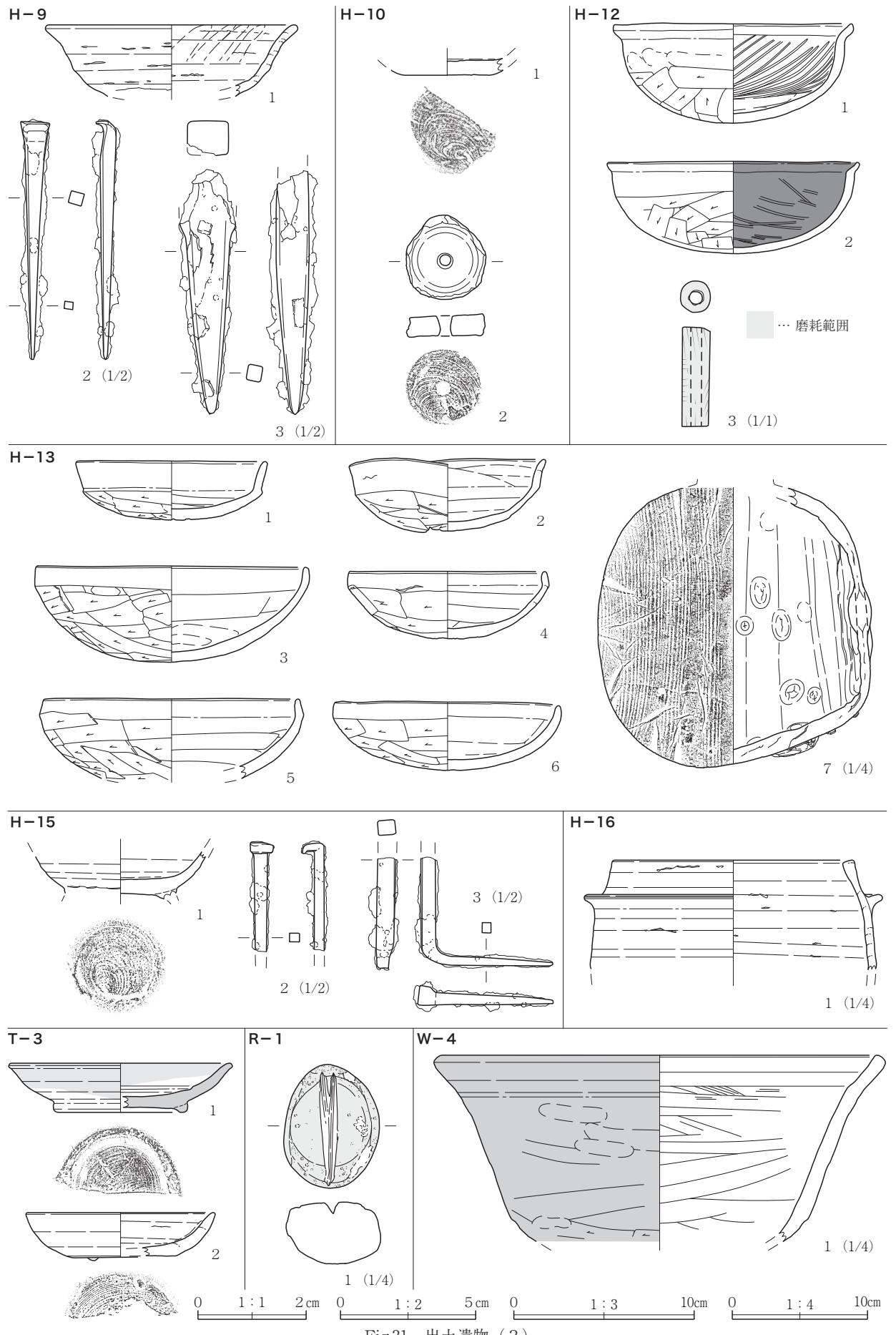


Fig.31 出土遺物 (3)

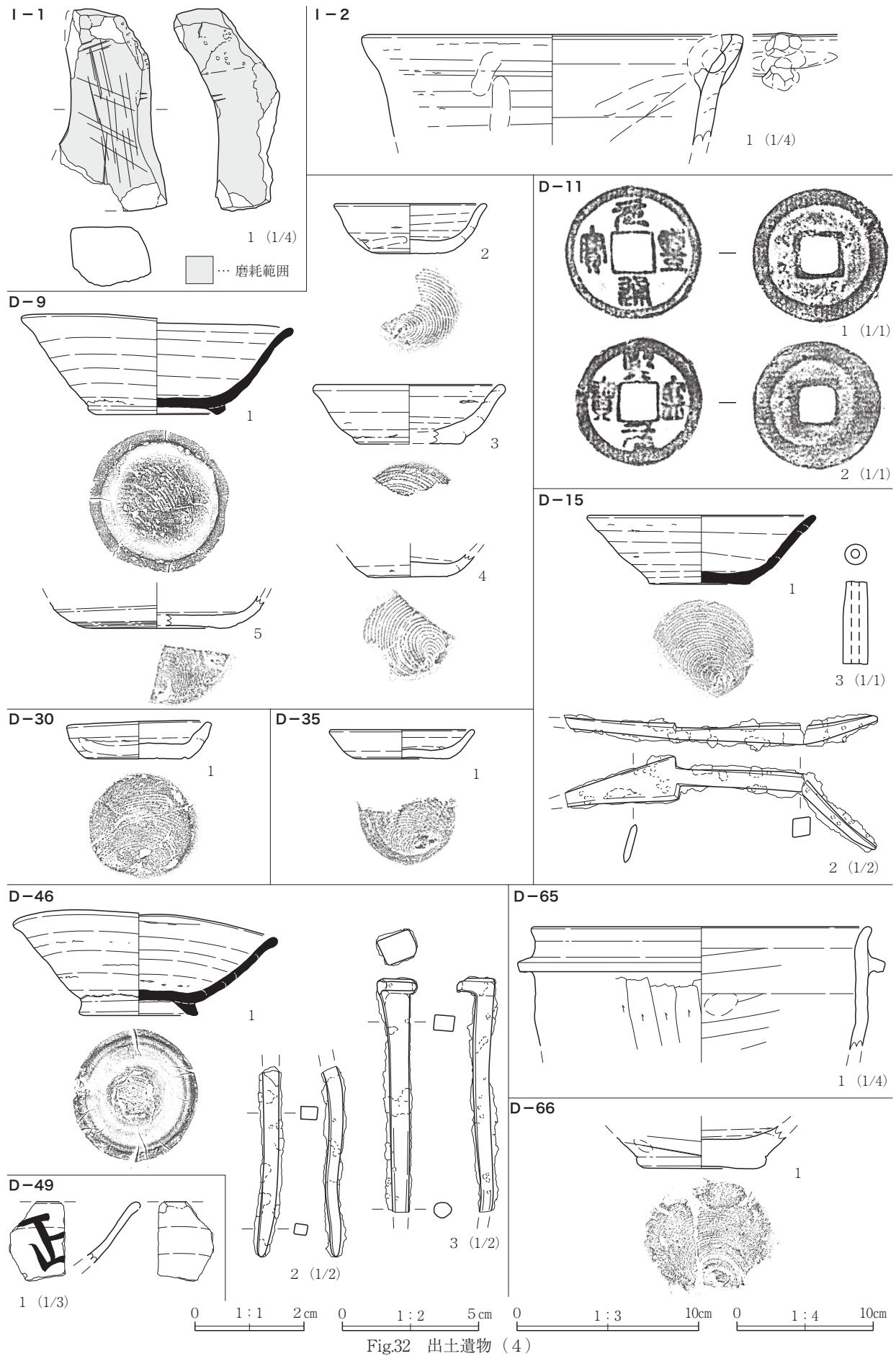
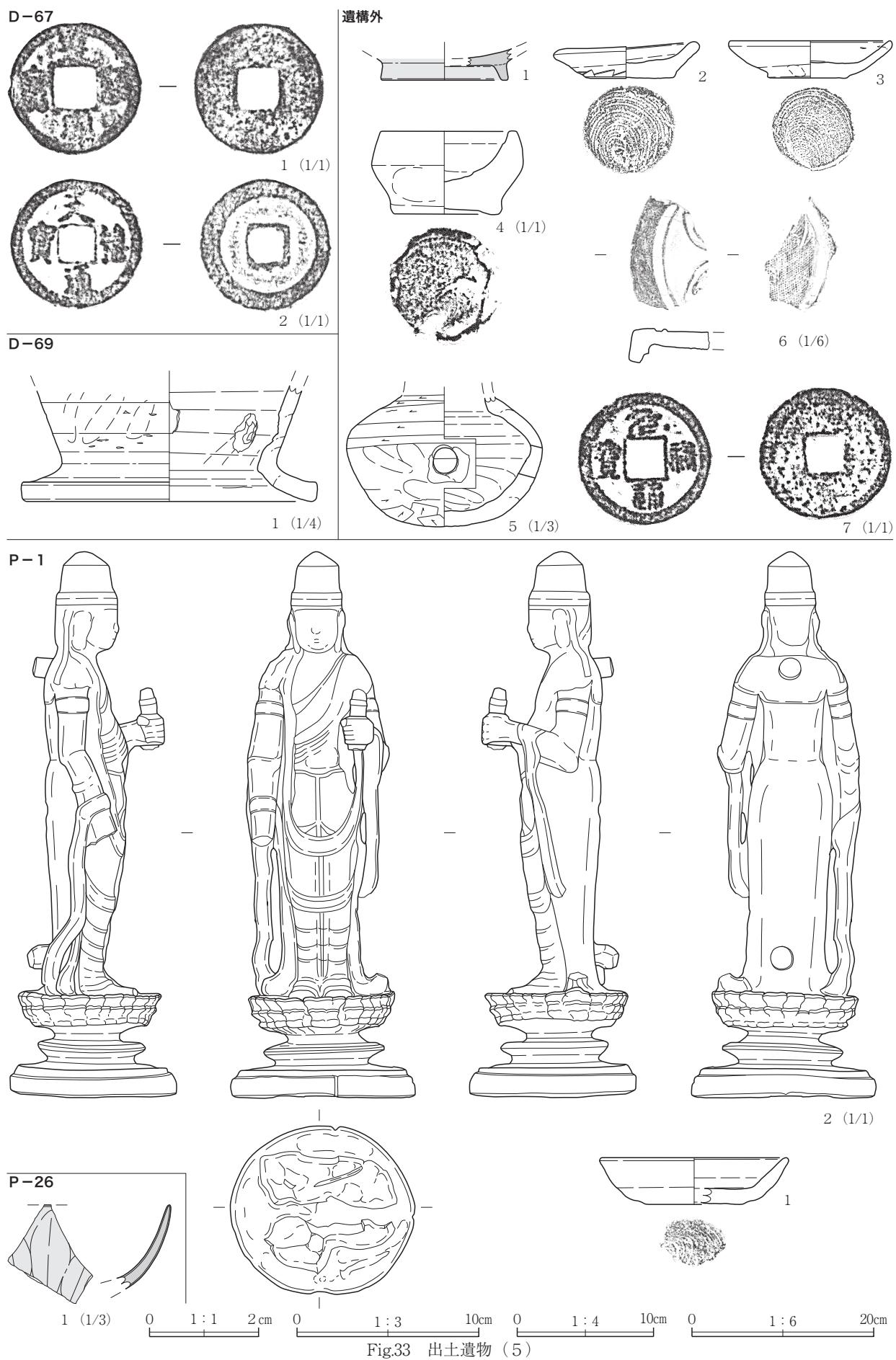


Fig.32 出土遺物 (4)



遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考	遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
P - 181	X274、Y157	0.28	(0.11)	0.25	方形		P - 221	X273、Y155	0.18	0.14	0.12	方形	
P - 182	X274、Y157	0.18	(0.09)	0.24	円形		P - 222	X273、Y155	0.28	0.22	0.23	方形	
P - 183	X274、Y157	0.22	0.17	0.11	方形		P - 223	X273、Y155	0.30	0.26	0.22	方形	
P - 184	X274、Y156	0.33	0.28	0.19	方形		P - 224	X273、Y155	0.24	0.22	0.41	方形	
P - 185	X274、Y156	0.22	0.19	0.12	方形		P - 225	X274、Y155	0.23	0.22	0.37	円形	
P - 186	X274、Y156	0.28	0.22	0.15	円形		P - 226	X274、Y155	0.23	0.21	0.58	方形	
P - 187	X274、Y156	0.24	(0.18)	0.17	円形		P - 227	X274、Y155	0.22	0.19	0.29	方形	
P - 188	X274、Y156	0.30	0.28	0.35	方形		P - 228	X273・274、Y156	0.38	0.35	0.65	方形	
P - 189	X274、Y156	0.30	0.20	0.25	楕円形		P - 229	X273、Y155・156	0.60	(0.51)	0.16	不整形	
P - 190	X274、Y156	0.28	0.25	0.30	円形		P - 230	X273、Y156	0.32	0.31	0.39	方形	
P - 191	X274、Y156	0.24	0.22	0.20	方形		P - 231	X273、Y156	0.27	0.23	0.45	方形	
P - 192	X274、Y156	0.31	0.26	0.16	方形		P - 232	X273、Y156	0.21	0.18	0.18	円形	
P - 193	X274、Y156	0.29	0.27	0.25	方形		P - 233	X274、Y156	0.24	0.21	0.11	円形	
P - 194	X274、Y155	0.32	0.29	0.60	円形		P - 234	X274、Y156	0.28	0.26	0.27	方形	
P - 195	X274、Y155	0.24	0.22	0.15	方形		P - 235	X273、Y156	0.23	0.20	0.24	円形	
P - 196	X274、Y155	0.28	0.26	0.42	方形		P - 236	X273、Y156	0.32	0.26	0.69	円形	
P - 197	X274、Y155	0.33	0.30	0.38	円形		P - 237	X272、Y156	0.32	0.26	0.25	方形	
P - 198	X274、Y155	0.36	0.30	0.41	円形		P - 238	X272、Y156	0.25	0.22	0.14	円形	
P - 199	X274、Y155	0.38	(0.34)	0.27	円形		P - 239	X272・273、Y156	0.21	0.17	0.15	方形	
P - 200	X274、Y155	0.25	0.22	0.45	方形		P - 240	X273、Y156	0.28	0.22	0.07	円形	
P - 201	X274、Y155	0.23	0.20	0.21	円形		P - 241	X273、Y156	0.26	(0.23)	0.03	円形	
P - 202	X274、Y154	0.25	0.23	0.19	方形		P - 242	X273、Y156	0.21	(0.17)	0.04	円形	
P - 203	X274、Y154	0.24	0.21	0.24	方形		P - 243	X273、Y156	0.27	0.24	0.19	円形	
P - 204	X274、Y154	0.21	0.17	0.10	方形		P - 244	X273、Y156	0.28	0.28	0.54	円形	
P - 205	X274、Y154	0.37	0.28	0.51	方形		P - 245	X273、Y157	0.21	0.19	0.18	方形	
P - 206	X274、Y154	0.24	0.19	0.58	方形		P - 246	X273、Y156	0.18	0.18	0.12	方形	
P - 207	X274、Y154	0.21	0.18	0.54	円形		P - 247	X274、Y157	0.29	0.23	0.35	方形	
P - 208	X273、Y154	0.25	0.21	0.47	方形		P - 248	X274、Y156・157	0.27	0.23	0.15	方形	
P - 209	X273・274、Y155	0.22	0.19	0.29	楕円形		P - 249	X273・274、Y157	0.44	(0.20)	0.22	楕円形	
P - 210	X273・274、Y155	0.16	0.14	0.25	楕円形		P - 250	X273、Y157	0.27	0.23	0.23	方形	
P - 211	X273、Y155	0.22	0.18	0.28	方形		P - 251	X273、Y157	0.21	(0.20)	0.23	方形	
P - 212	X273、Y154	0.22	0.21	0.20	方形		P - 252	X273、Y157	0.35	0.24	0.24	方形	
P - 213	X273、Y154	0.22	(0.14)	0.07	円形		P - 253	X273、Y158	0.22	0.20	0.15	円形	
P - 214	X273、Y154	0.25	0.22	0.12	円形		P - 254	X273、Y158	0.21	0.18	0.45	円形	
P - 215	X273、Y154	0.34	0.31	0.20	方形		P - 255	X273、Y158	0.21	(0.21)	0.13	方形	
P - 216	X273、Y154	0.41	0.40	0.82	円形		P - 256	X273、Y156	0.32	0.28	0.37	円形	
P - 217	X273、Y155	0.38	0.35	0.69	円形		P - 257	X272、Y156	0.32	0.24	0.24	方形	
P - 218	X273、Y155	0.32	0.27	0.49	方形		P - 258	X275、Y157	0.33	(0.20)	0.43	方形	
P - 219	X273、Y155	0.47	0.33	0.64	楕円形		P - 259	X275、Y158	0.23	0.21	0.34	方形	
P - 220	X273、Y155	0.30	0.29	0.51	方形								

VI まとめ

1 遺跡の概観

本遺跡で検出された住居跡は5世紀後半から11世紀前半までの計17軒である。H-1・2を除くそのほとんどの住居跡が調査区東側に集中する。調査区西側は牛池川の崖線にあたり、この影響を大きく受けていると考えられる。また本遺跡では8世紀代の住居跡が確認されていない。隣接する遺跡でも同様の傾向にあることから、本遺跡の西方向に推定される国府の存在に影響されていることは想像に難くない。

牛池川崖線では総社砂層の採掘が行われる。採掘坑は牛池川沿いの遺跡で多く見られ、直近では本遺跡北側の元総社蒼海遺跡群（9）（10）W-1の斜面部で確認（10世紀以降と推定）されている。採掘はT-3との重複関係から10世紀以前から開始されたと推測される。牛池川へと下る斜面部に平場を作り出した堅穴状遺構（T-1～3）はカマドが存在しない、土器の出土量が極めて少ないと考えられる。採掘場としての役割を終えたこの場所は、集落からやや離れて人目に付かないことから墓域として使用されたと考えられる。土壙墓であるD-67のみで覆土中にAs-Bの堆積がみとめられ、他の土壙墓では確認されていないため、12世紀以降は墓域として使用されなくなったと想定される。

中世になると牛池川崖線に柱穴が集中して分布し、建物・柵等の施設が想定される。調査区中央から東側の溝・堀跡は屋敷地を区画する堀と想定され、この堀や井戸から15世紀代の内耳土器が出土している。本遺跡の東側に位置する閑泉樋南遺跡では本遺跡W-10・11の東側延長部分と考えられる溝（1号溝）が検出され、溝からは内耳土器・銅錢（14世紀か）が出土している。本遺跡周辺には蒼海城時代に存在した屋敷が存在していた可能性が考えられる。

2 小金銅仏⁽¹⁾

小金銅仏の特徴

総高10.0cm、像高8.2cm、台座高1.8cm、重さ144.4g。鋳銅一鑄。湯口は框座（台座）裏、前後合わせ型を用いて造像されたと考えられる。光背と右手先、左手から垂れ下がる天衣と持物の一部が欠損している。姿勢（側面形）は直立している。

頭には宝冠を被り、頭頂部は山状に膨らむ。額には鉢巻のように天冠台を2段に造る。頭上には化仏はみられない。顔の表現は明瞭ではないが、僅かに残る鼻・口元や全体の様相からやわらかい表情の印象を受ける。両耳の表現も明瞭ではないが、耳たぶが首元まで及んでいる。両耳の後ろには垂髪が肩まで垂れ下がる。

左手は肘を曲げ、持物を掲ぐ様に表現されている。持物は上部に膨らみを持つ。掲手より下は欠損していると考えられる。持物自体は棒状を呈しており杖や水瓶・独鈷杵等が想定されるが、杖であれば足元の蓮肉に欠損した痕跡が残ると考えられるが確認できず。水瓶は注ぎ口の形状がやや異なるため違うであろうし、独鈷杵にしても同様である。持物の種類に関しては今後検討しなければならない。右手は体に沿って垂下し、手首より先は欠損している。左右上腕には臂釧（腕輪）とみられる膨らみがみられる。

上半身には衲衣を左肩のみに覆い、右肩を肩脱ぎにしている（偏袒右肩）。腹部はやや膨らみ、衣文線（衣装ひだ表現）が表現されている。衲衣の上には天衣（ショールのようなもの）がかけられている。天衣は両肩にまわし、両端を前面に垂らす。垂れ下げられた衣は膝上で並行するように弧をつくり、両前腕部にかけられ外側から蓮華座へと垂れ下げる。左側は一部欠損。背中には両肩にかかる天衣が表現されている。腰上がやや括れる。光背を支持するための柄が背中上位とふくらはぎの部分の2箇所に鋳出されている。腰には石帶（腰紐）が巻かれ、股下から足元まで紐が垂れ下がる。腰より下は裳で包まれ、垂れ下がる衣文線が表現されている。裾は

足の甲半ばを覆い、両足は揃っている。

台座上部には蓮華座を設け、連弁は三重の葺き寄せとしている。蓮華座の下には円盤状の意匠（花盤）が、最下段には円形二段の框座が付く。框座正面に縦方向の傷が見られる。

以上の特徴から平安時代の小金銅仏であると考えられる。

像名について

姿形・特徴から観音菩薩立像に分類されると推測されるが、菩薩であれば頭に化仏（本地仏を示すために頭上に置く小型の仏像）を配するのが常である。しかし本像には化仏の表現が見られない。⁽²⁾菩薩ではなく天部である可能性も考えられる。⁽³⁾

小金銅仏の出土状況

P-1の覆土は上下2層に分けることができ、暗褐色土に総社砂層ブロックを少量含む土層を基本としている。小金銅仏が出土した下層は炭化物粒を含んでおり、小金銅仏の周囲にも炭化物が散っている事が確認できる（巻頭図版2参照）。共伴する須恵器壺も2層土から出土している。小金銅仏は頭を北に向け、うつ伏せの状態で確認された。

小金銅仏が出土している他遺跡の事例をいくつか挙げてみたい。常見遺跡（栃木県足利市）の11号住居跡（9世紀第2・3四半期）は焼失家屋として確認されており、この住居跡内から小型仏像（銅造如来立像）が出土している。小型仏像以外の出土遺物は土器の小破片のみと生活の痕跡が少ない。このことから住居使用中に火災に遭って逃げる→仏像を運び出す間がなく残されたのではなく、計画的に住居跡を廃絶するための祭祀的な意味で仏像を安置（埋納）し住居と一緒に燃やした可能性が高いと報告されている（足利市1998）。住居の廃絶行為に際して安置（埋納）された仏像と考えられる。

下り松遺跡（茨城県結城市）の第28A号住居跡（9世紀末）からは西壁際中央から2体の小金銅仏（地蔵菩薩立像、聖觀音菩薩立像）が共に仰向けの状態で並んで出土している（茨城県1999）。2体横並びに出土している状況から、流れ込み・廃棄ではなく人為的な行為→安置（埋納）されたと考えられる。住居跡廃絶に伴う祭祀行為ではないかと推測されている。

くるま橋遺跡（栃木県真岡市）SI-1（竪穴建物跡、10世紀代）の南西壁付近の覆土中から銅造鍍金阿弥陀如来坐像が出土している。仏像が出土した土層が人為的な埋め戻しによる可能性が高いことから、竪穴建物廃絶に伴う祭祀に関連して安置（埋納）された可能性が高いと指摘している。

本遺跡から北へ約200mに位置する元総社蒼海遺跡群（91）でも小金銅仏が確認されている。3号竪穴住居跡（10世紀後半から11世紀前半）の北壁やや西よりの床面から、頭は西に正面は住居内へと向け横たわる状態で小金銅仏（地蔵菩薩立像）が出土している。住居跡壁際から出土している点は前述の下り松遺跡と共通する。焼失等の廃絶行為の痕跡は確認されていないが、床面直上出土の点から安置（埋納）されたものと推測される。

以上のことと踏まえて本遺跡の出土状況について検討を加えてみたい。本遺跡はピットから出土しているため他遺跡の事例（住居跡からの出土）とはやや状況が異なる。出土状態でみると、うつ伏せの状態で出土している

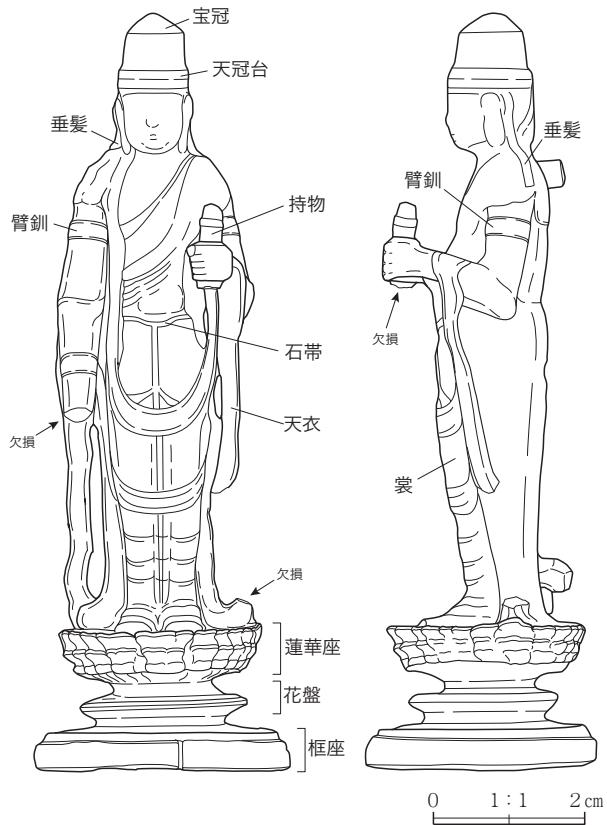


Fig.34 小金銅仏部位名称

事は仰向けとの違いはあれど、横たわせているという点から共通項が見出せる。出土位置はピット底面に近い高さである（Fig.28）。ピット下層にあたる2層土に炭化物粒が含まれ（周囲のピットでは確認できなかった）、薄い炭化物層の上に仏像を伏せていたような人為的な行為が想像されることから、本遺跡の小金銅仏も安置（埋納）された可能性が高いと考えられる。何に対しての安置（埋納）行為なのであろうか。安直に考えればP-1に関連する建物の廃絶行為が連想される。P-1の周囲にはピットが多数確認されているものの、柱穴の組み合わせがうまくいかず、建物跡の想定には至っていない。行為の対象については今後の検討課題となる。

小金銅仏ではないが同じ仏教関連遺物の出土事例として近隣の遺跡を2つ紹介したい。元総社蒼海遺跡群（137）2区のD-8（0.69m×0.68m深さ0.61mの土坑）からは五花鏡1面・素文鏡1面・鉄鈴・鉄鐸・銅滓・雁又鎌が出土している。土層断面の観察や出土状況（鏡2点と鉄鐸はまとまって出土）から意図的に埋納されたと考えられている。遺構年代は10世紀後半から11世紀初頭としている。遺構規模の大小はあるが遺構の形状や出土位置等、本遺跡P-1と類似する点が多い。

本遺跡から北西約400mに位置する元総社蒼海遺跡群（75街区）No.2では7世紀から11世紀にかけての集落跡が確認されており、10世紀初頭とされるH-7号住居跡は鋳造遺構を伴う工房跡として調査されている。工房内からは小金銅仏（4点）、三鈷杵（2点）、銅印（1点）の鋳型が出土している。小金銅仏は総高5cm前後を測る。元総社地域において小金銅仏の鋳造が行われていたことを示す重要な調査成果である。本遺跡出土の金銅仏も元総社地域で造像されたのであろうか。

共伴する須恵器坏

小金銅仏と共に伴する須恵器坏の年代について考えてみたい。この坏は仏像と同じ土層（2層）から出土しており、口径[10.4]cm、底径[5.0]cm、器高2.7cmを測る酸化焰焼成の小型・扁平の坏、いわゆる「かわらけ状の坏」である。本遺跡の南西2kmに位置する鳥羽遺跡では4世紀から11世紀までの出土遺物を25段階に時期区分している。その中で11世紀第2四半期としている23段階の須恵器坏は口径10cm前後・器高3cm程度の小型品としている。24段階（11世紀第3四半期）では口径9cm・器高2.5cm、口径10～11cm・器高2.5cm、口径8～10cm・器高1.5～2.0cmの3種類に分類している。本遺跡の須恵器坏をこの分類にあてはめると、口径は両段階とも差があまり見られないが、器高は2.7cmで23段階から24段階へと移行する中間にあたる。ここでは前段階の範疇と考え、出土した須恵器坏を11世紀前半の所産と想定する。小金銅仏についても同様の年代を与えることができる。

おわりに

以上、本遺跡出土小金銅仏について検討を行った。本報告においては小金銅仏本体はその様相から銅造觀音菩薩立像とし、年代については共伴する須恵器坏の年代から11世紀前半頃と位置付け、出土状況については何らかの行為（地鎮等）に対して安置（埋納）された可能性が高いと指摘しておきたい。

註

1. 小金銅仏の特徴・出土事例については池田敏宏氏（公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター）からご教授を賜った。
2. 『甦る光彩 関東の出土金銅仏』（埼玉県博1993）に収録されている仏像において化仏を配さない菩薩立像もいくつかみられる。化仏の表現を簡略化しているのであろうか。
3. 池田氏からのご指摘である。

Tab. 8 群馬県内出土の金銅仏（奈良・平安）

番号	遺跡名・出土地	金銅仏名	総高(cm)	像高(cm)	重さ(g)	出土場所・備考
1	元総社蒼海遺跡群(145)	観音菩薩立像	10.0	8.2	144.4	P-1
2	関根細ヶ沢遺跡	観音菩薩立像	6.1	5.1	-	住居跡・三尊の左脇侍
3	元総社蒼海遺跡群(91)	地蔵菩薩立像	6.50	5.20	58.0	住居跡
4	山王廃寺	地蔵菩薩立像	7.20	6.18	112.6	推定南西回廊のやや南付近
5	巖山遺跡	地蔵菩薩立像	7.22	5.54	-	寺院跡の平坦面
6	旧吉井町片山	地蔵菩薩立像	5.59	4.47	-	所有者の畑内・20と共に発見
7	有馬条理II遺跡	地蔵菩薩立像	6.47	5.50	-	土坑
8	有馬条理II遺跡	天王立像	5.92	4.45	-	大溝
9	有馬条理遺跡	天部立像	5.90	5.30	43.1	遺構確認中
10	宇通遺跡	女神坐像	4.59	2.96	-	礎石建物範囲内・経軸が共伴
11	旧宮城村 白草廃寺	宝冠阿弥陀如来坐像	7.08	4.28	-	白草廃寺跡の範囲内
12	上野国分寺・尼寺中間地域	男神立像	5.28	4.81	31.6	住居跡に接する地点
13	八幡塚古墳(保渡田古墳群)	男神立像	8.30	7.61	-	八幡塚古墳
14	薬師塚古墳(保渡田古墳群)	菩薩半跏像	5.18	3.81	-	伝薬師塚古墳
15	剣崎稻荷塚遺跡	男神立像	7.10	6.6	65.4	住居跡・16と同一住居跡
16	剣崎稻荷塚遺跡	男神立像	6.20	5.6	58.2	住居跡・15と同一住居跡
17	宿大類町字村西遺跡	天王立像	5.31	-	-	大類城址
18	旧吉井町 神保古墳群	薬師如来立像	4.74	3.80	-	石室内
19	旧吉井町 辛科神社の北	天部立像	5.98	4.82	-	伝辛科神社の北
20	旧吉井町片山	如来立像	5.95	4.82	-	所有者の畑内・6と共に発見

(前橋市 2015) を一部改変

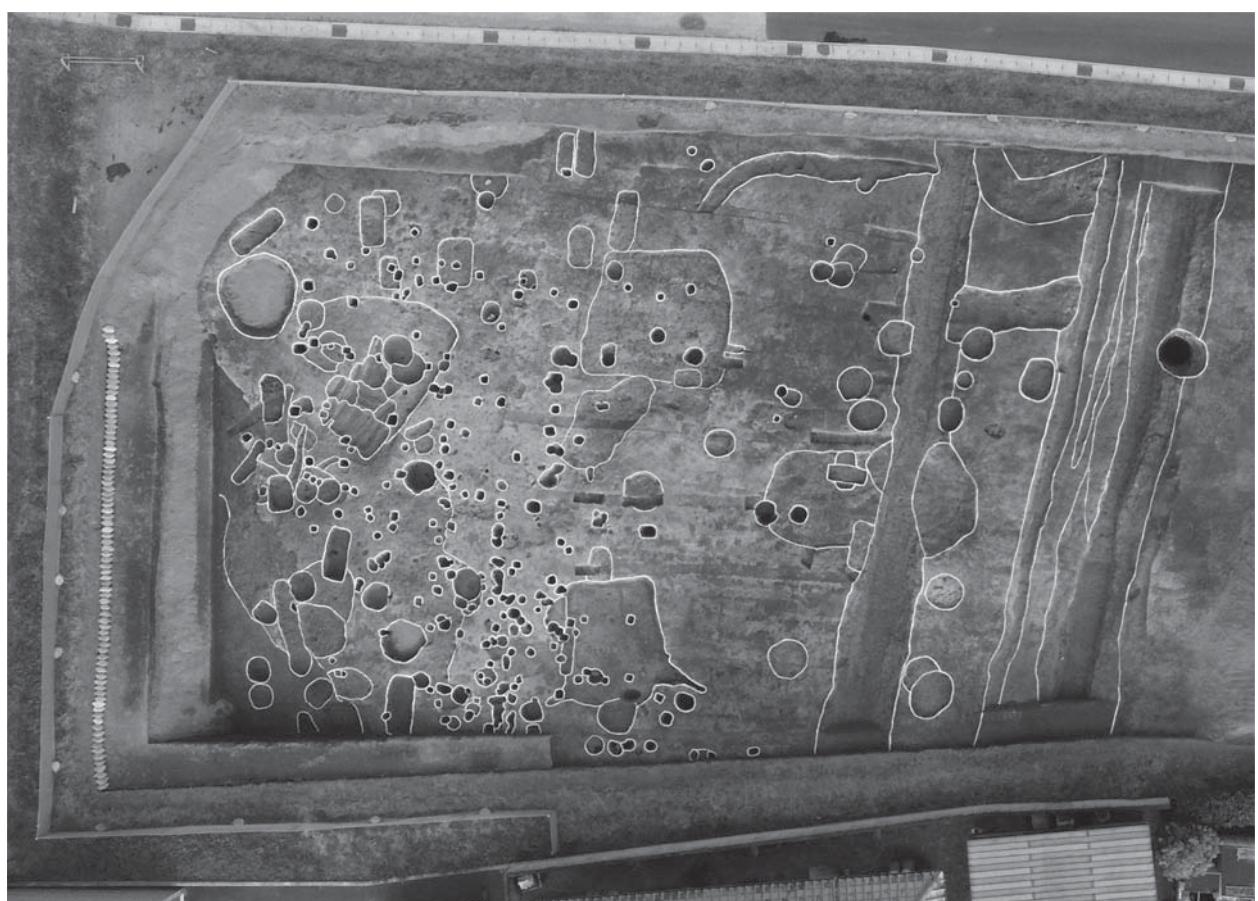
引用・参考文献

図録・書籍

- 西村公朝 1976 『仏像の再発見－鑑定への道』 吉川弘文館
 山崎一 1978 『群馬県古城塁址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
 鶴塚泰光 1987 『日本の美術』 金銅仏 至文堂
 埼玉県立博物館 1993 『甦る光彩 関東の出土金銅仏』
 真鍋俊照 2004 『日本仏像辞典』 吉川弘文館
 村田靖子 2004 『小金銅仏の魅力－中国・韓半島・日本－』 里分出版
 中村岳彦 2019 「横瓶の形式論敵検討～東海の窯跡出土資料を中心に～」『Mie history』 Vol.26 三重歴史文化研究会

発掘調査報告書

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 『閑泉桶南遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『鳥羽遺跡 I・J・K区』
 足利市教育委員会 1998 「2常見遺跡」『平成8年度 文化財保護年俸』
 (財)茨城県教育財団 1999 『下り松遺跡・油うち遺跡』 茨城県教育財団文化財調査報告書 145
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007 『元総社蒼海遺跡群(9)(10)』
 前橋市教育委員会 2015 『元総社蒼海遺跡群(91)(95)(102)』
 前橋市教育委員会 2016 『元総社蒼海遺跡群(100)(101)』
 前橋市教育委員会 2020 『元総社蒼海遺跡群(134)』
 前橋市教育委員会 2020 『元総社蒼海遺跡群(137)』
 前橋市教育委員会 2020 『元総社蒼海遺跡群(75街区)No.2』
 (公財)とちぎ未来づくり財団 2020 『くるま橋遺跡II』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 402集

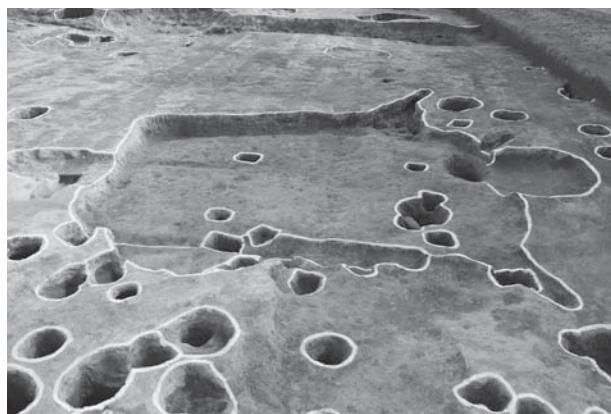


調査区西側全景（上が北）



調査区東側全景（上が北）

PL.2



H-1 全景（西から）



H-1 カマド1全景（西から）



H-1 カマド2全景（東から）



H-1 貯蔵穴全景（西から）



H-2 全景（西から）



H-3 全景（西から）



H-3 カマド全景（西から）



H-4 全景（東から）



H-4 カマド全景（東から）



H-5 全景（西から）



H-5 カマド全景（西から）



H-5 カマド遺物出土状況（西から）



H-6 全景（北東から）



H-7 全景（北東から）



H-7 掘り方全景（西から）



H-7 遺物出土状況（南から）



H - 7 カマド全景（南東から）



H - 7 貯蔵穴全景（北から）



H - 8 全景（西から）



H - 8 カマド全景（西から）



H - 9 全景（西から）



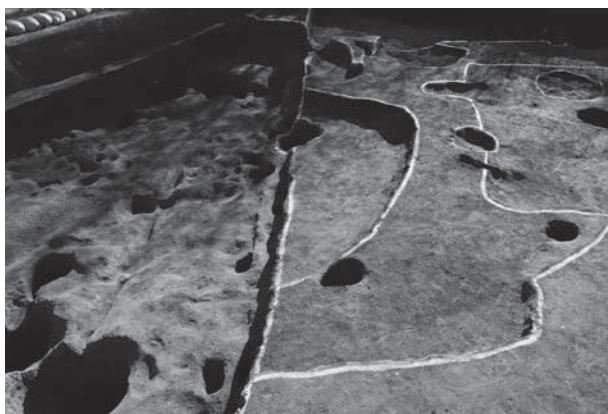
H - 10 全景（西から）



H - 10 カマド全景（南西から）



H - 11 全景（西から）



H-12全景（北から）



H-12カマド全景（北西から）



H-12カマド遺物出土状況（北から）



H-13全景（西から）



H-13カマド全景（西から）



H-14全景（西から）



H-15全景（西から）



H-16全景（北西から）

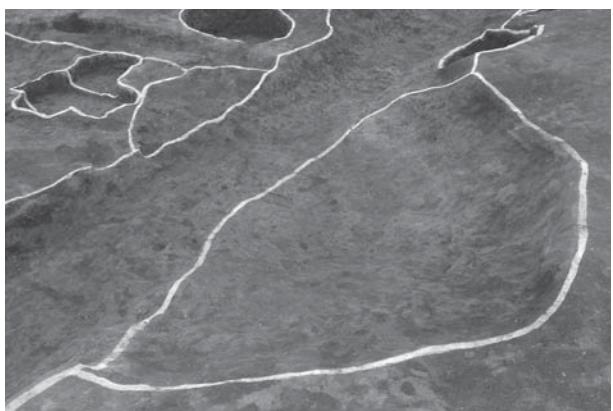
PL.6



T - 3 全景 (東から)



T - 4 全景 (西から)



T - 5 全景 (南から)



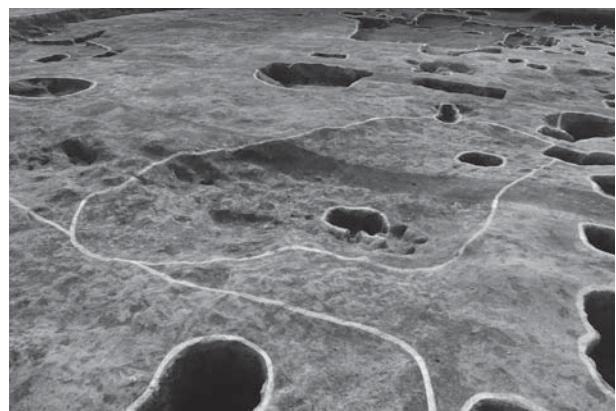
R - 1 全景 (南西から)



W - 10~14全景 (西から)



W - 1 ~ 5 · 7 · 9 全景 (北から)



W - 6 全景 (北から)



W - 8 全景 (西から)



I - 1 全景 (西から)



I - 2 全景 (西から)



I - 3 全景 (西から)



D - 9 全景 (東から)



D - 10 全景 (西から)



D - 11・12全景 (南西から)



D - 15全景 (東から)



D - 17全景 (北西から)



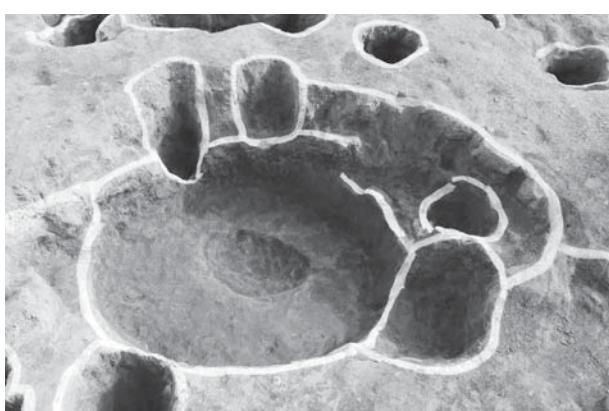
D - 20・35全景 (東から)



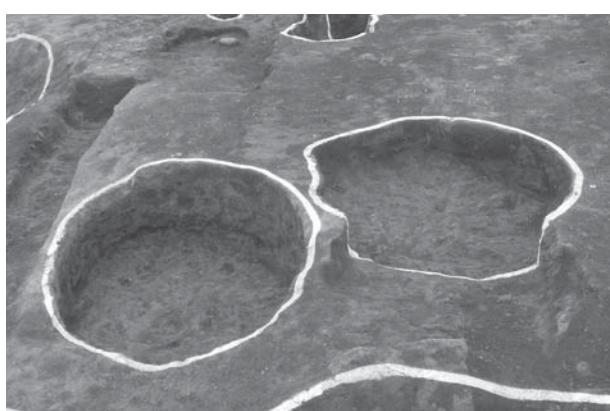
D - 26・49全景 (西から)



D - 30全景 (南西から)



D - 40・67全景 (東から)



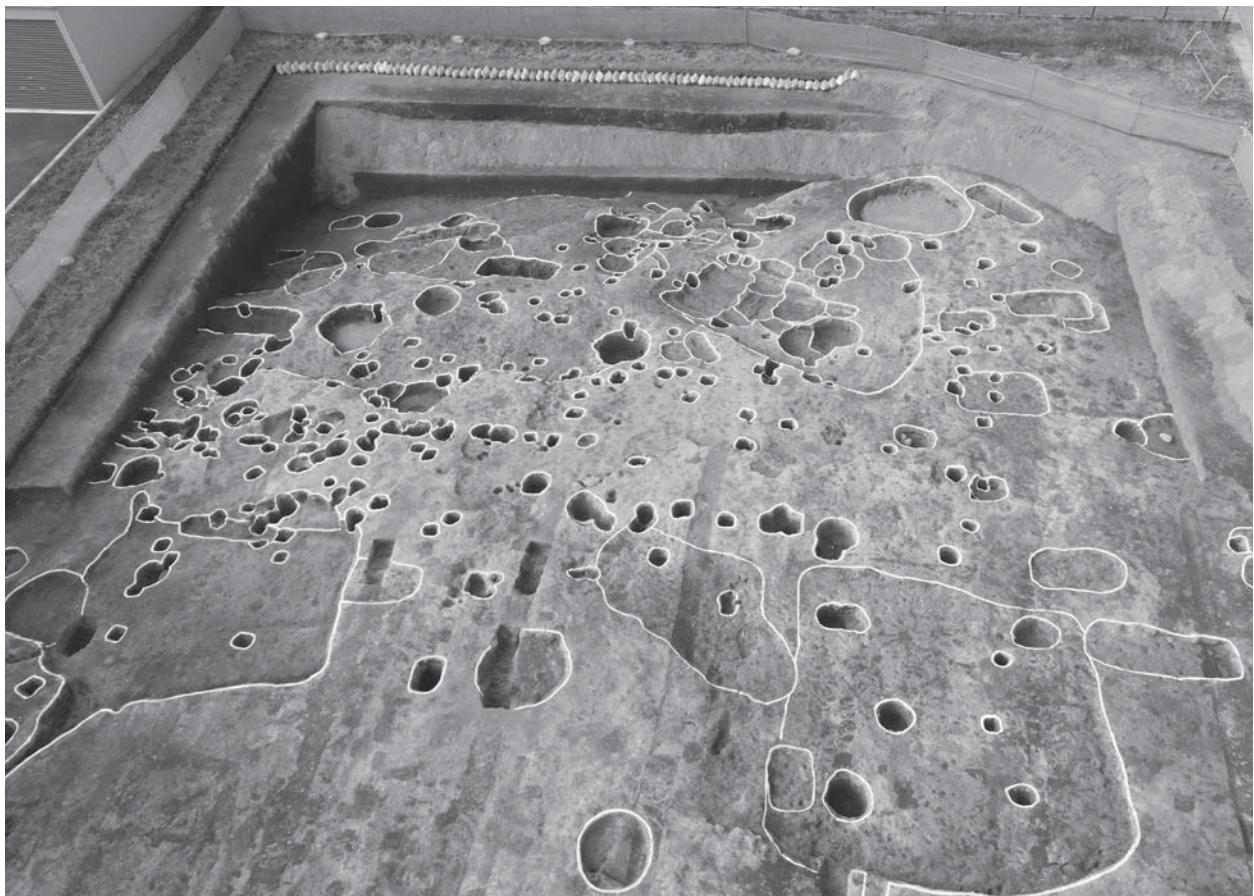
D - 43・68全景 (東から)



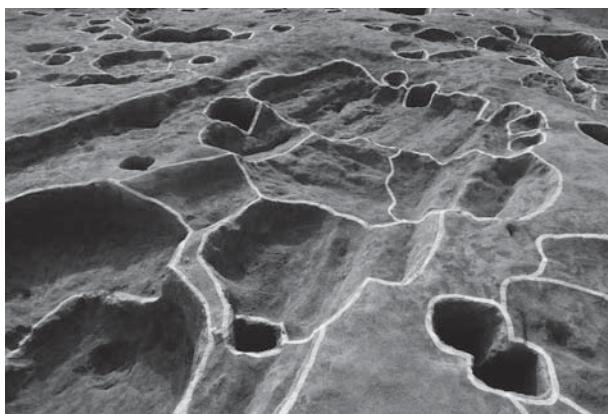
D-46全景（北西から）



D-75・76・82・98・99全景（西から）



ピット群全景（東から）

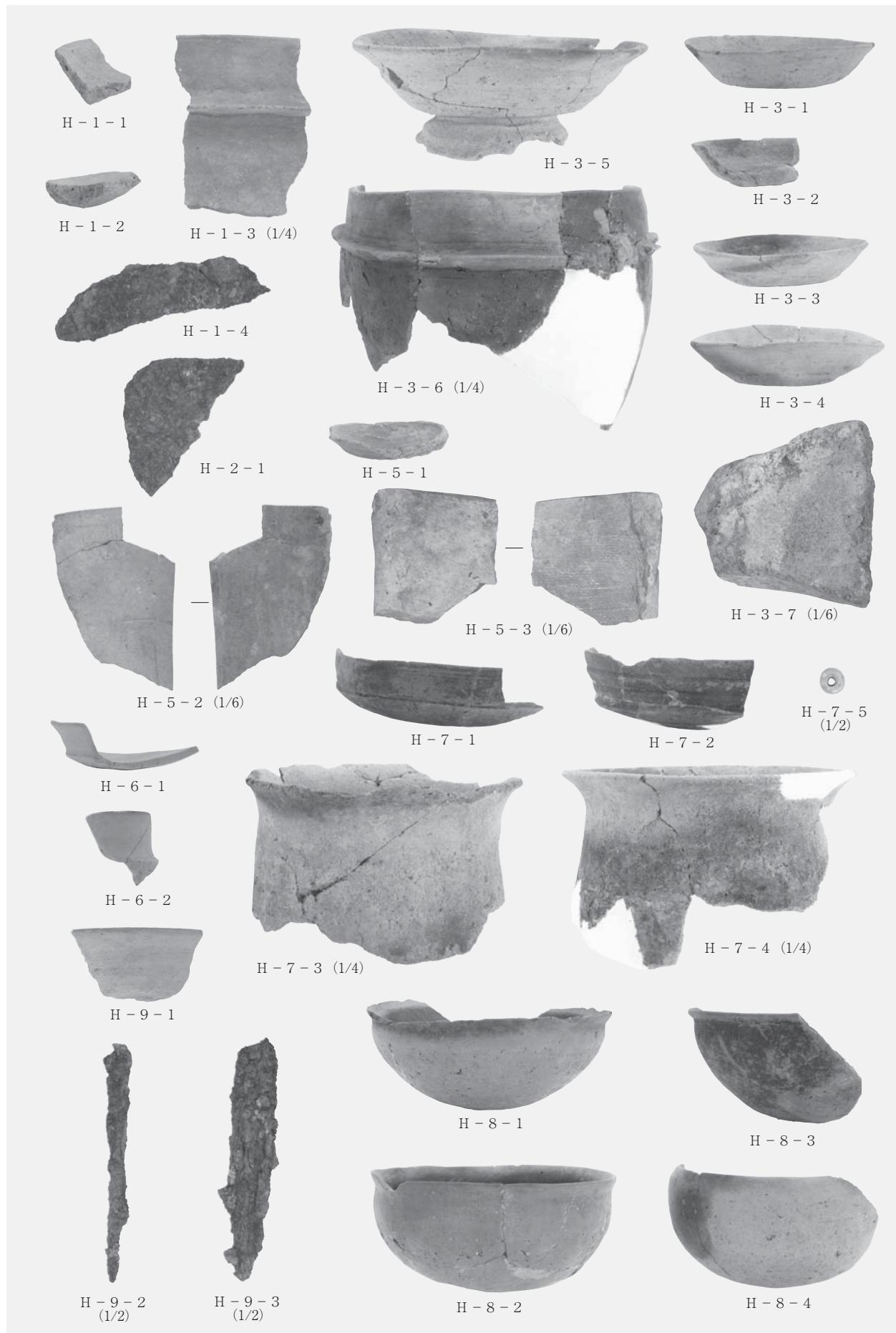


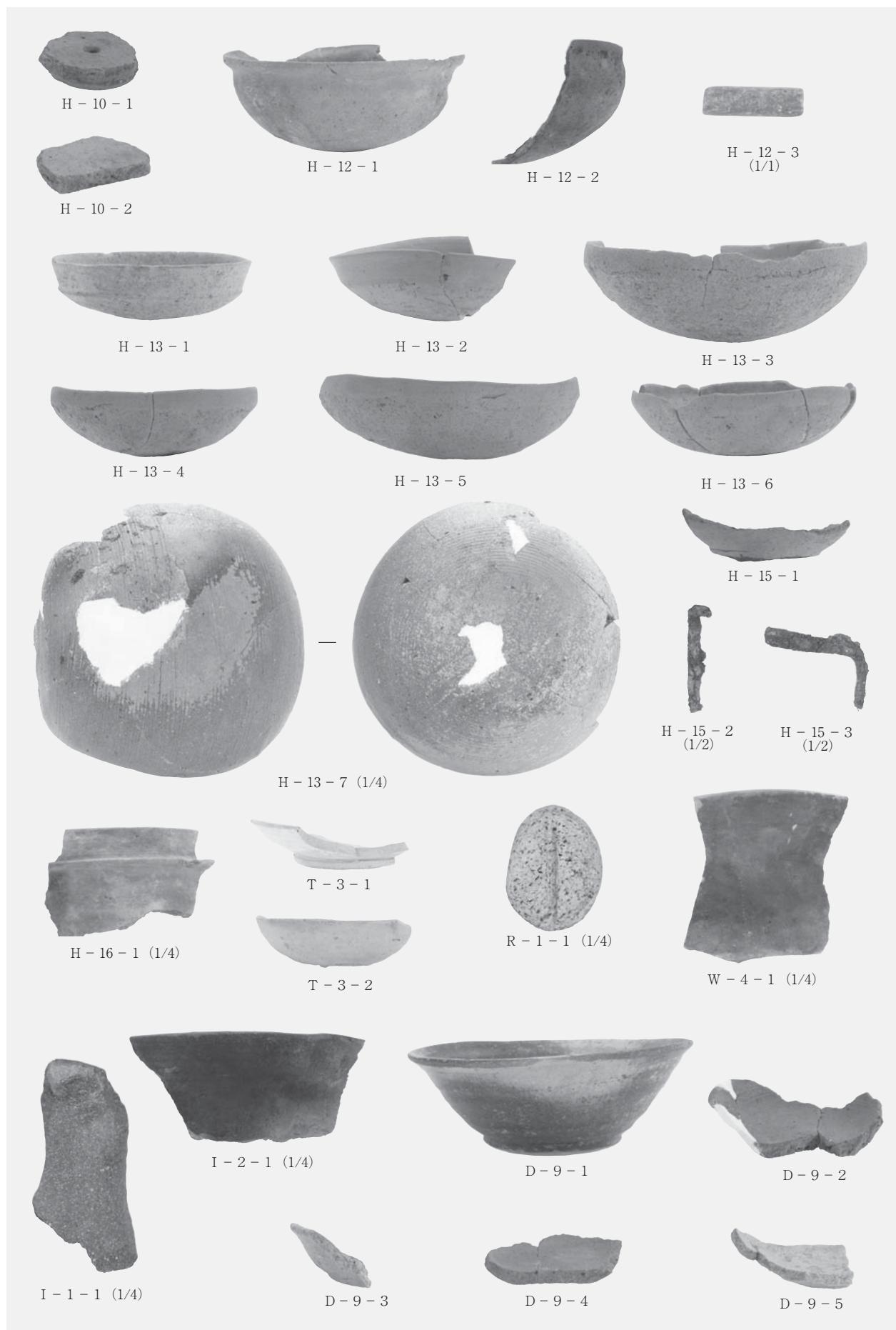
採掘坑跡全景（北から）



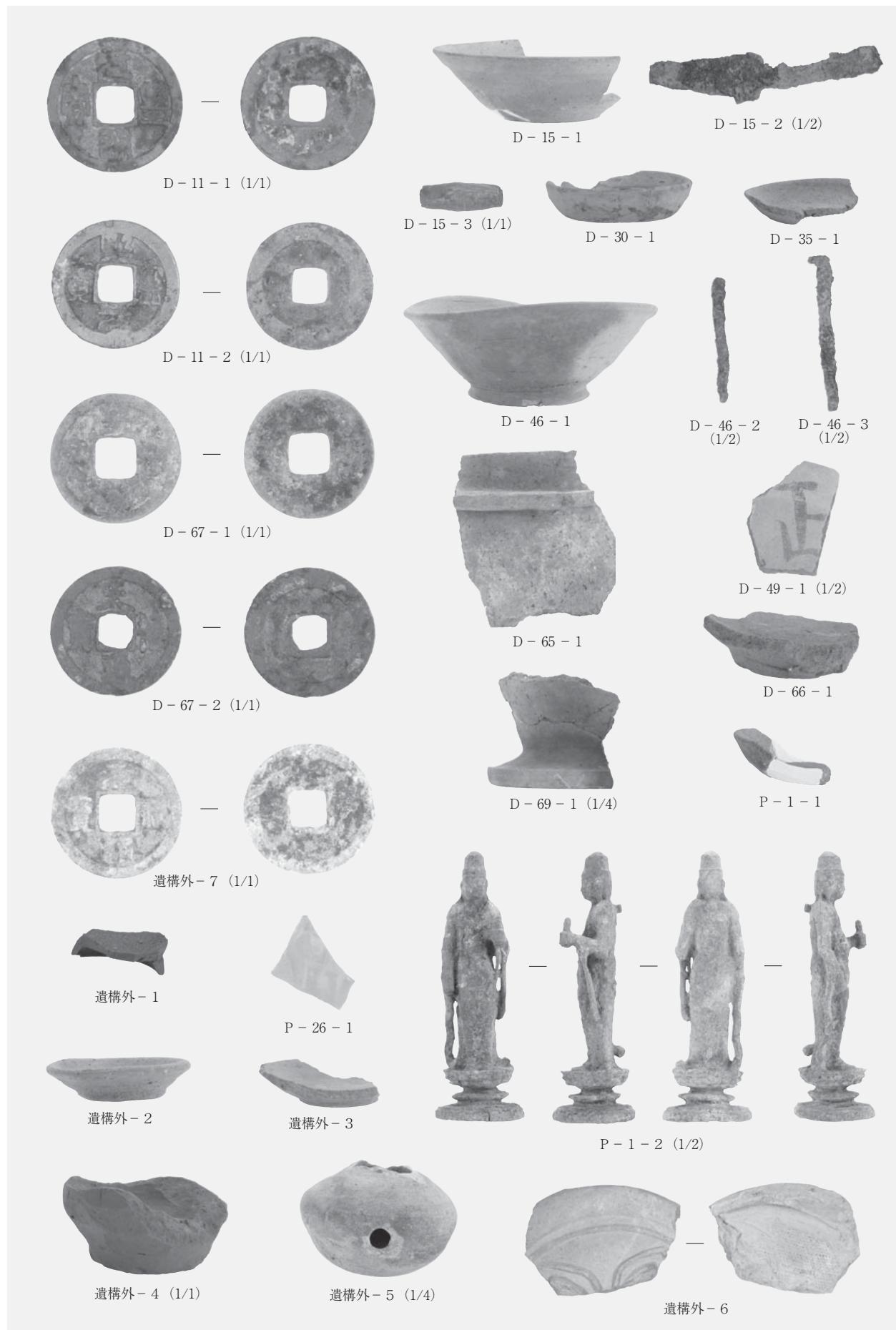
作業風景（南から）

PL.10





PL.12



報告書抄録

ふりかな	もとそうじやおうみいせきぐん (145)
書名	元総社蒼海遺跡群 (145)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番4
発行年月日	2021年3月24日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
もとそうじやおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群 (145)	ぐんまけんまえばししそうじやまちそうじや 群馬県前橋市総社町総社 3583、3587-1	102016	2A261	36°23'18"	139°2'28"	20201104 ～ 20201225	1,467m ²	前橋都市計画事業 元総社蒼海 土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
もとそうじやおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群 (145)	集落 その他	古墳 奈良 平安 中世	住居跡 豎穴状遺構 溝・堀跡 井戸 土坑 ピット	17軒 5基 14条 3基 100基 259基	土師器 須恵器 灰釉陶器 綠釉陶器 瓦 鉄製品 銅錢 小金銅仏 石製品	・5～11世紀代の集落跡 ・牛池川の崖線付近に土壙墓群 ・小金銅仏（11世紀前半頃）が出土

元総社蒼海遺跡群 (145)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021年3月23日 印刷
2021年3月24日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番4

TEL 027-280-6511

編集
印刷

技研コンサル株式会社
朝日印刷工業株式会社

